



14
708



始



立博士述 (非賣品)

戰時國際公法 完

大正九年度中大講義

(行印社信文)

14-708



立博士述 (非賣品)

戰時國際公法

完

大正九年度中大講義



第十二章

講和條約

第一部

陸戰法規

第一章

陸戰ニ於ケル敵人ニ對スル害敵手段

第二章

陸戰ニ於ケル停戦

第三章

陸戰ニ於ケル傷者病者ノ救護及軍隊衛生上ノ破閑

第四章

陸戰ニ於ケル突撃攻圍及砲撃

第五章

陸戰ニ於ケル奇計

第六章

陸戰ニ於ケル間諜及戰時叛逆ノ利用

第七章

敵國領土ノ占領

第八章

陸上ニ於ケル敵國公有財産ノ没収及
使用

第九章

陸上ニ於ケル敵國私有財産ノ没収及
使用

第十章

陸上ニ於ケル取立金及徴募

一一二

一一二

一一〇

一四二

一五三

一五八

一六三

一六七

一七八

一八二

一八七

第十一章

陸上ニ於ケル敵ノ財産ノ破壊

第三部

海戰法規

第一章

敵船ノ攻撃及拿捕

第二章

敵ノ船舶ノ没収及破壊

第三章

海戰ニ於ケル徵収取立金及砲撃

第四章

海戰ニ於ケル奇計並ニ間諜及戰時
叛逆ノ利用

第五章

海底電線ノ破壊

第二編

中立法規

第一章

中立ノ概念

第二章

中立國自身ノ積極的行動ニ關スル
中立國ノ權利義務

第三章

中立領域ニ於ケル交戰國ノ行動又ハ
個人ノ行動ニ關スル中立國ノ權利義務

一九一

一九四

一九四

二一五

二三〇

二三五

二三七

二四二

二四二

二四二

二六四

二六八

目次

第四章	中立國臣民ノ行為ニ関スル中立國ノ 權利義務	三〇〇
第五章	戰時禁制品	三〇七
第六章	封鎖	三一七
第七章	軍事的幫助	三三八
第八章	中立船舶ノ離脱及拿捕	三六九
第九章	拿捕セラレタル中立船舶ノ査檢	三九九
第十章	中立財産	四〇六

戰時國際公法

法學博士 立 作太郎 講述

19.5.2,



第一編 文戰法規
 第一章 文戰法規通論
 第二章 戰爭ニ関スル概説

第一編 戰爭ノ定義
 第一章 戰爭ノ定義
 第二章 戰爭ノ種類
 第三章 戰爭ノ開始
 第四章 戰爭ノ終結
 第五章 戰爭ノ效力
 第六章 戰爭ノ結果
 第七章 戰爭ノ責任
 第八章 戰爭ノ賠償
 第九章 戰爭ノ人道
 第十章 戰爭ノ中立
 第十一章 戰爭ノ禁制品
 第十二章 戰爭ノ封鎖
 第十三章 戰爭ノ軍事的幫助
 第十四章 戰爭ノ船舶
 第十五章 戰爭ノ財産

此状態ニ直接ニ干与セサル国家ハ中立国ナリトス
上述ノ戦争ノ定数ヲ分析シテ説明セリ

(一) 戦争トハ国家間ノ状態ナリ 國際法上ニ於ケル戦争トハ國
際ノ状態ナリヤ又ハ國家ノ兵力ニ依ル争闘其モノナリヤニ付テ學
說分レタリ多數ノ學者ハ國際法上ニ於ケル戦争ヲ以テ兵力ニ依ル
國家間ノ争闘ナリト爲ス余ハ國際法上ニ於ケル戦争ノ觀念ハ戰爭
ニ干スル國際法上ノ現象ヲ最モ善ク説明スルニ足ルモノヲ採ルハ
ニト爲ス又以テ余ハ現時ノ戦争ニ干スル國際法上ノ現象ヲ最モ善
ク説明スルト信スル 狀態説ヲ採リ余ハ行ハルルニ拘ラス争闘説ヲ
採ラス國際法ノ父ト称セラルルグロトナクハ風ニ戦争ハ行爲ニ
アラスシテ狀態ナリトノ説ヲ爲シ戦争ヲ定数ニシテ「解力ニ依リ紛
争ヲ処理スル者」新ノ如キ者タル莫ヨリ見ノル 狀態ナリト爲セ
ルハ私人間ノ争闘ノ場合ナシニ戦争ノ定数中ニ包含シタル定ニ於
テ現下ノ國際法ニ於ケル戦争ノ定数トシテハ採ルハ力ヲスト至モ
其ノ戦争ヲ以テ國家ノ狀態ナリト爲ス莫ク然レハ專横ヲ得タルモ

ナリトシテ之ヲ實證スル學者少カラズ

(二) 戦争ハ國家間ノ狀態ナリ 國際法上ニ於ケル戦争ハ國家
間ノ狀態ニシテ私人間ノ狀態ニアラス唯個人ノ國家ニ對スル緊要
ノ干渉ニ基キテ一次國際ハ對テ文戰國ノ臣民ヲ以テ敵性ヲ得タルト
認メ得ヘキニ至ルノミ當時ニ於テハ各交戰國ノ臣民ハ對テ文戰國
ヨリ見テ其敵タルノミナラス對テ文戰國ノ臣民ヨリ見ルモ亦敵ト
リト看做ナレ 戦争ハ國家間ノ狀態ニシテ私人間ノ相互間
ノ狀態ト認ラレタリ文戰國ノ臣民相互ヲ以テ總テノ干渉ニ於テ
戦争ノ智者者ト爲スノ見解ハ戦争ニ於テ私人間ニ先切婦女ニ對シ
テ侮辱ノ事々々行ハルルヲ致セリ一方ノ交戰國ノ各臣民ノ身體財
產ハ他方ノ交戰國ノ各臣民ノ加害シ又ハ奪取シ得ヘキモノトラシ
メタレハナリ 或は戦争ノ慣行ニ於テ改行ハレタルガ十八世紀ノ
中頃ニ至リ當時ノ戦争ニ干スル觀念ニ正及テナシ 極端ナル觀念主
張ナルニ至レリ 一ハ其社會契約論中ニ論ジテ曰ク「戦争
ハ人ト人トノ干渉ニアラスシテ國家ト國家トノ干渉ナリ 戦争ニ於

テ四人ハ人知トシテ又ハ一國ノ臣民トシテ敵トナルニアラヌシテ
兵士トシテ偶然的ニ敵トナルノミ何人ハ其ノ所屬國ノ相成莫トシ
テ敵トナルニテラスシテ其防禦者トシテ敵トナルノミ又國家ハ他
ノ國家ヲ敵トナスヲ得ヘキモ何人ヲ敵トスルヲ得又國家ト何人ト
ハ性質ヲ異ニスルモノナルヲ以テ其向ニ何所ノ衝突ノ干渉モ成立
スル能ハナレハナリト一ハ〇一年仙國ノ捕獲審檢所ノ南廷ノ際
从國ノ相成ナル法律家ニシテ巨政諸家タルルカリスカールノ
ノ説ヲ略述シテ其採用シ戦争ハ國家同ノ干渉ニシテ何人同ノ干渉
ニアラヌ故ニ交戰國ノ臣民ハ軍ニ兵士トシテ敵トナルノミニシテ
一國ノ臣民トシテ敵トナルモノニアラスト説テリ當時以新説ハ急
ニ流行セルニアラザルカ如クド、マルテンス、クリューバー、ヤント、
ホイートン、マンニングノ諸家ハ舊日説ヲ採レレバ見レハ十九世紀
ノ上半ニ於テハ旧説ハ獨古時ノ國際法規トシテ行ハレタルヲ察ス
ルニ足ル然レニ十九世紀ノ後半ニ於テハ政治大變ノ諸國ニ於テ新
説ニ行ハレハニ至レリ芝米ノ學者ハ舊日説ヲ維持シ而交戰國ノ

何人相互ノ干渉ニ派別トシテ敵トナルノ干渉ナリト爲ス
惟テニ現交國際法ノ議論トシテ現交ノ戦争ニ關スル國際法上ノ現象
ヲ觀テ吾ク說明シテハキ觀念ヲホハレハ旧説ト新説トノ中間ニテ
察見スルヲ科トシトニハハカラス即チハ一戦争ハ國家同ノ干
渉ナリト雖モ(又)交戰國ト臣民トノ戦争ニ干スル事實上ノ緊密
ノ干渉ニ基テ一方ノ交戰國ハ他方ノ交戰國ノ臣民ヲ敵トシテ之ニ戰
争ノ向接ノ影響ヲ及ボスノミナラス戦争上必要ナル範圍内ニ於テ直
接ノ影響ヲ及ボスコトヲ得ナルヘカラス即チ戦争ニ必要ナル範圍
内ニ於テ何人ノ對干渉ニ對シテ敵性ヲ受ケルヲ認メサルヘカラス現
今ノ國家ニ於テ人民ノ大部分ノ意思ニ反シテ戦争力開始スラレハコ
ト殆トナク戦争中國家ノ抵抗力ノ資源ハ人民ニ依ラサルヲ得ヌ而シ
テ戦争ノ終了ニ人民ノ輿論ニ依リ迅速ニ生シ辱人民ニ對スル經濟上
ノ干渉ニ依リ戦争ノ終了カ早メラル、コトアリ戦争ニ干スル國家
ト何人トノ緊密ノ干渉知ルヘキナリ但何人ノ皮シル戦争ノ影響ハ戰
争上必要ナル程度ニ限ルヘク又人道及其他ノ思想ニ基キ戰時法上認

民カ交戦國ノルト平和的臣民ノルトニ依リテ翼レタリテ加害ノ方
 法及程度ニ依テ對テ平和的臣民トノ同ニ是實トキテ得ヌ(此)
 (二) 兵ハ平和的臣民ニ行キテハ新説ノ説ノカレ所ナリ(三)
 交戦國臣民互ニ同ニハ戦争ニ依リ專横ノ敵對手段ヲ生セズ此意
 味ニ於テ戦争カ何人何ノ干渉ニ下ラスト云々ハ正當ト認メテハ
 トラス(此)(三)ノ兵ハ旧説ノ認メタル所ナリ(一)
 (三) 戦争ハ和平時ニ對シテ平時ニ於テ許サレサル加害手段ヲ行
 フコトヲ認メラレタル状態ナリ 戦争状態ニ於テハ交戦國ハ平時
 ニ於テ行フヲ得サル加害手段ヲ行フヲ得ルニ至ル而シテ斯ノ如ク
 加害手段ノ若シトモハ兵力ニ依リ敵ニ害ヲ加フルニ在リ但兵力
 ニ依ル加害ハ必ズ之ニ戦争状態ニ依リテ行フヲ許サレタルコトヲ
 得ヌ平時ニ於テモ復然又ハ平時封鎖等ニ於テ兵力ヲ用タルコトヲ
 許サルレハナリ然レトモ平時ニ於ケル極化又ハ平時封鎖等ニ於テ
 行フヲ得ルニ加害手段ハ一定ノ方法及程度ニ依リテ得ヌ戦争状

態ニ於テハ國際法規及條約ニ依リテ加害手段
 ヲモ用フルコトヲ得ヘク對テ國ノ在限ルテ之ヲ備合スルニ至ルコ
 トヲ得ヘキナリ國ヨリ國際法規ニ於テ戦争ニ於テ行フヲ得ヘキ如
 害手段ニ于テ制限ヲ設テ一方ニ於テ一回ノ正規ノ兵力ニ依リ敵
 正規ノ兵力ニ對シテ行フコトヲ原則ト爲シ又他方ニ於テ人道及
 一種ノ武士的精神及技能ヲハルル違フ爲セル利己心ニ由リ種々
 ノ加害手段ニ對スル制限ヲ設ヘ是等ノ加害手段ノ國際法上ノ制限
 ニ于スル種々カ戰時國際法ノ研究ノ重要ナル部分ヲ爲スナリ
 (四) 戦争ハ一回ノ對テ國ノ抵抗力ヲ超テ自己ノ主張ヲ貫ク爲ニ對
 手國ニ對シテ平時ニ於テ許サレサル加害手段ヲ行フコトヲ認メラ
 レル數國家間ノ状態ナリ 對手國ノ抵抗力ヲ超テ自己ノ主張ヲ貫
 カントスルハ一般的ニ戦争状態ニ於テ交戦國ノ目的トスル所ナリ
 (五) 戦争ハ國際法上平時ニ異ル權利義務ノ干渉ヲ生スレコトヲ認
 メラルル状態ナリ 戦争状態ニ於テ開始サレルトキハ戰時國際法
 規ノ適用ヲ生シ又戰時ニ限リテ効力ナル條約ノ適用ヲ生シ斯ノ如

ツシテ平時ニ與レ權利義務ノ干係ヲ生スルニ至ル而シテ平時ニ
常的權利義務ノ干係ニ與ル非常的權利義務ノ關係ハ當ニ戰爭狀態
ノ當事國ニシテ文戰國相互間ニ於テノミナラス直ニ戰爭狀態ニ干
年セサル中立國ト文戰國トノ間ニ於テモ生スルモノナリ故ニ戰時
國際法規中使ニ文戰國間ノ干係ニ干スル文戰法規ト文戰國ト中立
國トノ干係ニ干スル中立法規トヲ區別スヘキナリ
或ハ戰爭ヲ以テ強クニ依リテ權利ヲ執行スル狀態又ハ干渉ナリト云
ク言アリハ例ハハツアワテル、フイオレ、ブルンナユリ、ブルノリンク
然レトモ戰爭ハ必ズシテ權利ヲ執行スルカ爲ニ行ハル、モノニアラ
ズニテ單ニ利益又ハ思想感情ノ衝突ニ依リテ行ハルルコト多シ故ニ
權利ノ執行ヲ以テ戰爭ノ要素ト爲スヲ得ス

第二 戰爭ノ原因及目的

戰爭ノ原因ハ種々アリ或ハ一方ノ國家ハ他方ノ權利ヲ侵害シ又ハ侵
害セリト主張セラル、ニ由リテ起ルコトアリ或ハ雙方ノ國家ノ人民

ノ單純ナル利害又ハ思想感情ノ衝突ニ由リテ起ルコトアリ戰爭ノ原
因ヲ列挙シテ之ヲ人コト種ニトス
或ハ戰爭ノ正當ナル原因ト正當ナラザル原因トヲ區別シ正當ノ原因
ニ由リ起レル戰爭ヲ正當ナル戰爭ト爲シ然ラザル戰爭ヲ不正當ナル
戰爭ト爲スノ論者アリ然レトモ正當不正當ノ意取ヲ法規上ノ意取ニ
限ル場合ニ於テモ現今ノ國際法ノ未ク完成セザル莫アルカ爲メ法規
上ニ於ケル正當不正當ヲ判然決定スル能ハサル許多ノ向題ヲ存シ而
シテ故令國際法規ノ備ハレレ場合ニ於テモ許多ノ莫ニ干シテ學說ノ
紛々タルコトハ實際上ニ於テ戰爭ノ原因ノ法規上ノ正當不正當ヲ甄
別スルコトヲ困難ナラシムル許多ノ戰爭ノ原因ハ國際法上ノ正當不
正當ニ干係ナク利害又ハ思想感情ノ衝突ニ由ラザルモノ以テ是等ノ
原因ニ干シテ國際法上又ハ國際政策上ノ正當不正當ノ議論ハ存ス
ルヲ得ハキモ國際法上ヨリ正當不正當ヲ區別スルヲ得ヌ故ニ現今ノ
國際法ハ戰爭ノ諸原因ニ付キ正當不正當ノ區別ヲ爲シ難ク、正當ノ
原因ヲ限定スルノ力ナクナリ且故令國際法上權利侵害ノ實ハリテ也

カ戦事ヲ得ル為メ戦争ヲ起スコト國際法上凶者ナリト云フヲ得ヘキ
場合アルモ之レ交戦國ノ一方ヨリ見テ戦争ヲ起スノ原因カ凶者ナル
モノニシテ二以上ノ國家間ノ狀態タル戦争ノモノノ凶者不凶者ヲ
決スルヲ得ナルナリ而シテ總令國際法上權利侵害ノ実アリテ一方ニ
於テ戦争ヲ起スノ國際法上凶者ノ原因トリト云フヲ得ヘキ場合ニ
於テモ原因ノ凶者ナルヲ否メハ交戦法規ノ適用上ニ於テ何ソ干渉モ
ナクナリ總令一方ノ國家カ他方ノ國家ノ權利ヲ侵害セルニ因リ戦争
起レリトスルモ交戦法規ハ戦争開始ノ原因如何ヲ向ハス交戦國ヲ以
テ第一級法規上何等ノ權利及自由ヲ享有スルモノトシ其間ニ交戦法
規適用上ノ區別ヲ認メサルナリ交戦法規カ區別ヲ設ケテ戦争ノ原因
ニ干シテ他國ノ權利ヲ侵害スルノ実アルモノノ交戦ニ干スル權利若
ハ自由ヲ制限セント試ムルトスレバ國家ノ上ニ五フ権利者ヲ有セザ
ル現今ノ國際組織ニ於テハ是レ到底実行シ得ナリ所ナリ
國際法カ戦争ノ正当ナル原因ヲ限定シ得ナルコトハ決シテ國際法規
又ハ國際法カ或者更ニ以テ戦争ノ原因ト為スヲ得ルコトヲ決ヘ

ルヲ妨テサルナリ一般の國際慣習法規ニ依リ一旦講和条約ノ明ニ
定メタル事項ヲ以テ交戦國ノ原因ト為スヤ許サズト為スノ規則カ
確立セリトスル説アリ而シテ海牙ノ条約ニ於テ一面ノ政府ニ對シ他
ノ一面ノ政府カ其國人ニ支給ハルキモノトシテ論ズル契約上ノ
債務ヲ回収スル爲メ兵力ニ訴ハルコトヲ納ムリハ契約上ノ債務回
收ノ爲ニスル長ク使用ノ制限ニ干スル海牙条約一改正ニ此ノ条約ニヨ
リ國人ノ外國政府ニ對シテ契約上ノ債權ノ保護ヲ原因トシテ債務國
ニ對シテ開戦スルヲ得ナルヘキナリ
戦争ニ干シテ各交戦國ノ違ヒシトスル特別ノ政治上ノ目的トスル所
ハ如何ノ戦争各個ノ交戦國ニ付キ各異ルヲ得ルト云ハサルハカラス
例ハ日露戦争ニ於テハ我國ハ当初德國ノ勢力ヲ韓國及滿洲ヨリ排除
スルコトヲ特別ノ政治上ノ目的ト爲シタリト云フヲ得ヘキ事、如キ
各交戦國ノ各戦争ニ付キ特別ノ政治上ノ目的トスルトコロハ戦争ノ
当初ニ於テハ戦争ノ原因ト爲看ノ干渉アルモ戦争ノ経過ニ依リ変更
ヲ受ケルニ至ルヲ免レズ然レトモ總ニ戦争ニ適有スル戦争ニ於ケ

ル文戦國ノ一紙的ナル日成ヲ示ムレハ自己ノ成ムル所ヲ貫徹スル為
ニ對テ文戦國ノ抵抗カヲ挫クニ在リト云ハサルハカラム以下戰
争ノ目的ノ詭ヲ用フルトナシハ戰爭ニ於テ文戦國ノ一紙的ナル目的
ヲ指スモノトス

第二章 文戦國際法概説

第一 戰爭ト國際法

或ハ現時ノ國際法ニ於テ戰爭ノ時々起レコトヲ見テ國際法ニ暴力
ヲ行ハルルヲ以テ國際法ナル法規ノ存在ヲ疑フ得スト然レモ又
或ハ戰爭ハ暴力ナルヲ以テ法規ノ思想ト相合レサルモノニシテ戰時
法規ナルモノノ存在ヲ得スト然レモ又吾人現今ノ國際法ニ於テ國家
間ノ紛争ヲ裁断シ以テ裁定シ其利又テ國家ニ對シテ強行スハハ國際
法ニ於テ存セザルヲ以テ國家間ノ紛争ニ至キテ強行の加害手段ヲ用
フル戰爭狀態ノ生スルハ之ハ法ヲ得ザルモノニシテ國際法ハ戰爭状態

認メ戰爭ノ起ルニ及ニテ平時ノ經常的ノ下條ニ異ル所ノ非常時權利發
動ノ下條ヲ向文戦國間及文戦國ト中立國トノ間ニ認メ此下條ヲ規律
スル戰時國際法ハ向文戦國間ニ用ヒ得ヘキ所ノ加害手段ノ制限及兵
隊ノ兩文戦國ノ下條ヲ定メ又文戦國ト中立國トノ關係ヲ定ム而シテ
現今ノ戰爭ニ於テ國際法ノ定ムル規則ハ文戦國及中立國トシテ違奉
ムレテ常トス故ニ戰爭ハ國際法ノ存在ヲ否定スルモノニアラスシテ
却テ國際法ニ依テ認メテ且之ニ支配コラレル所ノ法規上ノ狀態ヲ
リ又戰時國際法ハ一種ノ法規トシテ當然存在スルモノナリトス戰時
國際法ノ存在ノ基礎ハ一般國際法ノ存在ノ基礎ト同シク國家ノ相互
マリ共同生存ヲ為シ國際法ニシテ社會ノ動カ、事實ニシテホムルヲ
得ヘシ國際法内ノ一部分ニ戰爭起ルニ國際法内ニ於テ然存シ文戦國
ハ戰爭ニ下條ヲキテ中立國ニ對シテ命令戰爭状態ノ存在ニ由リテ後分
ハ変更ヲ受ケルニ尚平素ノ法規上ノ下條ヲ維持シ文戦國ト中立國ト
ノ間ニ中立國ニキタル法規關係ヲ生スルナリ而シテ文戦國相互ノ間
係ニ於テモ其ニ國際法内ノ一頁タル結果トシテ其行為ノ自由ニ於テ

法理上ノ制限ヲ認メラルルナリ現今ニ於テハ諸國ハ戰時ニ於テ雙方
カ交戦國タル場合ニ遵守スルヤ否多ク系約ヲ約定シ是等ノ系約ニ思
テ多戰時ニ於テ交戦國間ニ行爲ノ自由ノ法律上ノ制限ノ生スルヲ認
ム

第二 交戦法規ノ發達

現時ノ交戦法規ハ中世 然レバヨリ政權已ニ於テ其萌芽ヲ發シ漸次
發達シ味ニ十九世紀ノ後半ニ於テ著大ナル發達ヲ爲セリ蓋シ心ハ人
道ニ依勇ノ精神ハ西洋ニ於ケル一種ノ武士道ニ並ニ根柢ヲ有スル系
連ヲ爲セル利己心ニ基キ戰爭ノ被害ヲ緩和スル何レハ實行ヲ生シ同
ノ并同 *Kriegsregeln* ニシテ *namo in bello* ト云スルニ可ナリ
ニ生シ而シテ斯ノ如ク慣例カ之ニ遵由セサルハカラスト爲スノ國際
団体内ノ社會的確信ニ伴ハルルニ至リテ交戦慣習法規ヲ生シ斯ノ如
クシテ交戦法規ノ發達ヲ見ルニ至レルナリ

交戦法規ハ当初既ニテ廣習法規ヨリ成リ交戦法規ニ于テ條アル條約ハ
ト教ノ固ノ固ニ結ハルニ至リテ漸クナリシカ較近ニ於テハニ于テ國際
団体内ノ條約ノ固又ハ多數ノ國カ當事者タル一般ノ條約カ多數締
結セラルルニ至リ交戦國際法規ハ著大ナル發達ヲ爲スニ至レリ
本邦時國際法(六)戰法規及中立法規ヲ合ヘニ関スル主要ナル條約
及宣言ヲ總括シ時日ノ順序ニ依ヒテ列挙セントス

- (一) 一八五六年ノ海峽ニ于ル巴黎宣言
- 此宣言ハ(一)捕獲免許ノ私船ノ廢止(二)中立船中ノ戰時禁
制品以外ノ敵貨ノ捕獲免除(三)敵船中ノ戰時禁制品以外ノ中
立貨ノ捕獲免除(四)封鎖ノ實效的ナルハキント等海上捕獲ニ
于スル四ノ事項ヲ定ム此宣言ハ戰時法規ニ于スル一般ノ條約ノ
嚆矢ト云フハシ其規定スル事項モ重要ナルヲ以テ之ヲ選シテ
倫敦宣言ト共ニ戰時海上國際法上最モ注目スルキ條約ニ屬ス此
宣言ハ歐洲ノクリミア戰爭ヲ終局スル巴黎列國會議ノ際議定
レ當初ニニ湘印セルハ英仏露普墺ガ一トイニマハ伊ハ上ノ七國

二 益キカリニカ其後ニ加盟セシ諸國ヲ保セラニ十五箇國ノ間ニ有效ナリ而シ之ニ加盟セナル諸國ニ實際ニ於テ宣言ニ連依シ國際団体内ニ於テ巴厘宣言ノ定ムル所ニ連依セラルヘクラストノ法律的確信カ既ニ生ニシリト認メ得ヘキヲ以テ今日ニ於テハ巴厘宣言ノ定ムル所ハハ少クモ補復先許承認會上ニ于スル規定以外ニ就テハ戰時國際法規ノ一部ニ成スト認ムルヲ得ヘキナリ

(二) 一八六四年也、テ結ニ其後一九〇六年修正セル赤十字條約即チ野戰軍隊ノ負傷兵ノ救養ヲ改良スルヲ目的トスルツムネ條約

一八六四年、由來約ハ九箇國ノ間ニ結ハレシカ但シ諸國漸次加盟シテ實際上國際団体内ノ範圍ヲ國ヲ擴展スルニ至レリ(國際団体内ノ國家ト謂ムヘキモノニシテ之ニ加盟セサルハリニランスライオン、モナコ及コマタリカ等ノ小國ノミ)一九〇六年、新條約ハ三十五箇國ノ間ニ結ハレ其後幾多ノ國之ニ加盟セリ

新條約ニ加盟セタル國ニ就テハ白旗約ノ定ムル所ニ依リ

(三) 一八六八年、一定ノ重量(四百グラム)以下ノ爆發性ナリカ又ハ燃焼物ヲ填メタル空筒等ノ使用ノ禁止ニ于スル聖彼得堡宣言

此宣言ハ十七箇國ノ調印ニシテ所ナリ調印國ハ土耳其、波斯、オーストリア、普魯シヤ、國ナリ後ニ加盟セル國ハ一八六九年ニブラジール、ルニニ加盟セルトルコ

(四) 一八九九年、海牙第一回平和會議及一九〇七年ノ第二回平和會議ノ陸戰ノ法規慣例ニ于スル條約、海牙ノ陸戰法規條約(是ヨリ先一八七四年條約皇帝アレキサンダー一世ノ招請ニ依リ列國會議ガナリユツセルニ南カレ憲國ノ提出セル原案ヲ議決トシテ陸戰法規ノ法典ヲ設ク所謂比律憲宣言ナルモノ成レリ然ルニ此宣言ハ諸國ノ批准ヲ得ス海牙ノ第一回平和會議ノ條比律憲宣言ヲ審議ノ基礎ト爲シ之ニ修正ヲ加ヘテ第一回平和會議ノ陸戰ノ法規慣例ニ于スル條約及之ノ附屬ノ規則成リ大多數ノ國ノ

此世ヲ得タリ第二回平和會議ニ於テ此條約ヲ修正シテ新條約成
レリ第一回平和會議ニ代表者ヲ送レル諸國ハ大抵及西班牙ヲ除キ
テハ之ニ相印シ而シテ許多ノ國ハ既ニ之ヲ批准ラズレリ陸軍ノ
法規慣例ニ于スル條約其モハ僅力ニ九條ヨリ成リ締約國ハ其陸軍
軍隊ニ對シ該條約ニ附屬スル陸軍ノ法規慣例ニ于スル規則ニ適
合スル訓令ヲ發スハ十ヲ約ス(一)其附屬ノ規則ナルモノハ比
律悉宜言フ審評ノ基礎トシテ決定セル陸軍ニ于スル一ノ法規ヲ
リトス然レトモ陸軍ニ于シテ該規則ニ規定ヲ欠ケル莫多シ該系
約ノ前文ニ於テ「實際ニ起ル一切ノ場合ニ普ク適用マヘキ規定
ハ此際ニテ後述シ置クコト能ハカリレト由モ明文ナキノ故ヲ以
テ規定セラレタル條約ノ場合ヲ軍隊指揮官ノ權限ニ至スルハ亦
締約國ノ意思ニテラナルナリレト爲シ又「一審完備シタル陸軍
法規ニ于スル法規ニ制定セララルニ至ル迄ハ締約國ハ其採用シ
タル規則ニ合マレサル場合ニ於テモ人民及交戰者カ依然文明國
ノ間ニ存立スル慣習ハ人道ノ法規及公共良心ノ要求ヨリ生スル

國際法ノ原則ノ保護及支配ノ下ニ立ツコトヲ確認スルヲ以テ適
當ノ規則ト爲ス而シテ該條約及ニニ附屬スル上述ノ規則ハ交
戰國カ悉ク條約ノ當事者ナルトキニ限リ締約國間ニミテ之ヲ適
用マスト爲ス(一)第一回平和會議ノ際ニ定メタル舊條約ハ該系
約ニ加盟セルモ第二回平和會議ノ際ニ定メタル新條約ヲ批准セ
サル諸國ノ間ノ干渉ニ於テハ依然效力ヲ有スルモノトス(四)
條約ニ於テ簡單ナル條約ハ此條約ヲ遵守シテ戰時法規條約ト稱
シ之ニ附屬スル規則ヲ海牙ノ陸軍法規ト稱セント欲ス
(五) 第一回平和會議及第二回平和會議ノジエネウア條約(前十
字條約)ノ原則ヲ海戰ニ適用スルノ條約
一八六四年ノジエネウア條約締結ハレテ後數モナク該條約ノ原則
ヲ海戰ニ通用スヘシトスルノ議ヲ生シ一八六八年十月ジエネウ
ア條約ノ追加條款ヲ附印サレシモ批准ヲ得スシテ終レリ然レニ
第一回平和會議ニ於テ該追加條款ノ簽字ニ于スル部分ト大抵ノ
趣意ヲ同クスル條約締結ハレ諸國ノ批准ヲ得シカ第一回平和會

議ニ於テ該條約ニ修正ヲ加ヘ十四箇條ヨリ成レル旧條約ヲ改メ
テ二十八箇條ヨリ成ル新條約ヲ作リ會議ニ代表サレタル諸國ハ
皆之ニ加ハルニ至リ(但尚保ヲ為セル國アリ)多數ノ國ハ已ニ
之ヲ批准セリ

(六) 第一回平和會議ノ「ガムブ」條ノ使用禁止及有毒瓦斯ノ
散布ヲ唯一ノ目的トスル禁射物ノ使用禁止ニ關スルニ、宣言
是等ニ、宣言ハ有效期間ノ制限ヲ定メサルモノニシテ「ガムブ」
ム一彈ノ使用禁止ノ宣言ハ二十六箇國ノ締約國トナレル所又
毒瓦斯ノ禁射物使用禁止ニ干スル宣言モ二十六箇國ノ締約國ト
ナレル所ナリ北米合衆國ヲ除キ他ノ強國ハ總テ之ニ加ハレリ

(七) 第一回平和會議及第二回平和會議ノ結果取等ヨリ禁射物ノ
ハ禁射物ヲ被下スルコトノ禁止ニ干スル宣言
第一回平和會議ニ於テ五年ヲ有效期間トスル宣言取リシカ日
該條約中期間尽キテ效力ヲ失ヒナリ第三回平和會議ニ於テ同趣
意ノ宣言ヲ將來開クヘキ第三回平和會議ノ終了スルトキヲ有效

期限トシテ更ノテ成立スシメタリ此等ニ四回平和會議ノ宣言ハ之
ニ關印セルニ十七箇國中僅ニ七國ノミ批准ヲ爲シ強國中我國ハ
露國、韓國、仏國、伊國ノ如キハ關印ヲ爲サズ他國ハ關印ヲ
爲セルモ批准ヲ爲サズ強國ニシテ批准セルハ英國及北米合衆國
ノ二國アルノミ

(八) 第二回平和會議ノ議決行爲開始ニ干スル條約

(九) 第二回平和會議ノ陸戰ノ場合ニ於ケル中立國及中立人ノ權
利義務ニ干スル條約

(一〇) 同會議ノ議決行爲開始ノ際ニ於ケル敵國船舶ノ取扱ニ干ス
ル條約

- (一一) 同會議ノ自衛戰條約ノ取扱ニ干スル條約
- (一二) 同會議ノ商船ヲ軍艦ニ變更スルコトニ干スル條約
- (一三) 同會議ノ戰時海軍力ヲ以テスル砲撃ニ干スル條約
- (一四) 同會議ノ海戰ニ於ケル捕獲權行使ノ制限ニ干スル條約
- (一五) 同會議ノ海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ干スル

條約

(九)以下(一五)ニ至ルマテ諸條約ニ適用ナル規定ハ交戦國ノ悉ク条約締結國ナルトキニ依リ條約國同ニノミテ適用スルコトニ在リ從テ締約國以外ノ一國ノ戰爭ニ加ハル場合ニハ均等ノ有セサルニ至ル而シテ陸海軍ノ向ニ戦術アル場合ニハ海陸ニ干スル條約ノ規定ハ海上ニ在ル者ニモ適用シ又上陸セル海軍ノ陸戰隊ハ陸戰ニ干スル條約ノ規定ノ適用ヲ受ケルモノトス

(一六) 一九〇九年ノ海戰ニ干スル倫敦宣言

此宣言ハ一九〇八年ヨリ九年ニ亘リテ締結ニ於テ南カレタル我國、英國、德國、法國、俄國、伊國、北米合衆國、西班牙、和蘭等ノ主トシテ海上強國ノ代表者ヨリ成レル十箇國ノ代表者ノ公議ノ議定セル所ニシテ封鎖、戰時、禁制品、軍事的補助、中立船破壊、船舶回籠ノ移転、船舶及領物ノ敵性、軍艦ニ依ル護送、艦隊ニ對スル抵抗等海上捕獲ニ干スル事項ノ國

際法規ヲ定メザルモノナリ此宣言ハ亦タ此在リテ經ナルトコトナリ

第三 交戦法規ノ基本觀念

現今ノ交戦法規即チ交戦國同ノ關係ニ干スル戰時國際法規ノ基本觀念ヲ示ハルトキハ主トシテ左ノ如キモノナリ

(一) 戰爭ニ於テ個人モ亦敵國ヨリ見レハ敵性ヲ有スルヲ以テ國際法規ノ明ニ禁止セラル場合ハ戰爭ノ目的ヲ達スルニ必要ナル個人ノ身体財産ニ對シテ加害ヲ行フヲ得ヘシ

(二) 然レトモ現今ニ於テハ個人ニ對スル國際ノ実行ノ緩和ニ依リ交戦國ノ戰爭状態ニ於テ其目的ノ爲メニ用ゾル加害手段ハ其國ノ正規ノ兵力ニ依リ敵國ノ正規ノ兵力ニ對シテ行フヘキヲ原則トスルニ至レリ(此結果トシテ(イ)原則トシテハ一國ノ正規ノ兵力ノ一部ヲ爲ササル個人ノ身体及自由ニ對シテハ特別ノ原因若ハ事情ナクシテ加害手段ヲ加ヘス又是等ノ個人ノ私有財産ニ對シテモ一定ノ例

外ノ場合ヲ除キテハ加害手段ヲ加ヘサルハキコトナリ而シテ(一〇) 他方ニ於テハ交戦國ハ國際法上又ハ條約上及新ノ規定下ル場合ノ外 入敵國ノ個人ノ權ニ敵對行爲ヲ行フモノヲ戰時重罪トシテ亦罰シ得 ハキコト認メラル(ニ至レリ)

(三) 交戦國ハ敵ノ抵抗カヲ挫クノ目的ヲ達スルニ必要ナル害敵手 段ハ國際法上及新ノ規定下ル場合ノ外ハ之レヲ用アルコトヲ認メラ

ル (四) 残忍心(人面)ノ要本上敵ノ抵抗カヲ挫クノ目的ヲ達スルニ 必要ナラサル種類又ハ程度ノ加害ハ之ヲ行フヲ得ス又其傷害ノ程度 敵ノ抵抗カヲ挫クノ目的ヲ達スル程度ニ比シテ著シク大ナル加 害ハ之ヲ行フヲ得スト爲スコトヲ特別ノ事項ニテ特別ノ条約又

ハ慣例ヲ以テ認ムルノ傾向アリ (五) 英勇ノ精神(歐洲ニ於テ中世ニ起レル一種ノ武士道)ニ基キ 交戦者ノ間ニ或程度迄相互ヲ尊重スヘク至ニ卑怯的又ハ背信的ノ行 爲ヲ行フヲ得スト爲スコトヨリ交戦國ノ行爲ニ對スル刑罰的ノ法規ヲ主

ス (六) 又交戦國ノ發達セル利己心ニ基キテ戰爭ノ実行ノ修善ヲ取 入ル慣例成リ終ニ國際法規トナルニ至ルコトアリ

第四 戰 狀

獨乙取ノ學者中ニ戰狀(或ハ戰爭ノ必殺又ハ交戰參理ト稱ス)即 ち *Principia actionis* ナル必殺法(*ius necessitatis*)ヲ認メテ 吾國ノ交戰法規ハ戰爭上ノ緊急ノ必要アル場合ニハ所謂戰狀ノ活動 ニ依リ其拘束力ヲ失ヒ之ヲ度外視スルコトヲ得ルト爲ス者アリ而シ テ戰狀ナルモノハ吾國ノ交戰法規ニ拘泥スルトキハ緊急ノ危險ヲ免 ルルノ途ナキリ又ハ敵ノ抵抗カヲ挫クノ目的ヲ達スルニ途ナキトキ ニ活動スト爲ス然レトモ交戰法規ノ拘束力ニ對スル所ノ如キ範圍ノ 過広ニシテ且明確ナラサル例外ヲ認ムルハ法規違反ニ口實ヲ与フル ニ至リ交戰法規ノ拘束力ヲ弱ムルモノニレテ之ヲ是認スルヲ得ス此 説ノ最モ批難スヘキ處ハ戰爭ニ於テ敵ノ抵抗カヲ挫クノ目的ヲ達ス

ル由リ他ニ方法ナキトキハ普通ノ交戦法規ヲ度外視シ得レト爲スノ
突ニ在リ但軍隊ヲ組織スル個人ノ切迫セシ緊急ノ生存上ノ危殆ヲ免
レル。途ナキ場合ニ於テハ一種ノ緊急狀態ヲ存在スルモノト認ムル
ヲ得ヘク國際法ハ此場合ニハ交戦法規ヲ度外視スルノ行爲ヲ以テ普
通ノ適法行爲ト同視スルコトナカレヘキモ是レ對數ナル特別ノ法理
ヲ認メテ始メテ然ルニテラス。

二六

第五 交戦法規ノ效力

戰時國際法規ノ一部分タル交戦國間ノ關係ニ于テハ交戦法規ハ國
際法ノ規定ニシテ交戦法規ニ依ル權利義務ノ主体ハ國家ニ外ナラス
然レトモ國家ノ機關タル軍隊ノ權限内ノ行動ニシテ國際法規ニ違反
スルモノニ對シテハ政府ノ命令ニ基クテ否トニ拘ラス國家ハ其責任
ヲ負ハサルヘカラサルハ勿論軍隊ヲ組織スル者ノ國家職干トシテノ
權限外ノ行動ニ至リテモ國家ハ其職干ヲ組織スル個人ニ對スル緊急
ノ關係ニ基キテ代位制ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルコト認メテラレ海

軍ノ陸軍法規條約ニ於テ交戦者軍團ハ其軍隊ヲ組織スル人員ノ一切
ノ行爲ニ付キハ損害賠償ニ于スルノ責任ヲ負フト出セルハハ第三條
條又一上述ノ干渉ヲ明ニセルモノナリ

第六 交戦法規違反ノ制裁

戰時國際法中中立法規違反ノ場合ニ於テ交戦國々中立國ノ權利ヲ
侵害セルトキニ於テハ國際団体内ノ他ノ諸中立國モ利害上全然無
干係ニテワサルヲ以テ國際団体以テ諸國ノ輿論ニ依リ制裁ノ強制ヲ
存スヘキノミナラス權利ヲ侵害シタル中立國ハ中立法規違反ノ故
正ヲボムルタメテ實力手段ニ出ワレ得ヘク戰爭ヲ起スヲ得ヘキヲ
以テ被害國ノ自助的行爲ニ依リ直接ノ強制ヲ存スルモノトシテ得ヘク
又中立國カ交戦國ノ權利ヲ侵害セルトキニ於テモ交戦國ハ場合ニ依
リ加害中立國ニ對シテ其自助的行爲ニ依リ直接ノ強制ヲ加フルコト
ヲ得ヘキナリ然レニ交戦法規ノ違反ニ於テハ國際団体内ノ他ノ諸國
間ノ輿論ニ依リ間接ノ強制ノ微弱ナルヲ免レズ而シテ交戦國間ニ於

二七

テハ既ニ強カニ訴フル戦争状態ヲ存セルモノナルヲ以テ交戦國ノ自
助的行動ニ依ル直捷ノ強制ニ至リテハ戰爭中ハ突如ニ於テ對手交戦
國ニ對スル戰時復仇及違反ニテ條下ル個人ニ對スル戰爭罪、如罰
ノ外ニ存セス固ヨリ戰時得ル交戦國ハ戰爭終了ノ際交戦法理違
反ノ故ヲ以テ講和条約ニ於テ復金ノ額ヲ増シシムルコトヲ得ハク又
第二回平和會議ノ時牙陸戰法違反ニ對シテハ戰爭終了後ニ講和条
約下ニ交戦國間ノ反對、明約ナキ以上ハ賠償ヲ成ルコトヲ得ハシト云々、海
牙ノ陸戰法條約第三條一號戰國ハ突如上對手國ノ交戦法理違反ノ
責任ヲ問フノ途ナキナリ、海牙陸戰法違反ノ場合ニ至リテモ戰時國
ハ講和条約ニ於テ戰爭中ノ交戦法理違反ノ行為ニテナル損害賠償ノ
問題ヲ起ササルヘイテ戰時國ニシテ條下ニシテ得ハレハナリ、但
交戦法理ノ違反ニ對シテ戰爭中ニ於テ敵ニ抗辯ヲ為シ中五國ニ訴フ
ルコトアリ又中五國ノ交戦國ノ訴フルニ由リ又ハ自衛的ニ交戦法理
違反ノ向與ニテ之ヲ周旋、調停又ハ干渉ノ舉ニ出ルコトナリ得ル
ナリ中立國ノ交戦法理違反ノ行為ハ行ハレントスルヲ防止シ又ハ既ニ行

ハレタル法規違反ノ改正ヲ得セシムル為メ干渉ヲ為スコト得ハキハ明
白ナリ

第七 戰時復仇

戰時復仇トハ敵國政府又ハ軍隊ノ交戦法規違反ノ行為又ハ敵國私人
ノ不道ナル敵對行為ニ應ジテ敵國ノ敵軍又ハ敵人ニ加フル所ノ懲罰
ニシテ敵ヲシテ將來ニ於テ交戦法規ヲ遵守セシメ若ハ不道ノ敵對行
為ヲ行ハサシムル目的ヲ以テ又ハ敵ノ既ニ行ヒタル交戦法規違反
ノ行為若ハ其他ノ不道ノ敵對行為ノ結果ヲ復旧シ不道行為ヲ行ハル
者ヲ懲罰セシムル目的ヲ以テ行フモノトス戰時復仇ニ於テ加フル所
ノ懲罰ノ手段ハ普通ノ場合ニ於テハ交戦法規違反ノ行為トナルヘキ
種類ノ行為ナリトス

戰時復仇ハ海牙ノ陸戰條約ニ之ヲ揚クナルモ慣習法上認めラルル
所ナリ戰時復仇ハ違反ニ對スル刑罰ノ性質ヲ有スルモノニアラス又
專擅的ナル懲罰ノ性質ヲ有スルモノニアラスニテ違反ヲ為リサラシ

ハレカスハ違反ノ結果ヲ復旧ニ若ハ違反ニ干渉セル者ヲ処罰スルコ
トヲ強制スル性質ヲ有スルノミ戰時復仇ノ現ニ行ハレサルモ之戰時
現違反ヲ行ハハ敵ニ戰時復仇ノ手段ヲ加ハラレハキリ越ニヨリ文戰
法規ノ違反ノ行ハレハルコト往々ナリ得ヘキナリ
戰時復仇ハ多數ノ場合ニ於テハ法規違反又ハ其他ノ不道ノ敵對行為
ニ干渉ナキ者ニ加害スルモノナルヲ以テ三ハ得ナル場合ニテナ
レハ之ヲ行ハサルハキリ法規違反又ハ其他ノ不道ノ敵對行為ノ行ハ
ルニ當リ之ヲ干渉スル者ヲ捕ヘテ之ヲ処罰スルコトノ出来得ヘキ
場合ニハ次レテ戰時復仇ノ手段ニ出ツヘカヲナルナリ
戰時復仇ハ敵ノ如何ナル文戰法規違反ノ行為又ハ其他ノ如何ナル不
道ノ敵對行為ニ對シテ之ヲ行フヲ得ヘキヤニ付テ國際法上ノ制限ナ
シトス又戰時復仇其モノカ如何ナル種類ノ手段ニ限ルハキヤニ付テ
モ國際法上ノ制限ナシトスモ戰時復仇トシテ行フ手段ノ加害ノ程度
カ過度ナルハカソマシテ之カ原因トナレル敵ノ不道行為ヨリモ火ナ
ルヲ得ナルナリ

戰時復仇ハ相々ノ兵士ノ察意ヲ以テ之ヲ行フヲ得スニテ指揮官ノ
命令ニ基キテ始メテ之ヲ行フヲ得ヘキモノト爲ササルハカラス
戰時復仇ハ敵ノ原因ト爲レル不道行為ヲ止メ又ハ不道行為ノ結果
ヲ復旧シ若ハ不道行為ヲ行ハル者ヲ処罰シテ戰時復仇ノ目的トナル
所カ實現シルルニ至レル場合ニハ最早之ヲ行フヲ得ヌ又既ニ之ヲ行
ヒ始メタルトキモ上述ノ場合ニハ之ヲ止メサルハカラス
戰時復仇ハ實際ヲ擧行ニ於テ行ハレ慣習國際法ノ認めル所トナレ
ルト云フヲ得ヘキモ實際ノ擧行ニ於テ之カ榮辱多キヲ以テ將來ニ
干渉ル國際法上ノ明白ナル規定ヲ設ケ戰時復仇ナル制度ヲ明ニ認ム
ルト天ニ之カ罰報ヲ明ニ定ムルヲ必要トス

第八 戰時重罪

戰時重罪トハ戰時ニ於テ兵士又ハ其他ノ者カ交戰國ノ一方ニ對シ
テ行フモノニシテ交戰國カ犯罪人ヲ捕ヘルトキハ之ヲ死刑ヲ以
テ之罰シ得ヘキナリ戰時重罪ハ之ノ四種ニ區別スルヲ得

(甲) 陸海軍の属する官制は依りて戰時及平時の別を以て之を定む。其戰時及平時の別は、
行爲ハ戰時及平時の別を以て之を定む。命令ニ依りて行ハレタル場合ニ於テハ戰時
重罪トシテ之ヲ裁断ス。政府ノ命令ニ依りて行ハレタル場合ニハ
對テ手固ハ戰時及平時の別を以て之を定む。命令ニ依りて行ハレタル
戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。陸海軍ノ属する官制ノ指揮官ノ命令ニ依
りて行ハレタル場合ニハ戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。陸海軍ノ属する官制ノ
指揮官ノ命令ニ依りて行ハレタル場合ニハ戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。

(乙) 陸海軍の属する官制は依りて戰時及平時の別を以て之を定む。其戰時及平時の別は、
行爲ハ戰時及平時の別を以て之を定む。命令ニ依りて行ハレタル場合ニ於テハ戰時
重罪トシテ之ヲ裁断ス。政府ノ命令ニ依りて行ハレタル場合ニハ
對テ手固ハ戰時及平時の別を以て之を定む。命令ニ依りて行ハレタル
戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。陸海軍ノ属する官制ノ指揮官ノ命令ニ依
りて行ハレタル場合ニハ戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。陸海軍ノ属する官制ノ
指揮官ノ命令ニ依りて行ハレタル場合ニハ戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。

然るに戰時及平時の別を以て之を定む。其戰時及平時の別は、
行爲ハ戰時及平時の別を以て之を定む。命令ニ依りて行ハレタル場合ニ於テハ戰時
重罪トシテ之ヲ裁断ス。政府ノ命令ニ依りて行ハレタル場合ニハ
對テ手固ハ戰時及平時の別を以て之を定む。命令ニ依りて行ハレタル
戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。陸海軍ノ属する官制ノ指揮官ノ命令ニ依
りて行ハレタル場合ニハ戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。陸海軍ノ属する官制ノ
指揮官ノ命令ニ依りて行ハレタル場合ニハ戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。

(丙) 陸海軍の属する官制は依りて戰時及平時の別を以て之を定む。其戰時及平時の別は、
行爲ハ戰時及平時の別を以て之を定む。命令ニ依りて行ハレタル場合ニ於テハ戰時
重罪トシテ之ヲ裁断ス。政府ノ命令ニ依りて行ハレタル場合ニハ
對テ手固ハ戰時及平時の別を以て之を定む。命令ニ依りて行ハレタル
戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。陸海軍ノ属する官制ノ指揮官ノ命令ニ依
りて行ハレタル場合ニハ戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。陸海軍ノ属する官制ノ
指揮官ノ命令ニ依りて行ハレタル場合ニハ戰時重罪人トシテ之ヲ裁断ス。

評論スル所アルハ三國條法上所謂戰時殺害ニ付テモ後又評述スハ
 キモ交戦國ノ戰時止地ニ在在シ又ハ一時的ニ帯在スル敵國人若
 ハ中立國人又ハ交戦國ニ在在シ又ハ一時的ニ帯在スル敵國人若
 中立國人ニ依リテ行ハルレ行爲ヲ含ムモノトス
 (丁) 劫掠行爲ノ物ヲ取扱スル目的ヲ以テ戰場ヲ徘徊シ又ハ前進若
 ハ退却スル軍隊ニ適伴シテ傷者落伍者ヲ虐待シ若ハ殺傷シ死人ヲ
 虐待スル如キ行爲ヲ爲セル者ハ之ヲ戰時重罪人トシテ死刑ニ知ス
 ルヲ得
 戰時重罪人ハ軍事裁判所又ハ其他ノ交戦國ノ任意ニ定ムル裁判所
 ニ於テ審問スハキモトス然レトモ審問ヲ爲サスニテ知罰スルコト
 ヲ得サルヘキナリ
 戰時重罪ハ總テ死刑ヲ以テ論スルヲ得ヨリ死刑ヨリ輕キ罰罰ニ知
 スルヲ得或ハ戰時重罪人ノ一定ノ刑期ノ自由刑ニ知セラレタルトキ
 ハ戰時終了後モ釋放セサルヘカラストノ論アルモ之ニ對シテ又對
 既アリ此實ニテシテ國際法理カ一定セリト云フヲ得ス

第三章 交戦ノ主体及其兵力

第一 交戦ノ主体

國際法上ノ戰爭ナル狀態ハ數國家間ニ存スルコトヲ原則トス故ニ
 交戦ノ主体即チ交戦法規ノ權利義務ノ主体ハ原則トシテ國家ナリト
 ス然レニ戰爭ノ國家ト交戦國体トノ間ニ存スルニトテ認ララルコ
 トアリ故ニ例外トシテ交戦國体ナル特別ノ交戦ノ主体ヲ存スルモノ
 トス
 國家ノ何タルヤ一于シテハ平時國際法中ニ於テ之ヲ論スヘキモノ
 ナルヲ以テ此ニ贅セズ故ニ今ハ交戦國体ニ于テ述ヘント欲ス
 一國ノ政府ニ敵對スル者ノ母國ヨリノ分發若ハ現政府變遷、新政
 府設立等ノ政治上ノ目的ヲ有シ國家ノ領土ノ一部分ニ占知シテ自ラ
 事實上ノ政府ヲ組織シ政府ニ對シ國際戰爭ニ於テ行ハルル爭鬪ニ類

似スル程度ノ兵力ニ依リ争闘ヲ行ヒ而シテ其争闘ニ於テ戰時法規ニ
違反スルカ如キ行為ヲ為ササルトヤハ交戦団体ノ承認ヲ受クルコト
アリ交戦団体ノ承認ハ本國ノ政府カ之ヲ行フコトアリ外國ノ政府カ
之ヲ行フコトアリ外國政府カ本國政府ニ先ケテ承認ヲ行ハ反乱カ
久シキニ亘ルノ見込アリテ承認ヲ為サントスル國家カ争闘ノ行ハル
ル状態ニ依リ影響ヲ受ケ承認カ該外國ノ正當利益所關ノ為ノ相吉ナ
ル干渉ト認メ得ヘキニ至レル場合ニ限ルヘキナリ交戦団体ノ承認ノ
效果ハ承認カ本國政府ニ依リ行ハレタルト外國政府ニ依リ行ハレタ
ルトニ依リテ差異アリ

(一) 外國政府ニ依ル交戦団体ノ效果ハ左ノ如シ

(イ) 承認國ハ交戦団体ニ對シテ(承認ヲ為セル外國トノ干
渉ニ於テ)兵力ニ依リ争闘ニ干シ交戦國ノ有スルト同様ノ權
利義務ヲ有スルノ資格ヲ認ム又同時ニ本國政府ニ對シテモ(承
認ヲ為セル外國トノ干渉ニ於テ)交戦國ノ有スヘキ權利義務
ヲ認ムルニ至ル語ヲ授ヘテ且テ謂ヘハ承認國ハ交戦団体及

其本國ニ對シテ自ラ中立國ノ權利義務ヲ認ムルナリ故ニ例ハ
ハ交戦団体又ハ其本國ノ軍艦ハ承認國ノ船舶ニ對シテ交戦國
軍艦ノ中立國船舶ニ對シテ行フ所ノ臨檢、搜索、拿捕等ノ權
利ヲ行フコトヲ認メラルニ至リ又交戦國又ハ其本國ノ軍
艦ハ承認國ノ港津ニ於テ國際戰爭ニ依リ交戦國軍艦カ中立港
ニ於テ及ルルト同様ナル入港、滞在、出航ニ干スル制限ヲ受
クルニ至レ

(ロ) 承認ノ時ヨリ本國ハ承認國ニ對シテ交戦団体ニ屬スル

者ノ外國人ニ損害ヲ与ル等ノ行為ニ付キ責任ヲ海陸セラル

(ハ) 承認國ハ承認ノ時期以後ノ交戦団体ノ行為ニ對シテ交

戦団体ニ責任ヲ負ハシムルコトヲ得ヘキモ若シ本國政府カ報

復ヲ鎮定シタルトキハ承認國ハ承認ノ時期以後ノ交戦団体ノ

行為ニ對シテ何人ニモ責任ヲ負ハシムルヲ得サルニ至ル

(ニ) 外國政府ハ承認ハ承認國ノ交戦団体及本國政府以外ニ

ハ效果ヲ及ボササルモノトス

(三)

本國政府ニ依ル承認ノ效果ハ左ノ如シ

(イ) 兵力ニ依ル争闘ニ付テハ本國政府ニ依リ國家ト關係ニ戰時國際法上ノ權利義務ヲ有スル資格ヲ認メラレルニ至リ而シテ本國政府ハ本國以外ノ諸國ニ付シテ中立國ノ權利ヲ認ムルト同時ニ付立國ノ義務ヲ負フコトヲ要求スルニ至ル

(ロ)

承認ノ時期ヨリ本國政府ハ交戦國ニ屬スル者ノ外國人ニ損害ヲ与フル等ノ行為ニ付キ總テノ國ニ付シテ責任ヲ解除セラレルモノトス

(ハ)

本國政府ノ承認アレハ承認ノ時期以後ノ交戦國體ノ行為ニ付シテハ交戦國體ノ責任ヲ負フヘク若シ本國政府カ反亂ヲ鎮定シタルトキハ交戦國體ト結ル契約上ノ義務又ハ交戦國體ノ負ヘル責任ハ本國政府ト負擔セラルモノトス

(ニ)

政府ニ敵対スルモノニ付シテ國內ノ刑罰法ノ適用ヲ停止シ政府ニ敵対スル者カ政府軍ニ附テラルモノヲ以テ通過

セズニテ停戦ヲ以テ通過スルニ至ル但交戦國體ノ地位ニ有テハ級ニ付テ後ニ於テ政府及對者ノ級逆罪ヲ以テ論スルヲ妨テザルナリ

(ホ)

本國政府ニ依ル承認ハ總テノ國ニ付スル關係ニ於テ政府ニ敵対スル國體ニ戰時國際法ノ主体タル地位ヲ与フルモノトス

交戦國體ノ承認ノ效果ハ單ニ兵力ニ依ル争闘ニ付スル事項ニ付キ國家ノ有スヘキ權利義務ヲ有スルノ資格ヲ政府及對者ニ認ムルニ過キサルヲ以テ交戦國體ハ是等ノ事項ノ範圍外ニ置リテ國家ニ付ラサレハ維持スル能ハサルヲ維持スルコトヲ得ス故ニ交戦國體ハ(1)兵力ニ依ル争闘ニ直接ノ干渉ヲ有セサル條約(通商條約、領土割讓條約等)ヲ他國ト結フコトヲ得ス(但兵力ニ依ル争闘ニ付スル兵力的援助ノ取扱又ハ停戦交換、休戰、降伏等ニ付スル戰時ノ規約ハ之ヲ結フコトヲ得ヘキナリ)(ロ)正規ノ外交官ヲ互遣若ハ接受スルヲ得ス(交戦國體ト他國トノ間ノ談判ハ互ニ外交官ノ資格ヲ有セザ

ル代表者ヲ派遣セラセテ行フ(ハ)文戦団体ノ旗章ハ國家ノ旗章ト同等ノ禮遇ヲ受ケナルヲ常トス

文戦団体ノ旗章ヲ掲ケル軍艦ハ今日ニ於テ一定ノ資格ヲ認メテ他國ハ直ニ指シ如キ軍艦ヲ海賊ト看做スカ如キコトナキハ否ヲ須クナル所ニ至テ展謁ヲ為セル國家ハ文戦団体ノ軍艦ノ戰爭行為ハ捕獲ヲ令ムルヲ行フヲ認メ他國ノ軍艦ト同シク捕獲國法權ノ下ニ立ケルノ特權即チ所謂治外法權ヲ認ムルニ至レ

第二 文戦ノ主体ノ兵力

文戦ノ主体ノ兵力ノ主要ナル部分ハ其正規ノ陸軍及海軍アリ如何ナル軍艦又ハ艦船カ云規ノ海軍又ハ海軍ニ屬スルヤハ其國內法上ノ向テナリ國ニ依リ兵兵又ハ義勇兵國ノ名ヲ有スル者カ正規ノ軍ノ全部又ハ一部ヲ成スコトアリ
文戦國ノ陸上ノ兵力ハ主トシテ正規ノ陸軍ヨリ成ル海軍ハ主トシテ戰艦ヨリ成レトモ非戰艦負モ亦之ニ附屬ス例ハ合計經理部員

三塔部員其他ノ軍部員ノ文官若ハ外交官、衛生部員、藥劑師、看護卒、野戰郵便部員、將校ノ馬卒及兵卒及軍ノ諸種ノ役務ニ服スル人夫等是ナリ是等ノ者ハ戰國員ニアラサルモ正規ノ兵力ケル軍ノ一部ヲ成スコトヲ論ズルニ於テ文戦國ノ兵力ハ戰國員及非戰國員ト以テ論ズルコトヲ得ト規定シ敵ニ捕ハレタルトキハ此ニ種ノ者カ共ニ停戦ノ取扱ヲ受ケル權利ヲ有スト又正規ノ陸軍ヲ組成スルモノハ戰國員ト非戰國員トヲ別クシ義勇兵ナルト義勇兵ナルトヲ向ハス又文戦國人ト中立國人タルトヲ別クシ又常備兵タルト戰時徵集セル兵タルトヲ論ズ有文戦國タル特權ヲ認メラル但衛生部員、軍医、藥劑師、看護卒等ハ赤十字條約ノ保護ヲ受ケレモ之ニシテ軍ニ屬スル非戰國員ナルニ該條約ニ依リテ攻撃ヲ加フル能ハサルノミナラス俘虜ト為スコトヲ得シ得ナルモノトス直接ニ俘虜ノ一部ヲ為ササル征軍看助ケ例ハ新聞社ノ通信員及探訪者並ニ酒保用進人等ノ如キモノハ同様ニ軍ニ附屬セルモノト云フヲ得、ク在軍條約ハ其取ノ取扱ニ適リ被ニ於テ之ヲ抑留スルヲ有益ナリト認メタル者ハ其所

威嚇軍官憲ノ 証明各ヲ 携帶スル 場合ニ 限リ 停房ノ 取扱ヲ 受クル 権利
ヲ 有ス ト 為ス

交戦國ノ 陸上ノ 兵力ハ 理合ニ 於テハ 主トシテ 正規ノ 陸軍ヨリ 成レト
モ 不正規ノ 兵力モ 亦 戦國ニ 干渉スル コトアリ 善ハ 戦争ノ 際 吾國ハ 他
國ノ 不正規兵ニ 就テ 各人カ 他國政府ノ 特別ノ 公許ヲ 得テ 戦術ニ 依事
スル コトヲ 証明スルニ アラサレハ 交戦者タル 時 敵ヲ 認メ スシテ 其行
ヲ 敵對行爲ヲ 戰術重罪ト 看做シテ 銃殺ノ 刑ニ 処シタリ 然ルニ 吾國ノ
陸軍法規ハ 此處ニ 於テ 改良ヲ 加ヘタリ
吾國ノ 陸軍法規 (一)及 (二)ハ 不正規ノ 兵力ニ 就テ 交戦者タル 時 権ヲ
認ムヘキニ (三)ニ 種ヲ 定メリ 其第一種ハ 民兵又ハ 義勇兵團ニシテ 第
二種ハ 國民敵對ノ 場合ニ 於ケル 未ダ 占領セラレコト 地方ノ 人民ナリ
トス

元來 民兵トハ 事發ニ 際シ 人民ヲ 召集シテ 敵ニ 對シテ 奮起スルコトニシ
テ 又 義勇兵團トハ 事發ニ 臨ミテ 有志 人民カ 自發的一 団体ヲ 作り 戦國
ヲ 爲スニ 力ナリ 陸軍法規 (一)一ハ 斯ノ 如キ 民兵又ハ 義勇兵團カ 一定

ノ 條件ヲ 具備スルコトキハ 之ニ 戦國ノ 法規及 權利義務ヲ 適用スヘキヲ
定ム 是レ 交戦國ノ 兵力ノ 一部タルヲ 認メタルナリ 従テ 如ニ 述フヘキ
四ノ 條件ヲ 具備スルコトキハ 其各 領カ 政府ノ 公許ヲ 受テ 戦國ニ 依事
スルコトヲ 証明スルヲ 要セシテ 交戦者タル 時 敵ヲ 認メラルヘキナ
リ 而シテ 四ノ 條件トハ 左ノ 如シ

(一) 部下ノ 爲ニ 責任ヲ 負フ 者 其 頭ニ アルコト
(二) 遠方ヨリ 歸國シ 得ヘキ 間 若シ 特殊 徽章ヲ 有スルコト
(三) 公然 兵隊ヲ 携帶スルコト

(四) 其 動作ニ 伴キ 戦術ノ 法規 慣例ヲ 遵守スルコト
但此 規則ハ 人数ノ 多少ニ 拘ラス 団体ヲ 組織シテ 戦國スル 不正規兵ニ
適用スルモノニシテ 箇々ニ 敵對行爲ヲ 行フ 個人ニハ 通用ナク 斯ノ 如
キ 個人ハ 戰時 重罪人トシテ 銃殺セラルヘキニシ

吾國ノ 陸軍法規ノ 交戦者トシテ 認メラル 不正規兵ノ 第一種ハ 未ダ
白領セラレカル 地方ノ 人民ニシテ 敵ノ 接近スルニ 際シテ 上述セル 四
ノ 條件ヲ 具備スル 傭兵ヲ 爲スノ 違ナク 侵入 軍隊ニ 抗敵スル 爲メ 自ラ 兵

爲す獲ル者ニシテ所謂群民敵討ノ場合ナリトス是レ政府ニ依ル組織
ヲ持シテシテ正統的ニ敵討行爲ニ出フルモノナリ在戦条規ハ是等ノ
者カ公然兵器ヲ携ハ且戦争ノ法規例ヲ遵守スルトキハ後令部下ノ
爲ニ責任ヲ負フ者其頭ニ在ルコトナク又遠方ヨリ認識ヲ得ヘキ國若
ノ特殊條約ヲ有スルコトナキモ之ニ交戦者タル特權ヲ認ムルコトト
セリ(一)是レ一方ニ於テ敵國ノ直接ノ利害ヲ度クル者ヲ或ルハ
交戦國ノ正規ノ兵力ニ限ルコトノ代リニ他方ニ於テ正規ノ兵力ノ一
部ヲ組織セサル個人ハ直接ノ敵討行爲ヲ行フヲ得スト其ス理今ノ交
戦法規ノ原則ニ付スル一ノ例外ヲ認メタルモノニシテ之ヲ認メタル
主ナル理由ハ眼前ニ敵兵ノ近クテ見テ地方ノ人民カ自發的ニ兵器
ヲ操リテ祖國ノ爲メ家郷ノ爲メニ防戦スルハ人情ノ自然ニ出テ之ヲ
戦時重要ト爲スハ人情ニ依ルル所ナリ然レトモ既ニ占領セ
ラレタル地方ノ住民ニシテ占領軍ニ對シテ敵討ヲ爲スハ戦時重要人
ヲ以テ論ニ統裁スルヲ得ルナリ其理由ハ占領軍ハ既ニ占領シタル地
方ニ於テハ自己ノ安全ニ必要ナル処分ヲ行ヒ得ルノ權能ヲ操メラレ

四四

サルヘカヲメシラ此占領軍ノ安全ノ必要ノ觀念ハ之ヲ個人ニ對スル
人情ノ觀念ニ勝タシメサルヲ得サレハナリ
上述ノ二種ノ不正規兵中ニ存シテ戰國負ト非戰國負トヲ別テ得ハ
キモ戰國負モ非戰國負モ其ニ交戦者タルノ利益ヲ享ケ均シク俘虏ノ
取扱ヲ受ケルノ利益ヲ有セヘキモノトス(在戦条規三)
或ハ文明國間ノ戦争ニ於テ野蠻人ヲ使用シテ敵討ニ従事セシムル
ハ不法ナリト爲シ野蠻人ニ交戦者タルノ特權ヲ認メサルヲ得ルト爲
ス者アリ然レモ戦争ニ於テ野蠻人ヲ使用シ得ルト爲スノ國際法規
ノ確立セルコトヲ認ムルヲ得ス而シテ文明國間ノ戦争ニ於テ戰國ニ
使用サレタル野蠻人ニ交戦者トシテノ特權ヲ認ムヘキモ否ヤノ問題
ニ付シテモ遠ニ之ニ交戦者トシテノ特權ヲ認メサルヲ得ルト断言シ
得ス野蠻人タリトモ交戦法規ヲ遵守セハ之ニ交戦者ノ利益ヲ認メナ
レノ理由ナキカ加シ蓋戦争ニ於テ野蠻人ヲ使用スル場合ヲ區別シテ
論セザルヘカラス野蠻人種ノ中ヨリ兵士ヲ募リ之ニ訓練ヲ与ヘテ文
明的ナル軍隊ノ全部若ハ一部ヲ組織スル如キハ不法ニテラサル明白

四五

ニシテ斯ノ如キ軍隊ニ屬スル政本人ノ所謂野蠻人種ニ屬スル兵士ニ
テ文獻者タルノ特權ヲ認メラルヘキナリ然レトモ戰爭ニ當リテ軍醫
人ヲ軍ノ補助トシテ其酋長ノ指揮ノ下ニ成立ニ動作セシメテ使用ス
ル如キハ依令國際法上明白ニ不合法ナリト斷言シ得ラルモ交戦法規違
反ノ場合ヲ生メレノ虞大ナルヲ以テ之ヲ使用スルコトヲ批難セサル
ヲ得スヨテ現實ニ交戦法規違反ノ行ハルヘキ重大ノ虞ヲ存セハ使用
サレタル野蠻人ニ交戦者ノ資格ヲ認メサル等ノ知置ヲ執リ得ヘキモ
ノナルヘシ

交戦國ノ海上ノ兵力ハ現今ニ於テハ主トシテ正規ノ海軍ヨリ成リ
正規ノ海軍ハ主トシテ海上ニ於ケル軍艦及其乘員ヨリ成ル
軍艦ノ乘員其他ニ屬スレ者ニテハ陸軍ニ屬スレ者ト同シク陸軍
自ラト非戰乘員タルトテ向ハス交戦者ノ資格ニ伴フ特種利益ハ所
謂交戦者ノ特權ヲ認メラルニ補ヘラレタル場合ニ於テハ陸軍ノ
取扱ヲ受クルノ利益ヲ認メラルヘキモノトス
正規ノ海軍ハ軍艦以外ニ所屬ノ船舶ヲ指シテ其ノ一部ト爲ス現今

ニ於テ許セ、百ハ收買ノ或兵船会社ト約シテ兵士ノ船中ヲ臨時ニ於
テ海軍所屬ノ船舶トシテ使用スルノ準備ヲ爲ス
戰時ニ於テ新船ヲ軍艦ニ変更スルコトアリセニテテ等ニ同ノ平
和公認ニ於テ新船ノ軍艦ニ変更シタルモ、ハ其船中ノ國旗ノ所屬國
ノ直接ノ管轄、直轄ノ監督及責任ノ下ニ置ケルルニテラサレハ軍艦
ニ屬スル權利及義務ヲ有スルコトヲ得ルニシテ商船ノ軍艦ニ変更レバ
ルモ、ハ其國ノ軍艦ノ外部ノ特殊條章ヲ付スルコトヲ得ストシ又指
揮官ハ國家ノ勅命ニ服シ且當該官憲ニ依テ正式ニ任命セラレ其氏名
ハ艦隊ノ將校名簿中ニ記載セラルルヲ要シ乘員ハ軍艦ニ服スヘキモ
ノトスヘ商船ノ軍艦ニ変更スルコトニテスル條約一乃至四ノ若シ上
述ノ條件付具シテハ武裝ノ有無又ハ程度如何ニ拘ラヌ所謂軍艦ニ
屬スル權利義務ヲ認メラル而シテ商船ノ軍艦ニ変更シタルモ、ハ認
メ其行動ニ付キ戰爭ノ法規慣例ヲ遵守スヘキモノトス(同條約五)
又商船ヲ軍艦ニ変更シタルモノハ或ルヘク速ニ変更ヲ其軍艦表計ニ
記入スルコトヲ要スルト爲ス然レニ公海ニ於ケル変更ニ關シテテ前

レ得ルト為スノ説ト為シ得スト為スノ説トアリ岸ニ回平和会議及命
兼海軍法現會議ノ條ニ於テモ此莫ニテスル規定ヲ設クルヲ得ス変更
ノ尚懸ノ懸シキヲ致セル原因ハ日露戰爭ノ條ノニテレブルグ及スモ
一レンスクヲノ事件ニ在リ
戰爭前ナルト戰爭中ナルトニ拘ラズ正規ノ海軍ノ一部ヲ成スニ至レ
ル艦船ハ一面ノ船上ニ於ケル正規ノ兵カタリトス海上ニ於テモ不正
規ノ兵カケ存シ得ルナリ海上ノ不正規ノ兵カノ第一種ハ現今一於テ
ハ船ト岸止セテレメリト認ムルキ捕獲免許私船ニシテ其第一種ハ
敵ノ攻撃ヲ被リタル商船ナリトス
捕獲免許私船ハ昔時ニ於テ交戦國ノ海上ニ於ケル不規則ノ兵カトシ
テ盛ニ活動セリ捕獲免許私船トハ捕獲免許成テ交戦國ヨリ得テ敵對
行為ニ参加シ殊ニ敵國ノ商船ノ拿捕ニ從事スル私船ナリ捕獲免許私
船ノ濫觴ハ十五世紀中ニ在リ十八世紀ニ至ルマテ盛ニ行ハレメリ當
初交戦國ハ自國船ノミナラス中立船ニ對シテモ捕獲免許成テ予ハタ
ルモ十八世紀ニ至リ交戦國ノ其臣民ノ所有スル私船ノミニ捕獲免許成

テ予アルノ條例ヲ世セリ一八五六年ノ巴黎宣言ニ依リ捕獲免許私船
ノ禁止リ同年ノ巴黎列國會議ニ代表者ヲ出セル英、仏、露、普、墺
サ、ドイツ、イ、エ、マ、一土、一七國ノ間ニ約定セテ其後兩國條約ノ大
多數ノ國ハ此宣言ニ加盟スルニ至リ加盟セサル諸國モ實際ニ於テ私
船ニ捕獲免許成テ予アルニトナク今日ニ於テハ捕獲免許私船ノ禁止
ハ殆ト國際法ノ一ノ規則ヲ成スト認ムルヲ得ヘキナリ
所謂海軍艦隊ヲ又戰國ノ海軍ノ一部ト認ムヘキマ否ヤニ于テ區別
ヲ五テテ答フルヲ要ス一八七〇年ノ海軍條約ノ際ニ於テ吾國ハ北極
ニ即邦ノカ編成シタル所謂海軍艦隊ハ戰爭ニ際シテ私人ノ船隻シ私
人ノ其要員ヲ編成シ各艦船ニ行前ニ功績ニ依リ賞金ヲ予ハラルヘキ
船隻ニ北極ニ海軍ノ一部タル資格ヲ予ハタルモノニシテ其已里宣言
ノ捕獲免許私船ノ條上ノ條款ニ抵触セサルマ否マニ就テ學者間ニ誤
論多シ巴里宣言ノ捕獲免許私船ヲ禁ムルノ趣意タルマ畢竟私船ヲ以
テ維持シ私船ヲ以テ目的ノ一部トシ私人ノ其要員ヲ編成シ而シテ國
家ノ正規ノ海軍ノ直接ノ管轄スルハ監督ヲ受レテ行動スルキ其條約ハ

到底適當ノ監視ヲ施スコト能ハサルモノト爲シ此種ノ武裝船ヲシテ
戰爭行為(捕獲ヲ含ム)ヲ行ハシムルコトヲ禁止シ以テ海上ニ於ケル
戰爭行為ノ不正、不法ヲキヨク期セントモルニ在ルモノナルヲ以テ番
州戰爭ノ後各國ノ編成セル如キ私人ノ艦隊ニ私人ノ其來勇ヲ編成シ
正規ノ海軍ノ直接ノ管轄、監督ヲ與レテ各箇的ニ行動シ切實如何ニ
依リ資金ヲ与ヘラルヘキ船舶ハ其來ニ於テ巴里宣言ノ捕獲免許私船
禁止ノ條款ニ触ルルモノト解スヘキカ加シ
露國ハ一八七七年以來所謂義勇艦隊ヲ有シ其船舶ハ私費ヲ以テ建造
シ平時商船被ヲ擄ク然レトモ其船長及少クトモ他ノ一名ノ乗員ハ官
ノ任命ヲ度ケテ海軍ノ軍記ノ下ニ立ワ而シテ戰時ニ至レハ船舶ハ軍
艦又ハ其他ノ國家ノ用船トシテ之ヲ使用ス戰時ニ於テ吳等ノ船舶カ
露國ノ正規ノ海軍ノ一部ニ編入セラル、ゴトアルハ疑ヲ容レサル所
ナルモ其未ダ正式ニ海軍ノ一部ニ編入セラレスニテ商船被ヲ擄クル
際ニ於テハ異論アルモ余ハ海軍ノ一部ニ屬セタルノミナラス多少性
質カ曖昧ナルモ其利益ニ干レテハ軍艦以外ノ公船タルノ利益ヲモ享

五〇

有スルノ資格ヲキモノト信ス而シテ露國ノ義勇艦隊ノ如キハ巴里宣
言ト能ハサル貞實モ存セスシテ適法ナリト云ハサルヘカラス
海上ノ不正規ノ兵力ノ第一種ハ敵ノ攻撃ヲ度ケタル私船ナリトス純
粹ノ商船等ノ私船モ敵ノ攻撃ニ対シテ所擄ヲ爲スヲ得ヘク抗ワ敵ノ
攻撃ニ對シタル場合ニ敵ト戰フヲセテ奪捕スルコトヲ得足等ノ場合
ニ於テ私船ノ船員モ交戦者トナルモノニシテ一國ノ兵力ヲ組織スル
各員ノ相スヘキ所稱特權ヲ認メラルハキモノトス私船ニシテ攻撃ヲ
度ケサルニ進テ敵對行為ヲ行フトハ其船員ハ敵ニ依リ戰時重罪人
ヲ以テ目セラルルニ至ル

第四章 人及物ノ敵性

第一 概説

交戦國ハ戰爭ノ目的ヲ達スルタメニ敵性ヲ有スル人及物ニ對シテ種
々ノ攻撃手段ヲ採ルヲ得ルヲ以テ敵性ヲ有スル人及物ノ何タルマヲ

五一

是レモノ必要アリ

第二 人ノ敵性

戦争ニ於ケル個人ノ地位ニ于テ其ハ戦争ハ國家間ノ干渉ナルヲ以テ個人ハ個人トシテ敵性ヲ有セズ國家ノ兵力ノ一部ヲ組織スル場合ニ於テ相手國ヨリ見テ敵トナルノミナリトノ説ヲ為ス者アルコト敵ニ前ニ述ハタル所ナリ然レトモ國家トシテ屬スル個人トハ其間ニ緊密ナル事実上ノ干渉ヲ有スルヲ以テ個人ハ其ノ屬スル國家ノ戰爭ト無交渉ナルヲ得ズ僕テ個人ニ對テ相手國ヨリ見レハ敵國ノ臣民トシテ戦争ノ目的ニ必要ナル範圍内ニ於テ敵性ヲ有スルト看做シ之ニ對シテ國際法規ノ禁止セサル必要ナレ加害ヲ行フヲ妨グル故ニ戦争ハ國家間ニ存在スル状態ナリト云ヒ一方ノ交戦國ハ敵國ノ臣民ニ對シテ戦争上必要ナル範圍ニ於テ敵性ヲ認ムルヲ得ルナリ但英米等ニ於テハ交戦國ノ臣民相互ノ間ニモ当然敵對ノ干渉ヲ生スルノ思想前不ハルモ現今國際團體内ノ一紙ノ思想ヨリ云ハハ斯ノ如キ思想ハ

時代後レト云フヲ得ハレ因ヨリ國內法上斯ノ如キ思想ニ基テ主義ヲ採ルコトハ其結果ニシテ既ニ確立セル特別ノ國際法上ノ規定ニ及セサルニ於テハ國際法ノ殊スル所ニアラサルナリ

現今ノ國際法上個人ハ其所屬國トノ關係ノ干渉ニ感テ敵國ニ依リ戰爭ノ必要ノ範圍内ニ於テ敵性ヲ認ラレト為スヲ國際慣行ノ實際ニ合スルノ見解ト為スモ今日ニ於テハ各交戦國ノ原則トシテ各其正視ノ陸海軍ニ依リ敵ノ正規ノ陸海軍ニ對シテ直接ノ加害ヲ加フレトトニ依リ戰爭ニ於ケル交戦國ノ目的ヲ達スヘキコトヲ認メラルルヲ以テ個人ハ特別ノ場合ヲ除キテハ戦争ニ於ケル直接ノ加害手段ヲ加ハラルルコトナキモノナリ

現今ノ國際法上敵國ノ臣民ハ敵性ヲ有シ自國及中立國ノ臣民ハ敵性ヲ有セサルヲ原則トス然レトモセニ于テハ例外規メラレ上正ノ原則ノ例外ノ一ハ戰爭中交戦國ノ兵力ニ加ハリ又ハ其ノ為ニ敵對行為ヲ為ス等ノ交戦國ト時ニ緊密ノ干渉ヲ作ルルキ行為ヲ為スル中立國臣民ニ于テ是等ノ中立國臣民ハ相手國ヨリ見レハ敵性ヲ

有シ中立人タルノ利益ヲ主張スル能ハサルニ至ル戦争中敵國臣民ニ
ミテ是等ノ行為ヲ為ス者ニ対シテ行フヲ得、キ子紋（攻撃シヌハ得
得ト為ス等）ハ斯ノ如キ敵性ヲ有スレ中立國臣民ニ対シテモ行フヲ
得ルニ至ル海牙ノ條約ノ場合ニ於ケル中立國及中立人ノ裁判義務ニ
テスル條約ハ中立人ク（甲）交戦者ニ対シ敵對行為ヲ為ストキ又ハ
（乙）交戦者ノ利益トナルヘキ行為ヲ為ストキ殊ニ在志ニ交戦國ノ
一方ノ軍ニ入り服務スルトキハ其中立ノ利益ヲ享ケル能ハストス但
一方ノ交戦國ニ対シ中立ヲ守ラザリシ中立人ハ該交戦國ヨリ同一ノ
行為ヲ為シタル他方ノ交戦國ノ臣民ニ比シテ一層嚴酷ナル取扱ヲ受
クルコトナレトス（一七）而シテ（乙）ニ所謂交戦者ノ一方ノ利益
トナルヘキ行為中ニハ次ニ奉ケルモノヲ含マストス曰ク（一八）交戦
者ノ一方ニ供給ヲ為シヌハ其公債ニ應ズルコト（但供給者又ハ債主
ク他方ノ交戦國ノ領土又ハ其占領地ニ在居ス且供給品ハ其地方
ヨリ来ラサルモノナルトキニ限ル）（一九）警察又ハ民政ニテスル勤
務ニ服スルコト是ナリト（一八）

中立國臣民カ其中立性ヲ失ヒ敵性ヲ得ルニ至ルヘキ行為ハ必スシ
モ戦争開始後ニ至リテ始メテ行フヲ得セヌ中立國臣民カ開戦
前ニ行ヘル行為ニ依リ外國ト緊密ノ干渉ヲ有シ該外國ノ交戦國トナ
ルヘキ戦争ノ開始ト同時ニ若シ該敵性ヲ有スルニ至ルコトアリ（例ハ
中立國臣民カ平時ヨリ外國ノ軍務ニ服スルトキ）此場合ニ敵性ヲ脱
スルト欲セハ直ニ外國ト緊密ノ干渉ヲ絶ワシ行為ヲ為ササルヘカ
ラス

上述ノ原則ノ例外ノ所ニハ敵國ニ在任スル中立國臣民ニ関ス此場合
ハ例外ノ第一ノ場合ト見ニシテ等ニテ敵性ト誅スルニ例外ノ第一ノ
場合ヲ推測的ノ敵性ニシテ該格ノ意思ニ於ケル敵性ニテスルニ及シテ度
動的ノ敵性ニシテ該格ノ意思ニ於ケル敵性ニテスルモノナリ敵國ニ在任
スル中立國臣民ハ皆野ヨリ一級敵國臣民ト同様に取扱フ受ケタリ今
日ニ於テモ英國主權ハ中立國臣民タルト交戦國臣民タルト向ハス
敵國ニ在任スルトキハ敵性ヲ度ノヘキヲ認ム英國主權ノ理由トスル
所ハ敵國ニ在任スル者ハ租税、徵稅又ハ其他ノ賦課ヲ拒マズ事ニ

依り敵國ノ抵抗カヲ維持スルコトヲ補助シ敵國ト緊密ノ關係ヲ有ス
ルニ至ルト云フニ在リ此理由ニ依リ敵國ノ國籍ヲ有スル平和的臣民
及其財產ニ對シテ國政法上行セ得ハキ折ハ敵國ニ在在スル中立國臣
民及其財產ニ對シテ等シク行セ得ハシト爲メ即チ是等中立國臣
民ト雖ニ微細及取立金ヲ課セヨルハク占領地ニ對シテ敵行爲ヲ行ハ
ルニ任民ニ負ハス制限ヲ負ハセヨレ占領地ニ對シテ敵行爲ヲ行ハ
ハ戦時重罪人トシテ知罰セヨレ所ニ必要ナル事情アル場合ニ於テハ
俘虜トシテ抑留セヨルハニ至リ但敵國ニ在在スト雖モ中立國臣民ハ
文敵國ノ戰時法規違反ノ知罰ニ對シテ其本國ノ保護ヲ失フコトナシ
此國臣民ハ理論上ニ於テハ敵國ニ在在スル中立國臣民ノ敵性ヲ受メ
ルコトヲ認メサルニ此意ニ干スレ英國主義ノ結果ハ實際ニ於テ吾々
認メラルル所ナリ苟ニ回平和會議ノ條約乙ハ敵國ニ在在スル中立國臣民
ニ對シテ之ヲ一般ノ任民ト區別シラセヨ特別ノ地位ヲ認ムルハ提議
ヲ爲シ其公國主義ノ當然ノ結果トシラセヨハキ折ナルニ相テスル公國
ノ委員會ニ於テハ多數ノ國ノ委員ハ日英露仏ノ委員ヲ合ハシメテ對

スル所ト爲リ百大コレタリ

人ノ敵性ニ干スル上述ノ原則ニ對スル例外ノ第三ハ海上捕獲ニ在
レル船舶及貨物ノ敵性ヲ認ムルノ前提トシテ定ムルハ人ノ敵性ノ同
一國又英米主義ニ依レハ敵國ノ臣民カ中立國又ハ自國ニ在在スル所
スルトキハ敵性ヲ有スルト看做シ彼ヲ其所有スル財產ハ原則トシテ
敵性ヲ有メスト看做シ又中立國臣民ハ又ハ自國臣民ノ敵國ニ在在
ニ勞務ニ從事シ現物ヲ敵國ニ与ル等敵國ト時ニ緊密ノ關係ヲ有ス
ルニ至ル場合(例外ノ第一ニ相當スレ場合)ノ以外ニ於テ敵國ニ在
在スル所トキハ敵性ヲ有スルト看做シ彼ヲ其所有スル財產ハ原則
トシテ敵性ヲ有スルト看做スト雖モ自國主義ニ於テハ中立國人ニシ
テ上述ノ例外第一ニ依リ敵性ヲ有スルモノヲ除キテハ敵國ノ臣民ノ
ミカ敵性ヲ有シ彼ヲ敵國臣民ノ所有スル貨物ノミカ海上捕獲ニ干シ
敵性ヲ有スルト看做シ而シテ敵國臣民ハ在在ノ如何ニ拘ラズ常ニ敵性
ヲ有シ彼ヲ其所有スル貨物ハ常ニ敵性ヲ有スト爲メ英國主義カ物ノ
敵性ヲ認ムルニ付キ概シテ將主ノ在在ヲ標準トスルニ及ビテ自國主

五八
兵ハ專ラ持主ノ国籍ヲ標準トスルアリ我國モ在米英國主義ヲ採レレ
モ(捕獲規程三、四)日艦戰歿ニ於テ从國主義ヲ取ルニ至レリ此定
ニ于レ一九〇八年開會ノ倫敦海戰法規會議ニ於テ商論アリミモ規定
ヲ見ス倫敦宣言ハ敵船内ニ在ル貨物ノ中立性ヲ有スルマ敵性ヲ有ス
ルマハ其持主ノ中立性ヲ有スルマ敵性ヲ有スルマニ依リテ定マルヲ
規定スレトモ(五八)国籍又ハ住所ノ何レノ標準ニ依リテ持主ノ中
立性ナレヤ又ハ敵性ナレヤヲ定ムヘキカヲ規定セム日艦戰事ノ際ニ
出テタル我國ノ軍令海戰法規ニ於テ敵船内ニ在ル貨物ノ中立性ヲ有
スルマ又ハ敵性ヲ有スルマハ其所有者ノ国籍ノ中立ナルマ又ハ敵性
ルマニ依リテ定ムトシ所有者カ二重ノ国籍ヲ有スル場合ニ於テハ
其住所ノ中立國ニ在ルマ又ハ敵國ニ在ルマニ依リテ定ムトス(海
戰法規一九)

第三 物ノ敵性

原則トシテ敵性ヲ有スル人ニ屬スル物(船舶ニ付テハ別ニ第四ニ

於テ説クヘキモノトス)ハ敵性ヲ有シ、敵性ヲ有セザル人ニ屬スル物ハ敵性ヲ有
セズ依テ陸上及海上ノ千係ニ於テ敵國ノ陸海軍ニ加ハリ又ハ敵國ノ
爲ニ敵對行為ヲ行フ等ノ交戰國ト特別ナル關係ノ千係ヲ作ルヘキ行
爲ヲ爲マル中立人(人ノ敵性ニ于スル例外ノ第一ノ場合ニ當ル)ニ
屬スル物ハ現今ノ國際法上敵性ヲ有スルヲ認メ得ヘク又陸上ノ千係
ニ於テ中立人ニシテ敵國ニ在在スル人(人ノ敵性ニ關スル原則ノ例
外ノ第一ノ場合ニ當ル)ニ屬スル人ハ英國主義ノ理論ニ於テ及理論
ノ如何ニ拘ラズ現今ノ國際ノ實行ニ於テ敵性ヲ有スルト認メラル又
條約所有者ハ敵國ニ在在セザルモ中立人ニ屬スル敵國ニ存在スル物
ニ于シテモ亦同レトス又海上捕獲ノ千係ニ於テハ英國主義及大陸主
義カ共ニ所有者ノ敵性ヲ有スルト否トニ依リテ海上ニ於ケル貨物ノ
敵性ヲ有スルマ否ヤヲ定ムルノ原則(倫敦宣言五八)然レテ陸上モ
人ノ敵性ヲ有スルマ否ヤヲ定ムル標準カ英國主義ト大陸主義トニ依
リテ異リテ英國主義ハ概シテ住所ヲ標準トシ大陸主義ハ專ラ国籍ヲ
標準トスルニ依リ海上ニ於ケル貨物ノ敵性ヲ有スルマ否ヤハ英國主

既ノ探レ回ト大陸主戦ニ依ル國トノ間ニ實際ノ慣行ニ於テ互異アル
ヲ免レ又我回ハ在米英米主戦ヲ取レルモ日独戰役ノ際出セル軍令海
戰法規ニ於テ大陸主戦ヲ取レリ(海戰法規一九)英米主戦及大陸主
戦ニ於ケル海上捕獲ニ付スル人ノ敵性ニ付キ已ニ詳述セルヲ以テ敵
性ヲ有スルモ否ヤノ所有者ノ資格ニ基テ物ノ敵性ト否トノ標準ニ付
ト茲ニ更ニ詳述スルヲ要セサルナリ

大陸主戦ニ於テハ海上ニ於ケル貨物ノ敵性ノ有無ハ專ラ持主ノ敵
性ノ有無ニ依リテ定マルト云フヲ得、キモ英米主戦ニ於テハ持主ノ
敵性以外ニ貨物ヲシテ敵性ヲ有セシムル原因ヲ存スルモノトス

(一) 敵國又ハ推定敵國ノ兵力ニ歸シタル敵軍ノ占領地ニ在ル
土地ノ生産物ハ敵令該土地ノ所有者力敵國ニ在テ有セサル中
國人又ハ自國人タルドキニ於テモ(即チ敵性ヲ有セサル人タルト
キニ於テモ)敵地ヨリ出ワル航海中ニ於テエテ敵領ト看做ス(ス
ト一ウエレ御ノ「フエニウクス」号事件ノ判決)
(二) 敵國ニ在テ有セサルモ敵國ニ商売ヲ有スル者一屬スル該商

店ノ商業上ノ取引ニ付テハ財產ハ所有者力商業上ノ在テ有テ敵國
ニ有スルノ故ヲ以テ敵性ヲ度ク

(三) 敵國軍艦又ハ武装セル敵國ノ私船(捕獲免許私船タル場合ヲ
リ)ニ積載スル場合ニ於テ中立貨物ヲ敵領ト爲セル英國ノ判決例
アリ(「ストー」号事件ノ判決)然レニ

台家回ニハ一見反對ナル判決例アリ「ネー」号事件)
海上ノ貨物ノ敵性ニ付シテ敵船中ニ在ルモノニ付テ中立性ヲ有スル
モノト立証ニ得サルトキハ其貨物ハ敵性ヲ有スト推定ス(キゴトハ
慣例ノ誤ムル所ナリ倫敦宣言モ亦明ニ之ヲ認メタリ(五九)我國ノ
軍令海戰法規ニ同概ノ規定ヲ置ケリ(二〇)

航海中ノ貨物ノ敵人ヨリ中立人ニ所有權ヲ移轉スルコトニ付テハ
米英米主戦ト自國主戦トノ間ニ互異アリ自國主戦ニ於テハ航海中ノ
所有權移轉ノ善意ニ行ハレタルトキハ有效ト爲ス(英米主戦ニ於テ
ハ買主タル中立人力貨物ヲ占有スル前ニ船船力拿捕サレトキハ航
海中ノ貨物ノ所有權ノ移轉ヲ認メス倫敦宣言ハ英米主戦ヲ控リ敵船

内ニ各款ナル貨物ノ敵性ハ戰争開始後航海中ニ所有權ノ移轉ヲ行フ
トモ其仕向地ニ到着スルマテハ依然存続スル所ナリ而シテ此原則ニ對
シテ極テ稀ナル場合ニ於テ起ルハキ例外ヲ定ム即チ敵船内ニ在ル貨物ノ
現物主タル敵人ノ破産シタル場合ニ而テ主タル中立人ニシテ拿捕以
前ニ其貨物ニ對シ合法ノ取戻權ヲ行使シタルトキハ其貨物ハ再ニ中
立性ヲ取得スルモノト爲スヘク(一)我國ノ軍令海戰法規モ同様ノ規
定ヲ置ケリ(二一)

六二

第四 船舶ノ敵性

船舶ノ敵性ノ問題ニ干シテ英米主義ニ於テハ先ク敵ノ國旗ヲ掲ケ又
ハ敵國ノ國籍証書ノ下ニ航行スル船舶ハ敵船トシ又其以外ノ船舶ニ
テモ其公認又ハ一部ヲ所有スルモノカ敵國又ハ敵國人ナルトキハ之
ヲ敵船ト爲ス(一)我國海戰法規第六條及第七條(一)故ニ英米主義ニ於
テハ船舶ノ敵性ノ問題ハ私人ノ敵性ノ問題ト干渉スルモノナリ大陸
主義ニ於テハ專ラ船舶ノ國旗ヲ掲ケルノ権利ヲ有スル國ノ有ナルヤ

(即チ船舶ノ國籍ノ有ルモノ)ニ重キヲ置ケリ一九〇九年ノ倫敦宣言
ハ大陸主義ヲ認メ船舶ノ中立性ヲ有スルモノ又ハ敵性ヲ有スルモノハ其
掲揚ノ権利ヲ有スル國旗如何ニ依リテ之ヲ定ムルト爲セリ(一)宣言五
七第一項(一)我軍令海戰法規ハ此矣ニ於テ倫敦宣言ト同シキ規定ヲ置
ケリ(一)八第一項(一)英國ニ於テハ所謂一七五六年ノ規則ニ依リテ戰
争ニ至リ平時ニ於テ禁止セラレタル所ノ航海ニ從事スルヲ許サレル中
立國船ハ敵ノ航海商業ニ從事スルモノトシテ敵船ト看做スル主義ヲ
採リ倫敦宣言ニ於テモ此主義ヲ留保セリ所謂一七五六年ノ規則トハ
當時英仏兩國ノ海戰ニ際シ仏國ノ具ノ平素禁止セル本國港ト仏國ノ
殖民地トノ間ノ航海通商ヲ特ニ和蘭船ニ對シ許セルトナシ英國人ハ和
蘭船カ之ヲ行ハサレハ佛國ノ島嶼ハ必然的ニ英國ノ手ニ落ワヘシト
爲シ該航海通商ニ從事スル和蘭船ヲ敵ノ通商航海ニ從事スルモノト
看做シ是等ノ和蘭船ハ敵船ト看做スヘシト爲セルニ基ク我軍令海戰
法規ハ此矣ニ於テ英國ノ如ク中立船ニシテ敵國政府ノ許許ヲ得テ敵
國々平時ニ於テ他國船ヲ禁止スル航海ニ從事スルモノハ之ヲ敵船ト

六三

看放スト夫ハ(一八条第一項)

第五 船籍ノ移転

船舶ノ敵性ノ向違ニ于テ船舶ノ所有權移転ノ場合ニ付キ復蓋ナレキ
條ヲ生ズ。然レ戰中敵船ノ中立船トナルノ所有權移転ヲ自明トラシ
ムルトキハ敵船所有權ハ其所有船ヲ中立船トナシテ拿捕ヲ免ルルヲ
尤ムヘキナリ且戰中開始前ニ於テモ開戦ノ事實ヲ予知リテ拿捕ヲ
免ルルカ爲ニ所有權ヲ移転スレトテ例限スヘシト爲スノ說アリ戰
争中敵船ノ所有權ヲ中立人ニ移転スレトニ關シテ他國主義ハ他國
的ニ移転ヲ無效ト看做スモノトス英米主義ニ於テハ又ニ及ニテ絶対
的ニ移転ヲ無效ト看做スコトナキモ敵船ノ中立船トナルノ所有權移
転ニ付キテ例限ヲ設ク敵船ヨリ中立船ニ賣格ヲ變スルヲ有效ト認ム
ルニハ所有權ノ移転ニ關シ共善意 *bona fide* 耳完セタルコトノ
証明アルヲ要ス(我國捕獲規程七第一項第三号)而シテ船舶ニシテ
其航行中所有權ヲ移転セラレ未ダ現貨ノ引渡ナキ場合ニ於テハ移転

ヲ有效ト認メス(我國捕獲規程七第二項)又英國ニ於テ移轉ノ對戦
ヲ及ノル憲津波ニ於テ行ハレタルトキニ於テモ移轉ヲ有效ト認メ
又戰争開始前ニ行ハルル敵船ノ中立船トナルノ所有權移転ニ于シテ
國主義ハ移轉カ正当ノ証トシテ以テ證明セラルレハ移轉ヲ有效ト認ム
ルニ英米及我國ノ主義ニ於テハ戰争開始前ニ於テ開戦ヲ予期シテ行
ハル敵船ノ中立船トナルノ移轉ハ始メ戰争中ニ於テ行ハル敵船ノ中
立船トナルノ移轉ノ如ク取扱フモノトス(我國捕獲規程七第三項)
論戰宣言ハ戰争開始後敵船ヲ中立國籍ニ移轉シタル場合ニ於テハ
該移轉ニシテ敵船タル性質ヨリ生ズヘキ拿捕及取奪ノ結果ヲ免レン
カ爲メ行ハレタルモノニ準テレトテ船舶ヨリ證明スル場合ヲ除ク
ノ外又ヲ無効トス然レトモ(イ)移轉ニシテ船舶ノ航行中又ハ其村
與港域ニ在ル間ニ行ハレタル場合(ロ)移轉ニシテ買取又ハ運送ノ
條件ヲ有スル場合又ハ(ハ)國境場場ノ權利ニ于シ其兩國志ニ規定
セル條件ヲ遵守セラルル場合ニ於テハ戰争開始後ノ移轉ハ前述ノ證明
ノ有無ヲ論セス無効ナリト看做ス

前戰前ノ移転ニ関シ倫敦宣言ハ原則トシテハ敵船ヲ中立船ト爲ス
 ノ移転ニシテ敵船トシ性質ヨリ生ズル結果ヲ免レンカ爲メニ行ハレ
 タルモノナルコトヲ拿捕者ヨリ証明スル場合ヲ除クノ外ハ有效アリ
 ト定ム但敵船ニシテ或等開港前六十日以内ニ交戦國ノ国籍ヲ喪失マ
 ル場合ニ於テ該船内ニ移転証書ヲ有セタルトキハ嫌疑ノ爲メ該船取
 ハ無効ナリト推定ス而シテ船取ヨリ反証ヲ呈クルコトヲ許シ該船ノ
 性質ヨリ生ズル結果ヲ免レンカ爲メニ行ハレタルモノニテラナル
 コトヲ證明セム指致トマラル此特別ノ場合ノ上述ノ原則ノ場合ト異
 ルハ前戰前ノ移転ハ原則トシテハ有效ニシテ拿捕者ヨリ指致ノ証明
 可爲スヘキモノナルニ上述ノ特別ノ場合ハ無効ト推定スヘキ
 船取ヨリ指致ノ証明ヲ爲スヘキモノナルニ在リ上述ノ開戦前ノ移転
 ノ總テノ場合ニ於テ移転ノ有效ト認メラルハニハ千條國ノ國內法上
 ノ善通ノ指致ノ條件ヲ備ハルヲ要スルコト言テ得タス(八五五第一項)
 前戰前ノ移転ニテスル上述ノ原則ヲ適用テ無制限ニ開戦前ノ移転ニ
 及ホシ拿捕者ニ於テ敵性ヨリ生ズル結果ヲ免レシメク爲メニ行ハレタ

大六

此コトヲ証明セハ如何ニ開戦ヨリ永キ以前ニ行ハル移転モ無効ト爲
 スヲ得ルト爲スハ取引ノ安全ヲ保護スル以前ニテラスト爲シ倫敦宣
 言ハ開戦前六十日以前ニ行ハレタル移転ニ付テハ其絶対且先
 全ニシテ千條國ノ國法ニ遵テ爲カレ且移転ノ結果該船ノ監督及其
 使用ヨリ生ズル利益ニシテ移転前ニ於ケル同一人ニ屬セタルニ在リ
 タルトキハ該移転ハ有效ナリト看做スコトトマリ但該船ニシテ戰中
 開始前六十日以内ニ交戦國ノ国籍ヲ喪失シ且船内ニ移転証書ヲ有セ
 ンコトキハ嫌疑ノ充分ノ理由アリトシテ該船取ノ拿捕ヲ行フニ據テ
 證據ノ理由トナシコトナシトス(五五五第二項)
 倫敦宣言ハ中立船ノ軍事的補助ノ現場合ニ於テ中立船ヲ一般ニ敵商
 船ノ如ク取扱フヘキヲ定ム(倫敦宣言四三)中立船船ヲ一般ニ敵商
 船ノ如ク取扱ハルル場合ニハ次ノ結果ヲ生ズ(一)船中ニ在ル總テ
 ノ荷物ハ敵貨ト推定ナル(倫敦宣言五九)船中ニ在ル中立船ノ荷主
 ハ其貨物ノ中立性ヲ証明セナレバ(二)船中ニ在ル敵貨ハ没
 収ニ得ヘキニ至ル(三)已宣宣言第三則(一)(八)倫敦宣言ノ中立船取ノ

大七

破壊ノ制限ニ于スル規定(四八、四九)ハ適用ナキニ至シ(一)船
 隻ノ停泊トナルハキヤ否ヤニ于テ敵ノ商船ニ于テ海牙ノ捕獲規
 行便ノ制限ニ于スル條約第三章ノ準用アリト認めルハキヤ如シ又(五)
 交戦國ノ捕獲審檢所ノ決定ニ對シテ船主ハ國際捕獲審檢所ニ控訴ヲ
 為スヲ得ルハ單ニ船舶カ正當ニ敵船ト等シク取扱ハルハキ性質ヲ得
 タリト認めルハキヤ否ヤノ問題ニ于スルノミトナル(國際捕獲審檢所
 設置ニ于テ海牙條約三)但此ノ限長ノ國際捕獲審檢所ニ如斯ニ得
 ル莫ハ敵船ノ取扱ヲ受ケル中立船舶ノ單純ナル敵船ト認めル莫ナリ
 倫敦宣言ハ又停泊船檢査及拿捕ノ權利ノ合法ナル行便ニ對シテ強ク
 以テ抵抗スル船舶ハ一切ノ場合ニ没収シ其費用ハ敵船カ在ル戰費
 ノ受ケルト同一ノ處分ヲ受ケ船長又ハ該船舶ノ持主ニ屬スル船舶ハ
 之ヲ敵船ト看做スルキヤ定ム(宣言六三)此場合ハ戰費ニ關スル
 干係ニ於テ敵船ト同様ニ取扱フモノトス然レ軍事的幫助ノ場合ニ於
 テ敵商船ノ取扱ヲ受ケル結果トシテ述ベル中、(イ)及(ロ)ハ
 此場合ニ適用アリ

六八

日独戰役ノ條約國ノ命令者或規人船籍ノ移轉ニ于テ倫敦宣言ニ
 依リテ規程ヲ設ケタリ(二ニ及三ニ三)

第五章 交戦區域

此ニ所謂交戦區域トハ交戦國ノ兵力カ相互ニ敵對行爲ヲ行ヒ得、キ
 陸地水域及空中ヲ指スナリ交戦區域ハ兩交戦國ノ領土・領水及空中
 領域主ニ公海ヘ及至主ノ土地)及其上ニ位スル空中ヲ含ミ中立國ノ
 領土・領水及空中領域ヲ含マサルヲ原則トス然レ之ニハ例外下
 リトス(一)名義上中立國ニ屬スルモ交戦國ノ國權ヲ行フ租借地(ハ
 例ハ旅順口、威海衛)及其永続的ニ占領及行政ヲ行フ權利ヲ有ス
 ル土地(例ハ英國ノ占領及行政ヲ為サカイパラス、埃及其存命前
 占領及行政ヲ為セルボスニヤ)ハルウエゴヤイナ)ハ交戦區域ニ
 入ルモノトス(二)名義上交戦國ニ屬スルモ中立國ノ國權ヲ行フ租
 借地及中立國ノ永続的ニ占領行政スル權利ヲ有スル土地ハ交戦區域

六九

二入ラナルモノトス(三)中立領土ニシテ例ハ戦争ニ干スル一方支
 戦國ノ特別ノ政治ノ目的トスル所ニ干依アル場合又ハ一方支戰國
 ノ権限カ中立領土ニ入リ為ニ他方支戰國ノ軍隊ヲ自衛上攻撃又ハ防
 禦ノ為メ中立領土ニ入ルヲ必要トスル場合等ノ特別ノ事情ニ基キテ
 支戰國区域トナルコトアリ(四)支戰國ノ領土、領水ニシテ多數戰國
 又ハ干渉戰國間ノ條約ニ依リテ永久的ニ支戰國区域ヨリ除外セラレテ
 所謂中立区域トナルコトアリ(五)支戰國ノ領土、領水ニシテ戰爭
 中文戰國間ノ特別ノ條約ニ依リテ一時的ニ支戰國区域ヨリ除外セラレ
 ルコトアリ(六)支戰國、其ノ支戰國区域ト為レ得、キ領土、領水又
 ハ公海ニ對シテ支戰國ノ一方的ノ行為又ハ中立國トノ條約ニ依リ時ニ
 敵對的ノ行為及ホカササルコトアリ

七〇

第六章 戰爭ノ開始

第一 概説

現今ノ國際法ニ於テ國家ハ外交談判ヲ行ヒ又ハ他ノ國際紛争処理
 方法ヲ行ヒテ其主張ヲ貫シ能ハサシ場合ニ於テハ戰爭ヲ開始スルヲ
 得、キモ國際ノ紛争ヲモ存スル國際ノ紛争ヲ存スルモ之ニ干シテ外
 交談判ヲ行ハス又是ヲ行ヒテ和平ヲ他ノ手段ヲ用フルヲ待タスシ
 テ直ニ主張ヲ遂ルルヤ否ヤ未タ明ナラザル限ニ於テ不慮ニ戰爭ヲ開
 始スルハ蓋違法ヲ以テ同ニ得ヘキモノナルヘシ但シ同盟國ノ加ハレ
 ル戰爭ニ參加スルニ先キテ外交談判ニ付スノ必要ナキハ言テ猶タヌ
 第一 平和會議ノ條約ニ依レハ諸國ハ兵力ニ訴フルニ先
 ナ事情ノ許ス限リ其交戰國中ノ一國又ハ數國ノ開戦又ハ調停ニ依ル
 タルニトテ決定セリ(國際紛争平和的處理條約ニ)
 平時ニ於テ行フテ新ナレタル軍力手段タル復仇トシテ行フ
 七 平時對敵、船舶扣留ヲ含ム)ヲ行フモ直ニ戰爭開始スト云フテ外
 又但復讐ノ暴力手段、反對手國カ之ニ反抗スルコトニ依リ戰爭ヲ開始
 スル直ニ原因トナルコトアルノミナラス若シ復仇トシテ行フモノ
 ナルニトテ充分ニ明ニセシテ行フトヤハ反對手國ハ之ヲ戰爭行

七一

為ト認ムルコトヲ得ハキナリ又外交官ノ召還ニ依リ外交断絶スルモ
戦争開始アリト云フヲ得ス

従来戦争ノ開始ハ一方ノ國ノ相手國ニ對スル開戦ノ宣言ニ依ルコト
アリ或ハ一方ノ國ヨリシテ館屬ノ要求ヲ明示シ若干ノ時期(例ハ二
十四時間又ハ四十八時間)内ニ該要求ヲ依レサルトキハ敵對行為ヲ
開始スヘキヲ相手國ニ通告スル條件附ナレ開戦ノ宣言ヲ合メル儀
ノ通牒ヲ奉シ相手國ヲ要求スル所定ノ時期ヲ経過シタル
ニ依ルコトアリ或ハ一方ノ國ヨリ他方ニ對シ敵對行為ヲ行フニ依ル
コトアリ

第二 敵對行為ニ依ル戦争ノ開始

海牙ノ第二回平和會議ニ於テ開戦ニ于スル條約ニ依リ一定ノ予告
ナクシテ敵對行為ヲ行ヒ得タルコトハナレリ然レニ此條約實施以前
ニ於テ戦争ノ開始ニ際シ先ツ宣戰ヲ行ハサレハ敵對行為ヲ行フ能ハ
スニテ敵對行為ヲ受メノ一安リ戦争ヲ開始スルヲ得ヌト爲シ又宣戰前
ニ行ハル敵對行為ハ違法ナリト爲ヌモノアリタリ然レトモ實際ニ於

テ敵對行為ニ依リ戦争ノ開始セル事例許多ニシテ上述ノ條約實施以
前ニ於テハ國際法上戦争ノ開始カ必ス宣戰ニ依ラサレハカラスシテ
敵對行為ニ依ルヲ得ヌトスルノ規則ノ確立ニコレコトヲ行認セサルヲ
得ヌ唯如何ナル敵對行為ニ依リ戦争ヲ開始シ得ハキヤニ付テ議論
リ得ハカリシノミ但シ國際紛争ヲモ存セス又國際紛争アリトスルモ
之ニ于テ勝利ヲ行ハス若クハ裁判ヲ始メテ未タ相手方直ニ主張ヲ
爲ルルヤ否ヤ不明ナルニ當リ突然敵對行為ニ出スルカ如キハ在時ニ
於テモ慣習國際法違反トシテ得ハカリシナルハ然レトモ裁判前
段ナキニ當リ宣戰ヲ爲サスシテ敵對行為ニ出スルモ違法トシテ得
ナリシナリ殊ニ外交干渉カ断絶シ居クハ外交干渉ノ所絶テ宣言ニ自
由行動ノ権利ヲ確保スルノ宣言ノ例ハ日露戦争ノ際ノ二月六日ノ
宣言ニ於テ馬シテ後敵對行為ニ出スルモ違法ヲ以テ回ヌルヲ得ナリシ
所ナリ然レニ第二回平和會議ニ於テ締約諸國ハ其間ニ明瞭ナル予告
ヲ爲サスニテ敵對行為ヲ開始セサルハキヲ約スルニ至レリ

第二回平和會議ノ開戦ニ于テハ先ツ理由ヲ附セテ宣戦即チ
戦争開始ノ宣言ヲ為シ又ハ條件附宣戦ヲ含ム最良通牒ヲ送り以テ予
告ヲ為スニアラサレハ敵対行為ヲ行ハザルヲ定ム然レトモ予はト
敵対行為ノ開始トシテ過邊スヘキ期間ニ制シテ突ムル所ナリ平和
會議ニ於テ和南及露國ハ二十四時間ノ期間ヲ定ムヘキヲ主張セリ
或立セズ其結果トシテ永ク戦争ノ準備ヲ為サザルヲ不意ナラズルコ
トヲ急務防クヲ得ザルニ至レリ又上述ノ條約アルニ拘ラス突際ニ於
テ宣戦又ハ條件付宣戦ヲ含ム最良通牒ヲ發セザルニ戦争開始ノ場
合ニ至スルヲ免レヌ或ハ(イ)一方ハ開戦ニ向スル條約ヲ無視シテ
宣戦ヲ為サズシテ先ツ敵対行為ヲ行フコトアルヘク或ハ(ロ)切迫
セシ自衛上ノ緊急ノ必要ニ依リ宣戦ヲ為スノ邊ナラシテ敵対行為ニ
出ワルコトアルヘク(ハ)二回ノ兵力ノ間ニ停戦起リテ終ニ戦争ヲ
止スルコトアルヘク(ニ)復然ノ手段トシテ行ハル強カ手段又ハ
干渉ノ際ニ行ハル強カ手段又ハ平時到領力対手國ニ依リ強カ手段ヲ
抵抗サルルニ依リ敵対行為行ハレ戦争ノ止スルニ至ルコトアルヘキ

七四

ナリ是等ノ場合ニ於テ國際法違反ナルコト明白ナル場合ト否トカ同
ハス宣戦又ハ條件付宣戦ヲ含ム最後ノ通牒ヲ發スルコトナセ一
七敵対行為行ハルルニ至ラハ戦争ノ起レルヲ認メ戦争ニ于テ國際
法規ノ適用ヲ認メザルヲ得ナルニ至ルヘキナリ又上述ノ第二回平和
會議ノ開戦ニ于テ條約ノ締結國ト非締結國トノ間ノ干渉ニ於テハ
該條約ノ規定ハ通用ナキヲ以テ該條約ノ規定ノ平旨ヲ行フコトナラシテ
先リ敵対行為ヲ行フコトニ依リテ戦争ヲ開始スルハキモノト云フヘ
キ

第七章 開戦ノ結果

第一 緒言

戦争開始ノ結果ハ大抵開戦ニ及ラニ止マラスニテ中立國ニ對シテ
モ中立國ノ權利義務ヲ生セシムルニ至ルト云モ中立條約ニ別ニ
詳ニ論ニ於テ述フヘキヲ以テ此ニハ主トシテ大戦開戦ニ於ケル開戦

七五

直接ノ結果ニ付テモハントス

第二 交戦國間ノ外交關係ノ停止

戰爭ハ交戦國間ノ平和ヲ條ヲ終止セシムレモノヲ以テ若シ開戦ノ際又モ外交ノ斷絶即チ外交ノ停止ヲキトキハ開戦ニ依リ外交ノ條ヲ停止スルモトス敵國ニ在ル外交官ハ驅逐外務官一寄託セル身體ヲ採取リテ歸國又南賊ノ後ハ臣モ敵國ヲ去ルニ必要ナル期間ハ回ノ領事ハ開戦ニ依リテ認可カ致シテ以テ其職ヲ行フ能ハナルニ至ルレ公使館及領事館ノ建物及存積ノ保護並ニ敵國ニ在ル國人ノ保護ハ或中立國ノ外交使節及領事ニ依テスレテ常トス

第三 南賊ニ付スル條約ノ実施

西交戦國間ニシテ結ハレタルモノトルト第三回ノ之ニ由ハレテラ向ハテ戰時法規ニ付テスル條約(例ハ海牙ノ陸戰法規條約)又ハ

其他ノ戰爭ニ於テル特別ノ行爲若クハ不行爲ニ關スル條約(例ハ交戦國ノ領ニシテ或地方ノ交戦地域ノ外ニ置カレヘキト定ムル所謂中立地ニ關スル條約)ハ南賊ニ依リ其實施力ヲ發生ス

第四 或種ノ條約ノ效力ノ喪失又ハ停止

殊ニ戰時ニ付スル條約以外ノ交戦國間ノ條約ハ總テ南賊ニ依リ其效力ヲ失フト爲スノ說在時ニ行ハレタリシモ今日ニ於テハ概ヘテリ然レトモ今日ニ於テ如何ナル條約ノ效力ヲ失ヒ如何ナル條約ノ存続スヘキマニ付テテ學說ノ一致ヲ欠ケリ其モ標旨ナル說ト信スル所ノモノヲ舉ゲレハ左ノ如シ

(1) 永久ノ狀態ヲ定ムルコトヲ目的トスル條約(例ハ土地割讓條約、境界條約、獨立承認條約、如キ所謂 *Pacta Tamini* *Caricis* 屬スレモ)ハ他國ノ加ハレルモノナレト西交戦國ノ間ノ條約ナルトラ同々南賊ニ依リ当然其效力ヲ失フコトナシ

(2) 外交戰國間ノ政治上ノ條約ニシテ將來ノ作爲又ハ不作爲ヲ約
スルモノ(例ハ同盟條約、保護條約、担保條約、辨別範圍確定
條約)、仲裁ニ依リ其效力ヲ失フ

(3) 外交戰國以外ノ國ノ加ハレル國際行政上ノ條約、例ハ万国野
使聯合條約及國際法理ヲ定ムル條約(例ハ條約ノ拘束力ニ于テ
ル一八七一年ノ宣言)其他ノ外交戰國以外ノ國ノ加ハレル條約
ノ效力ハ外交戰國以外ノ國家ニ對シテハ變更ナク外交戰國ニ於
テモ條約自身ノ全ク効力ヲ失フコトナク戰爭ノ狀態ニ由リ實施
カ不可能トシテ是ニ依リ効力ヲ停止スルト爲メ原則トス然レト
モ政治上ノ條約中國際大條約(例ハ一八一五年ノ維納條約、一
八五六年ノ巴黎條約、一八七八年ノ柏林條約ノ款)一アヲナル
少數ノ國ノ間ノ條約(例ハ同盟條約又ハ担保條約)其締約國中
ノ二國ク外交戰國トナレル條ハ條約ノ内容ニ依リ外交戰國同ノ干
渉ニ於テ條約ノ效力ヲ失ヘリト認ムヘキコトアリ

(4) 上ニ述ハシタル(1)ハ(2)ニ(3)ニ合ミレサル外交戰國ノ條

XX

約中干預最高ニ于ル條約ハ例上開戦ニ依リ効力ヲ失フコト爲
メ場合多ク野使條約、犯罪人引渡條約國際私法ニ于テ條約ノ
如クハ軍ニ効力ヲ停止スルト爲メ場合多シトス然レトモ近時ニ
於テ(キ)ニ屬スル條約ハ開戦ニ依リ當然其効力ヲ失フモノニ
アラスレテ戰爭開始ナルハ當事者ノ一方ヨリ以テ廢棄ニ得ヘ
ク又特ニ廢棄セラル、コトナクハ戰爭中効力ヲ停止スルニ過ギ
スト爲スノ學說漸ク勢ヲ占メントス

(5) 其辭釈メハ適用カ戰爭ノ原因トナレル外交戰國間ノ條約ハ原
則トシテ消滅スルモノトス第三國ノ加ハレル條約ノ辭釈又ハ適
用カ戰爭ノ原因トナレル場合ニハ條約ハ外交戰國間ニハテトモ
争点ニ付キ効力ヲ失フト認メラルル如キモ締約國中ノ二國ノ文
戰ニ依リ當然ニ條約力也ノ締約國ニ對シテモ効力ヲ失フモノニ
アラズ此ノ場合ニ實際ニ於テ外交戰國以外ノ締約國ノ條約全体ノ
效力ノ喪失ヲ認ムルニ至ルコトナリ得ヘキナリ

第五 領域内ニ在ル敵國人ノ取扱

昔時開戦ノ際領域以テ在レ敵國人ハ直ニ之ヲ俘虜トシテ抑留スル
 ヲ得タルモ十八世紀ノ頃斯ノ如キ敵國人ハ相当ノ期間内ニ領域外ニ
 退去スルヲ許スヘキコト國際慣例トナレリ然レ故倫戦争ノ時一八一八
 三年一開戦ノ際英國ニ在リタル一万ノ英人ヲ俘虜トシテ一八一四年
 ノ講和ノ條迄抑留セルコトアルモ於故倫ハ英國ノ正式ノ宣戰ヲ為サ
 スレテ英國ノ二商船ヲ拿捕スルコトニ依リ敵對行為ヲ開始セル國際
 法違反ノ行為ニ對スル復仇ノ手段トシテ英國人ヲ抑留セルモノトシ
 テ白ラ承認セルヲ見レハ國際法上敵國人ヲ俘虜トシテ抑留スルノ權
 利アリト主張セルモノニテトラスト云フヘキ十九世紀中他ニ抑留ノ事
 例ヲ存セヌ或學者(ト)ラツアーストウイヴス、リグイエ、リフネト
 等一ハ今日ニ於テモ純粹ナル法理論トシテハ敵國人抑留ノ權利カ斷
 本存スト論スト強モ今日ノ慣習國際法上ニ於テハ敵國人ニシテ其國
 内法上敵ノ兵力ニルハルヘキモノニテアラサル以上ハ相当ノ期間ニ退
 去スルヲ許ササルハカラスト認ムヘキナリ又交戰國ハ其領域内ニ敵
 國人ノ非在セントスルヲ許スコトアルモ之ヲ許ササルハカラサルコ
 トナシ敵國人ノ退去ヲ命ジ得ヘキ唯緊急ノ公海上ノ必要アル場合ノ
 外ハ退去ノ爲メ相當ノ編予期間ヲ与ヘサルハリヲナルノミ現今ニ於
 テハ實際ニ於テ戰爭上ノ必要人ハ其他ノ重大ナル理由ナケレト退去
 ヲ追ルコトナキヲ例トス又敵國人ノ滞在ヲ許スニ當リテ滞在ノ區域
 ヲ限リ又ハ敵對行為ヲ行ハサルヲ恒誓スル等ノ條件ヲ添ヒテ之ヲ許
 スニトヲ得

第六 西交戰國ノ一般ノ人民間ノ交通及貿易ノ中止並敵人之訴訟
 能力ノ停止

英米主義ノ學者ハ南戰ニ依リ西交戰國ノ一般人民間ノ交通及貿易
 カ國際法上当然禁止セラルルモノトシ例外トシテ戰爭ノ慣例ニ依リ
 認メラルルモノハ例ハ續續邊界ニ又ハ特別ノ特許ノ下ニ許サレルモ
 ノノミ禁止セラレストニ戰爭前ニ人民間ニ結ハレタル契約カ效力ヲ
 喪失スハ停止マラルト爲ニ敵人ハ法廷ニ於テ原告トナルノ能カヲ失フ
 ト爲ス昔時ニ於テ諸國ノ國內法上斯ノ如キ主義ノ條ヲレ今日ニ於テ

入二
其末等ノ諸國ニ於テハ其國內法上ニ延、如キニ爲テ採ラセラルコト
ハ擬テ忘レルルモ此主義カ今日ノ國際法上ノ原則ナリト云フヲ得ハ
今日ノ國際法上ノ議論トシテハ戰爭ハ國家間ニ於テ生ズル狀態ニ
テ私人相互ハ當然相互間ニ於テ資格ヲ得ルモノニアラサルヲ以テ國
際法上ニ於テ或戰國ノ人民間ノ私ノ交通及運送力當然禁止セラルハ
キモノト定マレルコトナキナリ但國家ト其國人トノ間ノ國內法上ノ
干渉ニ於テ國家ハ其人民ノ敵國トノ交通及商ヲ爲スコトヲ或ハ一報
的ニ或ハ物島、地方若クハ人ヲ限リテ禁止セザルヲ犯シタル國人ノ如
罰ニシテ得、ク又國際法ノ特別ノ例存セサル以上ハ敵國人ノ交
通上ノ權利ヲ認メサルヲ得、ク敵國人ノ内國法ニ於テハ其權利力
ノ停止ヲ認ムルヲ得ヘキモノトス、海牙ノ陸武條規ノ第二十三條ハ「
手當事國人ノ權利及訴訟ノ請願、停止又ハ裁判上ニ支理ヲ爲言スル
コトノ禁止、規定ハ此旨ニ干スル英米法、在米ノ國內法上ノ主義
ヲ廢止セサルヲ得、クシムヘキモノナルヲ否クニ作テ説合レノリ」
ト云フ事、最近ノ普通ノ國際法ニ於テハ戰爭ノ必要ニ基キテ特別

ノ交通及商ヲ付テ禁止ヲ設ケルコトナレモ一般ニ敵國トノ交通及商
ヲ禁ムルコトナシ

第七 領域内ニ在ル敵國ノ公私財産ノ取扱

昔時ニ於テハ領域内ニ在ル敵國ノ財産ハ敵國ノ公使ノ所管ハ而戰ニ依リ
之ヲ没収シ得ヘキト至リテ領域内ノ敵國ノ私財産ヲ没収スル
ルヲ得ヘキト至ルコト認メラレタリ然レニ戦ノ敵國人ノ私所有財産及
敵國人ノ物權ノミナラス敵國政府ノ債權ヲモ没収セザルノ例例成レ
一至シテ敵國人ノ私所有財産ノ没収ヲ行、ル最後ノ实例ハ一七九三年
英仏ノ間ニ戰爭起ルル時ニ在リ十九世紀中夜夜ノ市例アルコトナリ
今日ニ於テハ「
及対説フルモノ南戰ニ依リ領域内ノ私所有財産ヲ没収
セズハ領域内ノ敵國人又ハ敵國政府ノ債權ヲ没収スルコトハ國際法
上違法ナリト云フヲ得、ク此ト信ズ但シ或戰國ハ敵ノ資源ノ増加ヲ妨
クル爲メ敵ノ債權ニ付スル支払ヲ停止シ得、ク又領域内ニ在ル敵國
政府ノ公有財産ニシテ直接又ハ間接ニ軍用上ノ用途ニ充テ得、クモ

ノ、即チ資金及用便証券、食料品、故道ノ車輛、輸送又ハ通信ノ材
料、兵器彈藥其他燃料作戦高作ニ使スルヲ得ヘキモノ一ヲ押収スル
ヲ得ヘク又敵國人ノ私用財產ニシテ直接ニ攻撃又ハ防禦ノ軍事上ノ
用途ニ充テ得ヘキモノハ即チ兵器彈藥又ハ其他ノ軍用物件ニシテ輸
送又ハ通信ノ材料ヲ含ムノ國外ニ出ツルヲ妨テ且定率ノ直接ニ軍
事上ノ用途ニ充テ得ヘキモノヲ自ラ押収シテ使用スルモノヲ得ヘキ
ナリ但敵國ノ私用財產ハ平和克復ニ至リテ之ヲ還付シ且上ク賠償ノ次
度ヲ為スヘキナリ

第八 南戦ノ際ノ敵商船ノ取扱

近時ニ於テハ昔時ノ如ク南戦ノ際領域内ニ在ル敵船ニ船押留ヲ行
ヒ且テ収収スルコトナシ桐吾ノ船ヲ押留シテ之ノ運去ヲ許ス
例トスルニ至レリ第一回平和令第六條ニ於テ(一)南戦ノ際交戦國ノ
一方ノ港收ニ在ル敵國商船及南戦前ニ買入ノ軍艦等ヲ出港ニ開戦ノ
事實ヲ知ラズニシテ交戦國ノ一方ノ港收ニ入ルル敵國商船ハ即刻又

ハ交戦國ノ一方ノ定ムヘキ相當ノ猶予期間内ニ自由ニ交戦國ノ一方
ノ港ニ出航シ且ツ通航ノ付子ヲ得テ其目的地又ハ交戦國一方ニ於
テ指定スヘキ他ノ港ニ直接スルコトヲ許サレ、ナラ希望ストシ(海
牙ノ開戦ノ際ニ於ケル敵國商船取扱ニ于スル條約一)又(二)不可抗
力ニ基クテ南戦ノ前ノ南戦期間内ニ交戦國ノ一方ノ港ヲ去ルコト能ハ
サシ敵國商船又ハ出港ヲ許サレナリニ敵國商船ハ(一)押留セラル、
ニトアリ得ヘキモノ決シテ収収ヲ為スヲ得トシ交戦國ノ一方ハ軍
ニ戰爭終了後賠償ナシニシテ之ヲ還付スル、或チ所ヒテ該船ヲ抑
留シ又ハ賠償ヲ払ヒテ之ヲ發券スルヲ得ルトス(同條約二)(三)
南戦前ニ於テ港方ノ軍艦地ヲ出航シ海上ニテ遭遇セル南戦ノ事實
ヲ知ラサリニ敵國商船ハ(一)拿捕押留セラル、コトアリ得ヘキモノ之
ヲ収収スルコトヲ得ストス是等ノ商船ハ軍ニ戰爭終了後賠償ナシニ
テ之ヲ還付スルノ義務ヲ負ヒテ之ヲ抑留シ又ハ賠償ヲ払ヒテ之ヲ發
券スルヲ得ルモノトス(同條約三)(四)上述ノ船舶内ニ在ル敵貨
ハ之ヲ抑留シ且上敵軍終了後賠償ナシニテ還付シ又ハ賠償ヲ為シ

ヲ船舶トモニ若クハ船舶トモシテモ微弁スルコトヲ得ルトス（同
 條約四）又（五）抑留及没収ノ免除ニ于テ上述ノ規定ハ其艦船上
 軍艦ニ變更セラレハキモノナルコト明ナル商船ハ之ヲ適用セスト
 ヲ故ニ是等ノ船舶ハ該令戰事開始ノ事實ヲ知ラサルモ交戦國ノ港又
 ハ海上ニ於テ拿捕、抑留及没収等ノ処分ヲ受ケルニ至ル日該艦隊
 於テ我側ハ該乙ノ上述ノ條約中關係ナル莫アルニ同ハラス大正三年
 八月ノ勅令第百六十三號ヲ以テ全然上述ノ條約ノ規定ヲ實行セント
 セリ

第八章 交戦國間ノ準平和關係

第一 概説

戰爭ノ開始ニ依リ交戦國ノ間ニ平和千係ハ終了シ交戦國ハ原則トシ
 ヲ敵國及敵人ニ對シテ敵對關係ヲ有スルニ至ルニ特別ノ事項ニ于テ

ラ敵國又ハ敵人ニ對シテ準平和千係カ維持セラレルコトアリ準平和千
 係ノ基ク所ハ或ハ交戦國間ニ能ヘル特別ノ合意又ハ一方交戦國ノ認
 許ニ在ルトトアリ或ハ一般國際法ノ規定ニ在ルトトアリ一般國際法
 ノ規定ニ基ク準平和千係ハ各時期事項ニ于テ該法ヲ適用シテ以テ此
 ニハ極度及「カ」テラレ船ニ于テ外主トシテ特別ノ合意又ハ認許
 ニ基キテ生マル準平和千係ニ付テ述ベント故ニ此種ノ準平和千係ノ
 普通ノモノヲ挙ケレハ旅行券、安葬券、護衛俘虜交換規則、降伏規
 約、捕虜規則等ニ關スルモノナリ

準平和千係ニ於テハ雙方カ協議ヲ守リ之ヲ適用スルコトナカルハ
 キモノトス

第二 軍使

戰爭中準平和的交渉ノ機關タル軍使ハ敵ト交渉スル爲メ自派ヲ獨
 ケテ敵ニ近ソコトヲ得ルナク軍使ハ自ラ談判ヲ爲ス任務ヲ有シテ敵
 軍ニ赴クヲ常トスルモ時ニ軍ニ文書又ハ口頭ノ使命ヲ敵軍ニ伝達ス

ル在分ヲ有スルニ過キサルコトアリ

海牙陸戦条規ニ於テハ交戦國ノ一方ノ命ヲ帯ヒ他ノ一方ト交渉スル為メ白旗ヲ掲ケテ来ル者ハ之ヲ軍使トスト為ス(三二)陸戦ニ於テハ軍使自身又ハ旗手カ白旗ヲ掲ケ鼓手又ハ喇叭手及必要ナレハ通訳者カ之ニ隨從シテ赴クモノナリ海戰ニ於テハ軍使ハ白旗ヲ掲ケル軍使船ニ乘リテ敵ニ近クナリ

海牙ノ陸戦條規ハ軍使及之ニ隨從スル者カ不可侵權ヲ有スルコトヲ認ム(三二)故ニ之ヲ攻撃シ又ハ之ヲ停虜ト為スヲ得サルナリ但軍使ヲ如何ケラレタル部隊長ハ軍使カ其特權ヲ濫用セシ場合ハ一時之ヲ却留スルコトヲ得(三三)第三項ノ軍使カ特權ヲ利用シテ背信ノ行爲ヲ爲シ又ハ他ヲ欺惑シテ背信ノ行爲ヲ爲シコソシカ爲メ其特權ヲ利用セル利得ル証跡明確ナル時ハ其ノ不可侵權ヲ失フモノトス(三四)

往時ハ予ノ軍使ヲ接受セサルコトヲ予告スレコト認メラレ予告ノ場合ニ於テハ白旗ヲ掲ケテ来ル軍使ハ不可侵權ヲ有ヒストセラレタ

リ然レトモ今日ニ於テハ復然ノ場合ニアラサレハ予ノ軍使ヲ接受セサルコトヲ宣告スレテ得スト派ハハトナリ但部隊長ハ予ノ一定ノ条件ニ依リ一定ノ時及一定ノ場所ニ於テ軍使ヲ接受スルコトヲ得(三三)又軍使ヲ如何ケラレタル軍ノ部隊長ハ必ズシテ軍使ヲ接受スルノ義務ナシ(三三)第一項ノ規定ヲ彼ニカレ場合ニハ必要ナレハ合圖ヲ以テ直ニ離脱ニ退去ラズハキモトス但此場合ニハ退去ニ必要ナル時ノ間ハ不可侵トス然レトモ戰闘中ノ軍隊ハ退去ラズナレタル敵ノ軍使ノ近寄ルカ爲メ其作戰動作ヲ止ムルノ義務ナシ(三三)度サレタル軍使ハ不可侵ナルモ部隊長ハ軍使カ其使命ヲ利用シテ軍情ヲ探知スルヲ防クニ必要ナル一切ノ手段ヲ取ルコトヲ得(三三)第三項ノ規定又軍使ノ規則シ又ハ察知シ得ハ其情報ヲ報告ナルヘキ作戰動作ノ遂行サルルマデ一時之ヲ却留スルコトヲ爲シ得ナルヘキヲスレ

軍使ハ交戦國ノ一方ノ命ヲ帯ヒ敵ト交渉スル任務ヲ有スルコトヲ証明スル文書(軍指令官ノ署名ヲ受ス)ヲ携ヘサレトキハ軍使ヲ以テ遇ヒスレテ之ヲ停虜ト爲シ得又軍ノ服装者カ敵ノ軍使又ハ其隨從

負トシテ来ルトキハ軍使又ハ英直使領ノ特許ヲ認めスシテモ抑留
シ軍法會議ノ審判ニ付シテ処罰スルコトヲ得但シ敵ニ処罰ノ理由ヲ
通告スヘキモノトスレ

九。

海軍ニ付シテハ軍使ニ付キ條約ノ規定ヲ存セサルモ海牙ノ陸軍條
規ノ軍使ニ付スル規定ハ新規ナル規定ヲ示ラサルニ付ラスシテ陸軍
國際法ヲ援録セルモノナルヲ以テ海軍ニ關シテモ軍使ニ付キ海牙ノ
陸軍條規ノ定ムル所ト同様ノ規定カ行ハルルト認めハキナリ
敵カ軍使ヲ保護スルノ義務アルコトヲ其軍事上ノ目的ニ利用スル
カ爲ニ軍使ヲ送り又ハ自渡ヲ示シテ恰モ軍使ヲ送ルルカ如キ外觀ヲ爲
シ安全ニ退却スル時間ノ餘裕ヲ得ル等ノ軍事上ノ目的ノ爲メニ之ヲ
利用スル如キハ自渡ノ適用ニシテ國際法ノ違反ナリトス敵ハ之ニ對
シテ軍使ノ處置ニ出ワルコトヲ得ヘク長官ノ命ニ依ラズシテ自發的
ニ之ヲ行ヒタル者ガ敵ノ板内ニ陥レルトキハ戰時重罪人トシテ処罰
ヲ受ケサルヘキトス

第三 旅行券、安葬券及護衛

旅行券ハ入ハ通行券トモ稱ス一トハ交戦國ノ敵人若クハ其地ノ若
ニ其領域内又ハ其占領地域内ヲ旅行スルヲ許ス書面ナリ安葬券ハ
又ハ護照若クハ護送券トモ稱ス一トハ交戦國ノ敵人若クハ其地ノ若
ニ一定ノ目的ノ爲メニ一定ノ場所ニ行クコトヲ許ス書面ナリ例ハ敵
利ヲ行フ爲メ攻圍ナレタル都市ヨリ出テ談判ノ後更ニ之ニ入ルヲ敵
人ニ許ス場合若クハ車ヲルモノナリ安葬券ハ物件ニ付シテ車ハラレ
コトアリ此場合ニハ安葬券ヲ附セラルル物件ハ一定ノ地味ヨリ又
ハ一定ノ地味ニ向テハ例ハ攻圍中ノ都市ヨリ又ハ攻圍中ノ都市ニ向
テ一物ヲ運送スルコトナク輸送ニ得ルニ至ルハ旅行券及安葬券ハ之
ヲ許サレタル者カ許可ノ條件ノ範圍ヲ逸セサルトキハ許サレタ
ル者ヲ不可得ナラシムニ着目シ他人ニ移轉スルヲ得スハ物件ニ付シ
テ車ハラレハ安葬券ニ付テハ許サレバ條件中ニ明言ナキトキハ之ヲ輸
送スル人カ変マルモ有效ナリトス一トハ許サレバ條件中ニ明言ナキト
アリ然ラサルコトナリ有效期間ヲ限ル場合ニ於テモ已ムヲ得ザル運
送ハ之ヲ酌量指シスヘキモノトスル旅行券及安葬券ハ之ヲ許サレ

九一

タル者カ許可ノ条件ニ違背シ若ハ許可ヲ濫用スル場合ノミナラス又
軍事上必要アル場合ニ於テハ之ヲ許サセシ官憲又ハ其上級ノ官憲ニ
於テ之ヲ無効ト爲シ得ルニ及ラズ旅行券及安葬券ハ之ヲ許サセシ指揮
官ノ管轄区域内ニ於テノミテ有効ナルヲ原則トスル旅行券及安葬券ハ
文戦固同ノ規定又ハ文戦固同ト中立固同トノ間ノ規定ニ基キテ与ヘラ
ル場合ニ於テノミテ國際法上ノ事実トナルナリ

九二

第四 護衛

護衛ハ又ハ物ニ對シテ与アルモノニシテ二種アリ其一種ハ敵人又
ハ敵ノ財產等ヲ保護スル爲ニ自國ノ兵士ノ加害ヲ禁ムル目的ヲ以テ
与アル所ノ文書ニシテ此文書ハ護衛ヲ受ケル物件ノ傍ニ指示シ又ハ
護衛ヲ受ケル人ニ交付ス他ノ一種ハ敵人又ハ敵ノ財產等ヲ保護スル
爲ニ付ルル護衛兵ナリ護衛兵ハ文戦固同ノ規定ニ基キテ与ヘラレルト
ナハ他方ノ交戦國ノ軍隊カモテ候ヌヲ得ス然レ護衛兵ヲ攻撃シ又ハ
侮辱トスルヲ得ヌ他方交戦國ノ権限ニ陥ルトキハ他方交戦國ハ之ヲ

安全ニ其所爲軍ニ送り候ヌノ措置ヲ執ラサルハカラス而テ交戦固同ノ
特別ノ規定ニ基カサル護衛ノ場合ニ於テモ併生上ノ移動機關及固定
營造物ヲ守衛スル正式ノ命令ヲ携帶スル歩哨又ハ衛兵ノ不可使ナル
ハシメテ之ヲ条約九及一ニ参照スルハ勿論ニシテ其以外ノ場合ニ於テ
モ護衛ノ正式ノ命令ヲ携帶スルトキハ現今ニ於テハ實際上特別ノ規
定ニ基ケル場合ト同様ニ取扱フヲ得トス

第五 「カーテル」及「カーテル」船

戦争ヲ予期シ又ハ戦争継続中特別ノ事項ニ于テ西交戦國ニ於テ率
子和平條ヲ定ムル條約又ハ規約ヲ定メテ「カーテル」ト呼ボコトア
リ俘虏交換、傷者ノ一定ノ取扱、軍使接受ノ方法、通信、交通、運
信等ノ事項ニ于テ結ハル「カーテル」ノ語ハ其意義ニ於テハ俘虏
交換規約ヲ指スニ用ヒラル「カーテル」ハ戦争状態ニ在リテモ之ヲ
遵守セサルヘカラス
「カーテル」船トハ主トシテ俘虏交換拒却ヲ交換シタル俘虏ヲ敵國

九三

ヨリ本國ニ送ル為ニ使用セラルル船舶ヲ指スモノナリ又敵ニ宛ツル
 公ノ通信又ハ敵ヨリノ公ノ通信ヲ輸送スル為ニ用ヒラルル船舶ヲ指
 スコトアリ「カ」カ「テ」ル「レ」船ニ于テハ一方ニ於テ之ヲ保護シ他方ニ
 於テハ其用途ヲ妨ク為ニ慣習國際法上ノ規則成レリ「カ」カ「テ」ル「レ」船
 ハ不可侵ニシテ攻撃拿捕又ハ没収ヲ為スヲ得ヌ又没収シタル浮屠又ハ
 公ノ通信ヲ現ニ輸送スル商ノミナラス且テ没取ル為ニ航行スル船上
 ニ於テモ亦輸送ヲ然リテ其所屬港ニ歸ル途上ニ於テモ保護ヲ受クル
 モ「ト」ス「カ」カ「テ」ル「レ」船ニ于スル一般ノ條件ヲ守ラス又ハ各場合ノ
 時定條件ヲ守ラサルトキハ直ニ保護ヲ失ヒ拿捕没取シ得ヘキニ至ル
 「カ」カ「テ」ル「レ」船ハ一般ノ條件トシテ商業ヲ行ヒ得ヌ又航行ノ目的物
 タル公ノ通信以外ニ存信又ハ輸貨ヲ運送スルヲ得ヌ船号船トシテ一
 門ノ大砲ヲ有スル以外ニハ兵器彈藥又ハ其他ノ軍用材料ヲ載スルヲ
 得ヌ又相當ノ宿舎（停泊交換場ノ場合ニハ敵國ニ在ル本國ノ官吏等
 ）ヨリ「カ」カ「テ」ル「レ」船トシテ命令ヲ付セラレタルコトヲ宣告スル各
 面ヲ得テ之ヲ船中ニ備ヘサルハカラス

第六 戰時規約

戰爭継続中軍隊指揮官ノ其當然ノ权限内ニ於テ能ク合意ハ之ヲ戰時
 規約ト称シテ他ノ合意ト區別スルヲ可トス前節ニ所謂「カ」カ「テ」ル「レ」
 ハ場合ニ依リ戰時規約ニ屬ス

戰時規約ハ普通ノ條約ニ比スレハ左ノ諸点ニ於テ差違アリ

- (一) 合意ノ目的 戰時規約ニ於テハ合意ノ目的單純ナル軍事上ノ
 事項（例ハ戰闘中止、休戦、降伏、停戰交換等）ニ限ル故ニ軍
 事上ノ事項以外ノ事項（例ハ土地ノ割讓、國家ノ領域ノ變更等）
 ヲ納スル能ハス
- (二) 合意ヲ能フ時 戰時規約ハ戰時ニ限リテ之ヲ能フヲ得
- (三) 合意ノ締結ニ當ル者 軍隊ノ指揮官カ戰時規約ノ締結ニ當ル
 モ「ト」ス指揮官ハ特別ノ委任ヲ待タスニテ當然戰時規約ヲ締結
 スルノ权限アリト推定スヘキナリ
- (四) 合意締結ノ手續、戰時規約ハ原則トシテ其效力ノ確定スル為

二條約ノ如ク批准ヲ要スルコトナシ
戰時規約中降伏規約及休戰規約ニ付テハ別章ニ於テ之レヲ説クハキ
ナリ

第九章 降伏規約

第一 降伏規約ノ性質

降伏規約トハ一部ノ軍隊カ勝利ノ望ナキ戰術及抵抗ヲ止メテ其ノ
所守セル城若クハ其他ノ防禦地莫、軍艦又ハ兵船ヲ敵ノ収容ニ置
ク場合ニ於ケル條件ヲ約定スル文獻固軍隊指揮官ノ間ノ規約ナリト
ス無条件ニテ降ヲ乞フ場合ハ所謂降伏規約トハ全ク干渉ナキナリ降
伏規約ハ降伏スル場所ノ授受及軍隊ニ属スル者ノ運命ニ干渉スル軍
施ナル地方的ノ軍事上ノ約束以外ノ約束ヲ合マサレハキモ、シテ
命令ニ付合ハニ双方ノ文獻固ノ政府ニ依ル承認ヲ得ルニ付テハ
有效ナラサルナリ

第二 締結ノ権限

降伏ヲ結フ権限ハ西軍ノ指揮官ニ付ス但君主又ハ政府ノ認可ヲ
得テモテ有效トシキノ條件ヲ特ニ附スルコトアリ得ヘキナリ或
限ナキ一ノ級將校カ降伏規約ヲ結ハルトキハ指揮官ハ之ヲ否認スル
ヲ得指揮官ト雖モ其委任サレタル以テ依リテ約定ナル條件ヲ約
定シ又ハ其指揮ノ下ニ在ラサル軍隊ニ依ラサレハ履行シ得ス又ハ其
長官ニ依ラサレハ履行シ得サル條件ヲ約定セル場合ニハ斯ノ如キ降
伏規約ハ之ヲ否認シ得指揮官ノ降伏規約ノ条件ヲ約定スル権限ハ其
指揮ノ下ニ在ル軍隊ニ干スル事項ニ限ラル指揮官カ其権限内ニテ締
ルル所カ概宜ニ適マサルモ規約カ無効トナルコトナク唯指揮官カ其
本國政府ニ付シテ責ヲ負フノミ

第三 降伏規約ノ方式

降伏規約ノ方式ニ付シテハ國際法上一定セル規則ヲ存ス、政ニ存

面又ハ口頭ヲ以テ締結スルヲ得、然レトモ普通ハ唇面ニ依ルモノトス
 降伏ノ談判ハ白旗ノ下ニ降使ヲ送りテ開始スルヲ常トス時ニ一方ノ
 軍隊カ先ヨ白旗ヲ掲ケテ降伏ノ意思ヲ表シ而シテ後其軍隊ヨリ又ハ
 相手ノ軍隊ヨリ軍使ヲ送りテ降伏規約ノ談判ヲ為スコトアリ然レト
 テ許多ノ場合ニ於テ部隊カ白旗ヲ掲ケテ戦闘ヲ中止セズシテ軍使ニ
 依リ談判ヲ行ヒ協定成リテ後降伏ノ記号トシテ白旗ヲ掲ケタルコト
 アリ敵カ白旗ヲ掲ケシルトキ降伏ノ意ヲ表スルト認ムハキ場合ト虽
 モ直ニ祭炮ヲ止ムルヲ要セス

第四 降伏規約ノ内容及遵守

若シ降伏規約ニ於テ特別ノ條件ヲ約定セザレトキハ降伏スル將校
 兵士ハ俘虜トナリ又軍隊ノ有シ又ハ降伏ノ場所、軍艦等ニ在ル總テ
 ノ軍服用ノ物件及其他ノ公ノ財産ハ降伏規約ノ調印ノ時ニ於ケル状
 態ニ於テセテ引渡スルキモノトス將ニ降伏セントスル軍隊カ其糧食
 兵器彈藥其他ノ軍服用ノ物件ノ敵ノ手ニ落ソルコトヲ妨クル為メニ
 破壊ヲ為スコトアリ其既ニ降伏ノ談判ヲ始メタル後ニ於テモ斯ノ如
 キ破壊ヲ為スコトアリ然レトモ降伏規約カ一度調印セラレタル後ハ
 斯ノ如キ破壊ヲ為スヲ得ス若シ之ヲ行ハハ背信ノ行為ニシテ相手
 軍國ノ軍ハ斯ノ如キ破壊ヲ行ヒタル者ヲ戰時重罪人トシテ処罰スル
 ヲ得降伏條約中ニ於テ定ムルキ重ナル事項ハ降伏スル軍人ノ取扱物
 件ノ引渡、地帯ヲ設ケタル場所ノ指示、傷病者ノ取扱等ナリ一定ノ
 時期間ニ於テ降伏スル軍隊ノ味方ノ東境ナキ場合ニ於テ始メテ降伏
 規約カ有效ナルヘキヲ定ムルコトアリ得ヘキナリ降伏規約中ニ履
 行ノ担保トシテ直ニ或城砦ヲ引渡スコトヲ定ムルコトナリ、又住民
 アル地方ノ城砦ニ当リテハ行政上ノ引渡ニ付キ約定ヲ為スノ必要アリ
 降伏規約中ニ於テ規定サル所ハセテ忠實ニ守ラサルハカラス海牙
 ノ陸戰條約ニハ降伏規約ノ一旦確定シタル上ハ締結當軍國以テ於
 テ嚴密ニ遵守スルモノトシ當軍國ニ規定セラレ降伏規約

ニハ華人ノ名譽ニ干スル例規ヲ參酌スヘキモノトスルノ規定アリハ
陸軍条規三五)

第五 降伏規約ノ違反及失効

降伏規約ニ約定セル所ニ對シテ交戦國ノ政府又ハ軍隊ヲ違反ヲ為
セハ國際法上ノ違法行為ニシテ重大ナル違反アリタルトキハ相手國
ハ規約ヲ廢棄シ得ヘク緊急ノ場合ニハ直ニ戰闘ヲ開始シ得ヘキナリ
又相手國ハ降伏規約ノ違反ニ對シテ復仇ノ行為ニ出ヅルコトヲ得ヘ
シ又個人カ自發的ニ違反ヲ為セル場合ニ對シテ相手國ノ叔内ニ滯レハ戰時
重罪人トシテ処罰セラル
規約ノ規定ニ對シテ重大ナル違反アルトキハ相手國ハ規約ヲ廢棄シ
得ヘク又一方ノ當事者カ其中ニ約定セル所ノ履行ヲ公然ニ拒ムトキハ
相手者ハ廢棄ヲ為シ得ヘク又背信ノ行為ニ基キ能ハレタルトキハ之
ヲ取消シ得ヘキナリ
全般的休戰ノ約定セラレタル後ハ降伏規約ヲ結ヘル當事者カ此事実
ヲ知ラサルモ其後能ヘル降伏規約ハ無効トナル

第十章 休戰規約

第一 休戰ノ性質及其種類

休戰トハ其意義ニ於テハ一時敵對行為ヲ停止スルノ合意ナリ休戰
ハ西交戰國ノ間ニ敵對行為ヲ停止スルモノナルモ戰争ノ狀態ヲ終止
セシムルモノニアラス

云義ノ休戰ヲ分テテ攻ノ三種ト為ヌヲ得

- (一) 戰闘停止又ハ休戰 戰闘停止 (cessation of arms.)
トハ後ニ述フル程度ノ全般的又ハ部分的休戰ト異ニシテ相敵對
スル陸海軍ノ兵力ノ間ニ極メテ短クテ期間ノ短敵對行為ヲ停止
スルモノナリ即チ一時の且一部分的ノ軍事上ノ必要ヲ為メニ兩軍
ノ間ニ行ハルル敵對行為ノ停止ナリトハ尙ハ傷者ノ収容、死者

ノ埋葬、降伏スル休戦ノ談判、政府スハ上級指揮官ニ請訓、通信ヲ、必要ノ為メニセテ行フ

戦闘停止ハ政治上ノ目的ト下係スル所ナク又戦争ノ全体ニ影響セサルヲ希トス海牙ノ在戦条規(三七)中ニ所謂部分の休戦(armistice local)中ニハ戦闘停止ヲ合ニシト解スヘキナリ戦闘停止ノ效力ハ之ヲ能ク指揮官ノ部下ノ軍隊ノ動作ノミナリ拘限ス

(三) 全般の休戦 全般の休戦 (armistice général.) ハ一時的且一部分のナレ軍用上ノ必要ノ為メニスル戦闘停止ト異ニシテ双方ノ交戦國ノ陸海軍ノ全部及休戦区域ノ全部ニ干シテ希定サレル所ノ敵計行為ノ停止ナリ全般の休戦ノ規約ハ戦争ノ全体ニ影響スル重大ナル政治的ノ意味ヲ有スル規定ニシテ例ハ講和談判ヲ進行シテ敵計行為ヲ行フコト無益ナルニ至レルカ講和ヲ決スルカ為ニ國民議會ヲ制シノ必要ナル者ノ場合ニ結ハル全般の休戦ハ公軍及合同ニ至レテ希トスルニ時ニ軍又ハ戦争ノ一小部分ヲ除外スルコトアリ

(三) 部分の休戦 部分の休戦 (armistice partiel.) トハ全般の休戦ノ如ク合軍合同ニ至ルモノニアラズ又戦闘停止ノ如ク一時的且一部分のノ軍用上ノ必要ノ為ニ結ノモノニアラズ部分の休戦ハ交戦國ノ軍ノ大部分ノ撤去ノ大部分ニ干シテ結フモノニシテ戦局ノ一節ニ於テハ双方ノ交戦國ノ程度ノ度、度、流行病ノ發生、洪水其他全般の休戦ヲ希スルヲ要セサルモ戦闘停止ニ依リテハ充分ス能ハサル必要ノ為ニ結フ所ナリ部分の休戦ハ或ハ協定ノミニ対シテ有效トシ或ハ海軍ノミニ対シテ有效トスルコトアリ 殖民地ノミニ対シテ有效ナリトスルニトアリ 同盟國中ノ一ニ対シテノミ有效ナリトスルコトモアリ 得レナリ海牙ノ在戦条規(三七)ノ所謂地方の休戦中ニハ部分の休戦及戦闘停止ヲ合ムモノト認ムヘキナリ

第三 規約締結ノ制限

休戦規程締結ノ权限ニ付テハ正副ヲ立テテ論セサルヘカラス

(一) 戦闘停止ハ一部分ノ一時ノ軍事上ノ必要ノ爲ニ結フモノナ

ルヲ以テ小部隊ノ指揮官タルモ其部下ノ軍隊ノ爲ニ結フヲ得

ル所ニレテ國際法上ニ於テハ上級指揮官又ハ他ノ官憲ノ批准又

ハ認可ヲ待タズニテ行フヲ得

(二) 全般の休戦ハ重大ナル政治ノ意味ヲ有シ軍ニ交戦面ノ政府

又ハ軍隊總指揮官ノミテテ締結スレコトナラズ全般の休戦

ハ多クノ場合ニ於テハ戰時規則ヲ以テ締結スルニテテ締結

ツモノナリ全般の休戦條約又ハ規則ハ後令州ノナキモ批准ヲ得

テテ始メテ其效力ヲ確定ス總指揮官カ全般の休戦規則ヲ締結ス

批准ヲ得サレハ敵ニ相當ノ手段ヲ以テ之ヲ履行スルニ出ツ

ルニ付信ノ行為ニ付ラス

(三) 部分の休戦ハ軍ノ總指揮官ノ結フヲ得ヘキ所ニシテ將ニ反對

ノ約定ナキ以上ハ其效力ノ確定ニ批准ヲ必要トセズ但特ニ規則

中ニ批准ヲ待テテ行フタルニトテ決定スルコトアリ

第三 休戦ノ方式

休戦ノ方式ニ付テハ一定スル所ナシ故ニ休戦ハ各面又ハ口頭ヲ

以テ結フコトヲ得然レトモ全般の及部分的ノ休戦ハ重要ノ事項ナル

ヲ以テ各面ヲ以テ結フヲ得トス戰闘停止ニ至リテハ口頭ヲ以テ結ハ

ルコトトキニ付ラス

第四 休戦ノ内容

總テ休戦ニ於テ戰争狀態ハ継続シ軍ニ約定セル範圍内ニ於テ敵ヲ行

爲フ停止スルモノナリ軍ノ指揮官カ結テ休戦規則ハ軍事上ノ目的ニ

的災事項ヲ限ルヘキナリ

休戦ニ於テ詳細ノ條件ニ付テ明確ナキ約定ヲ爲ストキハ其ノ明約ス

ル所ヲ守ルヘキハ勿論ナルモ約定ヲ守ルル長ニ付テ議論ヲ生スル

ヲ免レヌ休戦ノ條ト雖モ規則中ニ時ニ禁セサル以上ハ戰線ノ背後ニ

於テ攻撃ヲ所求ノ準備ニ付テ如何ナルコトヲモ爲シ得ヘキハ何人

一〇六
モ申ハル所ナリ然レモ戦線ニ于テ不行爲ニ関シテ議論アリ
リ許多ノ論者ハ特別ノ約定ナキニキハ休戦ナシト規定セハ相手ノ軍
カ強クテ以テ妨ケ得ヘキ現状ノ変更ヲ行フ儼ハスト爲ス違背ノ論者
ハ休戦規程ノ保護ノ下ニ時ノ如キ変更ヲ行フハ信義ニ背テト爲ス然
レトモ或論者ハ休戦ノ效果トシテ當然合アルヘキハ實際ノ敵対行爲
即チ作戦動作ノ停止至ニ實際ノ敵対行爲ト合致シテ考フル儼ハサル
儼ノ前述若ハ取崩ノミニシテ其以外ニ於テハ例ハ現場ニ軍需ヲ集メ
テ地位ヲ強メ防禦ニ事ヲ作り、敵軍ノ防禦工事ヲ強メ、城砦ノ墮所
ヲ修繕シ、一部ノ軍隊ヲ後方ニ退却セシメ又ハ前進ヲ爲サスこと新
規格ヲ作ル如キハ特ニ規約ニ於テ禁止ヲ明約セサル以上ハ爲シ得ハ
キ所ナリト爲ス違背ノ實ニ付キ海牙ノ陸戦条規ハ明ニ定ムル所ナク
國際慣習法ノ定ムル所ニ明確ナキナルナリ余ハ理論トシテハ後設
テシテ休戦ノ當然ノ效果トシテ一方ノ交戦者ノ抵抗カヲ増加スルヲ禁
メハキモノニアラス實際ノ敵対行爲ノ停止及實際ノ敵対行爲ト合致

シテ考フル儼ハナル前述及取崩ノ以外ニ於テ特別ノ事項ニ于テ約
セント欲セハ特ニ休戦規程中ニ明約スヘキナリシレ休戦中ノ攻圍地内
ノ糧食供給ノ問題ニ付キテモ同一ノ理論ヲ以テ解決スルヲ得ヘキナ
リ或ハ休戦ノ攻圍ヲ受ケル軍ニ糧食ヲ供給セサルトキハ攻圍ヲ受
ケル軍ハ休戦中糧食ヲ取リ或抵抗カヲ弱メテ以テ當然糧食ノ供
給ヲ許スヘキト爲ス然レトモ條約ハ元來實際ノ敵対行爲ノ停止ヲ以
テシテ外ナラサルヲ以テ或シテ休戦ノ當然ノ效果トシテ休戦中ニ於
ケル交戦者ノ一方ノ抵抗カノ減少ヲ禁メハキモノニアラス攻圍ヲ受
ケル軍ニシテ糧食ノ休戦中ノ供給ヲ得ント欲スレハ之ノ休戦規程中
ニ約定セサルヘカラス

一〇七
戦地ニ於ケル交戦者ト人民トノ間及人民相互間ノ下條ヲ休戦規程
ノ条項中ニ規定スルコトハ当事者ニ一任スルモノトスヘ海牙ノ陸戦
条規三九一
休戦規程ニ於テ休戦中ノ兩軍ノ衝突ヲ避ケル爲メ兩軍ノ間ニ双方
ノ入ルコトヲ得サル所ヲ離隔地帯ヘ又所謂中立地帯トテ定ムルヲ例

トスルニ此種ノ特別ノ約定ナレハ離隔地帯ハ存マナレリ

第五 休戦ノ開始

休戦規約ハ特別ノ約定ナレハ開印ノ時ヨリ実施ノヲ發生ス然レトモ休戦ノ実施地マレハキ時期ヲ特ニ約定スレコトナリ戰局カ成キニ臣リ軍隊カ隔リテ存スルニキハ直ニ軍ノ命令ニ休戦ヲ通告シ得テルヲ以テ厚場所ニ依リ更ニ休戦開始ノ時期ヲ定ムルコトナリ海牙ノ休戦規約ニ於テ休戦ハ正式ニ以テ通告ノ時期ニ於テトテ海牙軍原ニ通知スヘノ通告ノ後直ニ又ハ所定ノ時期ニ至リ戦局ヲ停止スル高スハ三ハ)

時ニ休戦ノ開始ヲ知ラサル軍隊カ休戦後敵對行為ヲ為スコトナリ此ノ如キ場合ニ於テ休戦ノ開始期ニ於ケル状態ヲ出来得ヘキテ回復スハキナリ

第六 休戦ノ違反

休戦ノ規約ヲ破レル場合ニ於テ若シ違反ノ政府又ハ権限アレ指專官ニ依リ命セラレテ行ハルルトキハ國際法上ノ違反行為ナリ海牙ノ休戦規約ニ依レハ休戦規約者ノ一方ニ於テ重大ナル規約違反アリタルトキハ他ノ一方ハ規約違反ノ権利ヲ得ヌルノミナラズ緊急ノ場合ニ於テハハ總令休戦規約ニ於テ休戦終了ノ通告ト敵對行為ノ開始トニ同ニ経過スヘキ期間ニシテ特ニ約定スレバ新アリシトモ此期間ニ功ハラス一且ニ戰局ヲ開始シ得ルト為スハ四〇ノ一何人カ自己ノ緊急ヲ以テ休戦ノ規約ノ條款ニ違反シタルトキハ相手ノ交戦者ハ唯其違反者ノ処罰ヲ要求シ且通告ヲ受ケタルトキハ其賠償ヲ要求シ得ルニ止マルモノトスハ四一)

第七 休戦ノ終了

休戦カ若シ其期間ノ約定ナク敵對行為ノ開始ノ通告ニ依リテモ何等ノ規定ヲ定メサル場合ニハ交戦者ハ何時ニテモ敵對行為ノ開始ノ通告ヲ為シテ後直ニ作戰動作ヲ開始スルヲ得而シテ休戦期間ノ定ナ

キモ通告ニ于テ規定ヲ設ケルトキハ該條件ニ遵由シテ并定ノ時期ニ於テ作戦動作ノ開始ノ旨ヲ該ニ通告スヘキトスヘ三六一上迄ノ場合ニ反シテ休戦ノ多數ノ場合ニ於ケルカ如ク期間ヲ定メタルトキハ期間尽クシハ特約ナキ以上ハ特別ノ通告ヲ与ヘスミテ休戦ハ終了スルニ戦力解除條件付ニテ約セラレタルトキハ條件トナレル事域起シハ休戦ハ終了ス

第十一章 戦争ノ終了

第一 戦争ノ終了概説

戦争ノ終了ハ文戦回向ノ講和条約ノ締結ニ依リテ生ズルヲ普通トス又一方ノ文戦回向他方ノ文戦回向ノ征服的保存ヲ為スニ依リテ生ズルコトアリ又双方ノ文戦回向講和条約ヲ結ハタルニ自然ニ戦争行為ヲ止メテ平和關係ニ復スルニ至ルトトテ生ズヘキナリ
第二 一方ノ文戦回向ノ征服的保存

征服的保存ハ戰時占領(第一節第七章参照)ト異リ一方ノ文戦回向他方ノ文戦回向ノ全体ノ領土人民ヲ其權力ノ下ニ置キ且所謂保存ノ行為ニ依リ他方ノ文戦回向ヲ消滅セシメ其領土人民ヲ自國ノ領土人民ノ一部合ト為ス場合ニ於テ始メテ生ズ保存ニ依リ相手國消滅スルニ至レハ最早國家消滅ニ於テ存スヘキ國際戦争ヲ存セサルニ至ル迄時ニ於テ征服的保存ニ依リ戦争ノ終了セリ一例ハ一九〇〇年ニ於テ英國カトランヌツァール及オレンヂ自由國ノ征服的保存ヲ行ヘル是ナリ
征服的保存ノ效果ニ付キテハ他ノ國家ノ保存ノ場合ト異ニセテ平時國際法ニ於テ研究スヘキナリ

第三 單純ナル戦争行為ノ終了

講和条約ノ締結又ハ一方ノ文戦回向ノ征服的保存ニ依リテ終了スルヲ戰爭ノ五種ノ終了方法ト認ムルヲ得ヘキモ講和条約ヲ結ハスミテ單純ナル戦争行為ヲ終止ニ依リ兩文戦回向ニ自然ニ平和關係カ回復スルコト稀ニ生ズヘキナリ

一
 二
 單純ナル戰爭行爲ノ終止ニ依リ戰爭力終了スル場合ニハ交戦國タ
 リ二國ノ間ニ講和ノ條件ヲ定ムル講和條約ヲ存スルヲ以テ戰爭前
 ノ状態ニ依リ法律上ノ千條ヲ定ムヘキ又ハ戰爭終了ノ際ノ現有状
 態ニ依リ法律上ノ千條ヲ定ムヘキハ二國ノ同意ヲ生スルモノトス蓋此場
 合ニ於テハ双方ノ同意ヲ得テ了ル時ノ現有状態ヲ默認シテ戰爭行爲
 ヲ止メタルモノト見做スヘク現存状態ヲ以テ兩國ノ法律上ノ關係ヲ
 定ムルノ基礎ト爲スヘキナリ一方ノ同意ヲ得テ了ル時ノ現有状態
 ノ領土ハ領土ヲ有シタル國カ單純ナル戰爭行爲ノ終止ニ依リ占領國
 ノ領有ニ成スルヲ認メ其自ラ得タル權利ヲ放棄セラルモノト看做スヘ
 キナリ然レトモ單純ナル戰爭行爲ノ終止ニ依リ戰爭力終了スル場合
 ニハ戰爭行爲ノ終止ノ際ノ現有状態ニ依リ次スルヲ條件カレ兩國ノ主
 張ニ于テハ何再決定スル所ナキヲ以テ或ハ後ニ至リ時利ノ授定ニ
 依リテ之ヲ解決スルハ又ハ此ヲ未決定ノ状態ニ放任スルノ外ナキナ
 リ

第十二章 講和條約

第一 講和條約ノ性質及其締結ノ手続

講和條約ノ締結ハ戰爭ヲ終了スル最モ普通ノ方法ナリ講和條約ヲ
 締結スル講和談判ノ開始ハ第三國ノ調停ニ依ルコトアリ又講和談判
 ニ於テ第三國力ヲ干シテ調停ヲ爲スコトアリ又第三國力講和談判ノ
 際ヘキハ講和條約ノ締結後ノ干渉ヲ行フコトアリ講和談判ハ文書ノ
 交換ヲ以テ之ヲ行フコトアリ得ヘキモ普通ノ場合ニハ談判ヲ爲スノ
 委任ヲ受ケタル全權委員力中立地又ハ交戦國ノ一方ノ土地ニ會シテ
 之ヲ行フモノトス交戦國ノ一方ノ土地ニ會シテ談判ヲ行ハルルトキ
 ハ敵ノ使節ハ恰モ單使ノ如ク不可侵ヤルモノトス敵ノ使節ニ
 對シテ外交官ノ資格及特權ヲ認ヘルコトナリ得ヘキナリ
 講和談判ニ於テ先ヅ講和條件ノ大綱ヲ約定スル所謂干定和約ヲ結フ
 コトアリ干定和約モ未ダ一ノ條約ナルヲ以テ批准交換ノ儀ヲ其右東力

ヲ確定ス 平定和約ノ批准ヲ條件トシテ調印ニ依リ戦争ノ終了ヲ生ス
 ルモノト認ムハキマ又ハ單ニ議和條件ノ大綱ノ平定ニ遅キスニシテ議
 定和約ノ締結ニ依リ始メテ戦争ノ終了ヲ生スヘキモノト認ムハキマ
 ハ当事者ノ意思ニ依リテ決スヘク当事者ノ意思ハ各場合ノ事實ニ異
 ニシ得ルニ至レ此場合ニ調印ヲ終タル平定和約ハ通テ無効トナリ唯及
 シ得ルニ至レ此場合ニ調印ヲ終タル平定和約ハ通テ無効トナリ唯及
 対規定トキ以上ハ休戦ノ效果ヲ生スルヲ認メラル平定和約ノ締結ハ
 レトキハ之ニ對シテ議和ニ于レ後ニ條約ヲ確定和約ト称ス

第二 議和条約締結ノ权限

議和条約ハ軍事上ノ規約ト異リテ一種ノ条約ナルヲ以テ條約規則
 又ハ休戦規則ノ如ク軍ノ指揮官ノ权限ヲ以テ締結ヲコトナシ如何ナル
 條約カ条約締結權ヲ有スルメハ國內法ノ規定ニ依リテ定マル所ナル
 普通國家ノ元首カ条約締結權ヲ有ス而シテ國ニ依リ議和條約ニ付
 キテハ元首ノ締結權ニ於テ特ニ制限ヲ設ケルコトアリ國家ノ元首

ハ軍ノ指揮官ヲ全權委託ト爲シ議和条約ノ談判ニ當ラレムルヲ得ハ
 シ

第三 議和條約ノ方式

國際法上議和條約ノ方式一定セヌ故ニ理論上ニ於テハ口頭書面執
 レナリトモ締結スルヲ得然レトモ議和ハ國家ノ生活上重要ナル事項
 ナルヲ以テ実態ニ於テ各面ヲ以テ締結セザレトナシ

第四 議和條約ノ效果

(一) 戦争終了ノ時期 議和条約ニ於テ及テノ規定トキハ條約
 ノ全權委託ニ依ル調印ト共ニ戦争ヲ終了シ一紙ノ平和條件カ回
 復ニ戰時ノ非常下條ヲ支配スル戰時國際法規定及特ニ戰時ニ於テ
 有效ナル條約ハ行ハレサルニ至リ通常下條ヲ支配スル平時國際
 法規カ文歐國タリニ西國ノ間ニ行ハルルニ至ル議和条約カ批准
 ヲ得ラルトキハ敵對行為ヲ開始シ得而シテ批准ヲ得ナリレ議和

茶約ハ避ツテ無效トナリ唯反計ノ規定ナキ以上ハ休戦ノ故カラ
 認メラル講和茶約中ニ戦争ノ終了スル時期ニ于テ一定ノ將來ノ
 時日ヲ明定スレトアリ是レ戦争ノ及フ範圍ヲ極メテ本キニ互
 リ互ニ講和ヲ欲ラノ軍隊ニ通知スルヲ得ナル場合ニ於テ生ス
 ルニ異ル場所ニ付テ敵計行爲ノ終止ニ于テ異ル時期ヲ約定スル
 コトアリ講和茶約ノ將來ノ期日ヲ以テ敵計行爲終止ノ時期トシ
 テ定ムル場合ニ於テモ此期日以前ニ停戦カ講和茶約成立ノ事實ヲ
 知ルニ於テハ互ニ敵計行爲ヲ終止セサルハカラス

(二) 平和干係ノ回復 講和茶約ノ主要ニモテ且一般ナル結果ハ
 文戦同盟ニ平和干係ヲ回復スルニトニ在リ講和茶約カ即チテ
 ルルニ否メ將來ノ特別ノ行爲ニ于テヤサル一般ノ平和干係ニ對
 テテ條件トシテ回復セシムルニ至リ講和條約カ批准交換ヲ了ス
 ルトキハ平和干係カ確定的一回復セラルルニ至レル平和干係ノ
 回復ハ(一)戰時干係ノ終了(二)外交關係ノ回復(三)人民
 間ノ交通干係ノ回復ヲ含ム(一)戰時干係ノ終了ニヨリ戰時ニ

茶テノミ通法ナル行爲ハ以後通法ナラサルニ至リ軍隊又ハ我
 一対スル攻撃、船舶ノ捕獲、土地ノ占領、取立金及條約ノ條收
 等ハ爲シ得サルニ至ル若シ停戦カ講和茶約ノ締結ヲ知ラズシテ
 斯ノ如キ戰爭行爲ヲ行フトキハ戰爭終了レ一般的一平時干係ノ
 回復ナル條ニ於ケル事終テ回復セサルハカラス故ニ戰爭終了後
 一行ハル場合ニハ拿捕セル船舶ハ之ヲ解放シ台領セル土地ハ之
 フ撤退シ停戦ハ之ヲ解放シ取立金ハ之ヲ返還セサルハカニス、
 (二) 外交干係ノ回復ニ依リ相互ノ間ニ外交使節カ差遣復度ヲ
 レ領事モ認可ヲ受テテ其職務ノ執行ヲ始ムルニ至ル(三) 人民
 間ノ交通ノ回復ハ通商條約ノ更新又ハ復活ニ依リテ進メラルル
 ニ至ル

(三) 戦争ノ原因ノ消滅 講和茶約ニ依リ定メラルル状態カ文戦
 固クリシ國家ノ將來ノ干係ノ基礎ヲ爲ス而シテ講和茶約ニ依リ
 明カニ定メラレタル事項ヲ以テ更ニ戦争ノ原因ト爲スヲ得サル
 ノ説云ク行ハル

(四) 現有狀態ノ維持・交戦國間ニ講和條約ニ於テ及テノ規定ヲ爲
 ナル以上ハ講和條約ノ效果ハ戰爭終了ニ一報ノ平和ヲ保ノ回
 復ナル際ニ於テ現在ノ狀態ノ維持ヲ認ムルモノト看做スヘキ
 ナリ即チ現有狀態ニ依リ法律上保カ定マルモノト看做スヘキナ
 リ故ニ戰爭中侵入軍ノ押収、没収セル兵器、彈藥、糧食、馬匹
 運搬隊等及金銀等ノ如キ固有ノ動産又ハ其取得セル占領地不動
 産ノ果實ノ如キハ依然侵入軍所屬國ノ有ニ屬ス占領地ニ于テ
 ハ今日ノ國際法ノ觀念上占領力戰時ニ於テ一時的存在スレ現象
 ト認メラレ領土權ノ所屬ヲ喪ヤナルモノト爲サルヲ以テ講和
 條約ヲ結ビ之ニ依テ割讓ヲ定ムルノ機會アルニ拘ラス講和條約
 中ニ占領地ノ割讓ヲ明約セザルトモハ占領ヲ爲マル國ハ占領地
 ヲ領土權所屬國ニ回復スヘキモノト認ムルヲ可トスヘキカ如シ
 然レ領土權所屬國ニ復歸セル占領地ニ付キ原狀回復行ハル

(五) 時ニ戰時ニ于ル條約ノ實施力ノ喪失、戰時ニ於テ時ニ實
 施セラル、キ條約ハ戰爭終了ト共ニ實施セラレサルニ至ル

(六) 條約ノ效力ノ回復 講和條約ニ依ル平和回復力如何ナル條約
 ヲシテ效力ヲ回復セシムヘキヤニ于テ議論分レタリ開戦ニ依リ
 テ消滅スヘキ條約カ当然效力ヲ復活セズ開戦ニ依リ單ニ效力ヲ
 停止セラレタル條約カ平和克復ニ依リ當然效力ヲ回復スヘキハ
 否ヲ疑フス然レトモ如何ナル條約カ開戦ニ依リ消滅シ如何ナル
 條約カ開戦ニ依リ效力ヲ停止マラルルヤニ于テ慣例學說共ニ一
 致セサル莫多キヲ以テ講和條約ニ於テ此矣ニ于スルニ自ナル規
 定ヲ立ツルヲ可トス

(七) 大赦 講和條約中ニ大赦ニ于スル規定ヲ設クルヲ普通ト爲
 スモ時ニ約定ヲ爲ササルニ講和條約ハ当然ニ一定ノ範圍ノ大赦
 ノ效果ヲ生ズ講和條約ニ于テ戰時法上所謂大赦トハ戰爭中戰
 争ノ目的ノ爲ニ交戦國自身、其兵クヲ組織スル者及其臣民ノ行
 ヒタル諸種ノ不法若クハ不品行爲ニシテ講和條約中特ニ及テ
 規定ヲ設ケサルモノニ對スル責任解除ナリトスレ大赦ノ結果ト
 シテ所謂戰時重罪ニシテ平和回復前ニ知罰セラレザリニ看ハ最

甲知罰し得サルニ至ル戦争中文戦国ノ政府又ハ軍隊ノ行ハル國
際法上ノ遠去行自モ特別ノ規定ナケレハ講和條約ニ依ル戦争ノ
終了後ハ之ヲ不問ニ付スハクモ之ニ依リテ生シタル損害ニ對スル
改正ノ要求モ講和條約ニ反對ノ規定ナキトキハ之ヲ提出し得サ
ルニ至ル然レニ此處ニテ第一等ニ和平會議ノ陸戰條約條約第三
條ニ於テ該條約及該條約ニ附屬セル陸戰條約ノ違反ニテテ換
害賠償ノ責任ヲ定ムルニ至レルヲ以テ此處ニ付キテハ講和條約
ニ於テ及河ノ明否ヲ為サカル以上ハ大敵ノ效果ハ國際法上制限
サルルト云フヤカレハカラスレ又大敵ハ普通ノ犯罪及戰爭中ノ負
債ノ如キモノトハ何等ノ千係ナキモノトス故ニ停戦ニシテ普通
ノ殺人犯罪ノ犯罪ヲ犯シタル者ハ平和回復後モ之ヲ訴追シ知罰
ニ得ハク又停戦トシテ却田中負傷セル者ハ平和回復後モ之ニ對
シテ民事訴訟ヲ提起シ得ヘキナリ大敵ハ又一方ノ文戦國人カ他
方ノ文戦國ニ對シテ行ハル行為ニ付キ責任解除ヲ与アルモノニ
シテ一方ノ文戦國人カ自國政府ニ對シテ行ハル行為ニ當然及フ

ハキニテラサルナリ但條約中ニ時ニ此種ノ一定ノ行為ヲ必罰セ
サルヲ酌スルコトアリ得ヘキナリ

(八) 停戦ノ身分ノ終了 講和條約ノ效果トシテ停戦ノ身分ハ當
然終了ス但平和回復ト共ニ直ニ停戦ヲ開放スルヲ要メ又海牙ノ
陸戰條約モ平和回復ノ後ハ或ルヘク連ニ停戦ヲ其本國ニ返還セ
シムヘシト為マルノミ(ニ〇) 普通ノ犯罪ヲ犯セル停戦ノ開放
スルノ必要ナキハ明白ナルモ規律ヲ犯シタルノ故ヲ以テ懲罰ナ
レ刑期中ニ在ル停戦ヲ平和回復後モ却田シ得ヘキハ否ヤ一干ニ
テ説分レタリ

九) 講和條約ノ偶存の規定 講和條約ニ於テ土地ノ割讓、償金ノ
授受、權利利益ノ設定譲渡ニ于テ規定ヲ設クルコトアルモ其
レ講和條約ノ必然の規定ニテラヌシテ偶存の規定ニ外ナラサレ
ナリ

第五 講和條約ノ執行

セリル者ハエテ殺傷スルヲ得スレテ助命ヲ与ヘサルヘカラス又一極
的ニ助命ヲ与ヘサルコトノ宣言ヲ為スヲ得スヘニ三第一項(ニ)号
但助命ヲ与ヘサルノ宣言ヲ為スコトノ禁止ハ敵ノ違法行為ニ依ル復
仇ノ場合及自軍ニ属スル者ノ功迫セル生存上ノ危殆アル緊急状態ノ
場合ニ於テ例外トシラセテ得ラルヲ得ヘキモノト解スヘキナリ上
述ノ制限ハ害敵手段ニ依ル被害ヲ戰爭上必要ナル範圍ニ止メ無益ナ
ル殺傷ヲナサシメサルヲ趣意トシ慈恵心ニ基キ所アルナリ
敵ノ抵抗力ヲ挫クノ戰爭ノ軍事上ノ目的ヲ達スルニ必要ヲ得サル
ニ従ニ殺傷者ノ苦痛ヲ増スヘキノ手段ハ主トシテ慈恵心ニ基キテ禁
止スラル故ニ海牙ノ陸戰條約ハ必要ノ苦痛ヲ与ヘキ兵器ノ射撃
物其他ノ物質ヲ使用スルコトヲ禁スヘニ三第一項(一)号(一)ハ
六八条ノ重砲得堡宣言ニ於テ己ニ戰鬥力ヲ失アル者ニ必要ノ苦痛
ヲ与ヘ苦クハセラレテ必然死ニ至ラシムヘキ兵器ノ使用ハ戰爭ノ固
的ノ範圍ヲ超スルトシ此理由ニ依リ四百七号(一)以下ノ重砲ノ爆
撃性ヲ有スルカ又ハ燃燒性ノ物質ヲ擲テタル砲射物ヲ用アルコトヲ

解約國ノ間ニ禁セラル又第一回平和會議ノ際ノ宣言ニ依リ外包復國
ナル彈丸ニシテ其外包付心ノ全部ヲ包含セズ若クハ其外包ニ或列ヲ
施シタルモノノ如キ人休戦ニ入り容易ニ用成シ又ハ扁平トナルヘキ
彈丸即チ所謂「ガム」彈ノ使用ヲ禁止シ此宣言ハ今尚本有效ナ
ルカ其趣意トスル所ハ「ガム」彈ノ無益ニ修飾ナル創傷ヲ与フ
ルト為スニ出ツル第一回平和會議ニ於テ議決セル他ノ一宣言ハ陸軍
ノ上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法ニ依リ射撃物及毒物
ヲ投下スルコトヲ互早同派シ日露戰爭中期限尽キシガ第一回平和會議
ノ條約未開ナルヘキ第三回平和會議終了ニ至ル迄ノ期間上ヲ禁止スル
コトトナシ此宣言ニ一ハ戰爭ノ修飾ヲ致スヲ避ケルニ趣意ニ出テ
タリト認ムヘシ第一回平和會議ノ議決セル三宣言ノ一ハ宣言セシム
ヘキ五斯又ハ同毒物ノ瓦斯ヲ散布スルコトヲ唯一ノ目的トスル射
撃物ノ使用ヲ禁止スルメ今尚本有效ナルモノナルカ此宣言ヲ夫ノタル
趣意モ亦慈恵心ニ基キ所アリト云フヲ得ヘキモ又免分ノ後述スヘキ
使勇ノ精神ニ下依アリト云ハサルヘカラス

又使勇ノ精神ハ起原ヲ中世ノ政州ニ有スル一種ノ武士道ニ基キ文
 戦者ノ間ニ或程度迄相互ヲ尊重スヘク互ニ身战的又ハ背信的ノ行爲
 ヲ行フヲ禁スト爲スヨリ交戦國ノ行フ害敵手段ニ制限ヲ存スルニ至
 ル迄牙ノ陸軍条規ハ毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ノ使用ヲ禁シ敵國又ハ
 敵軍一屬スル者ヲ背信ノ行爲ヲ以テ殺傷スルヲ禁シ又軍使被、軍使
 其他ノ軍用ノ標章、敵ノ制服又ハシエネガア条約ノ特殊徽章ヲ擅ニ
 使用スルヲ禁ス（一〇）（一）（二）（三）（四）（五）（六）（七）（八）（九）
 制限ハ軍ニ使勇ノ精神ノミヲ以テ説明スヘキニアラスレテ陸軍ナラ
 ヲ利己心ノ牽連ニ基ク所アリト云ハサルヘカラヌ
 將來ノ戦争ニ於テハ航空船及飛行機ニ依ル害敵手段行ハレヘテ空中
 ニ於ケル戦闘ヲ現出スレニ至ルヘシ是等ノ害敵手段ニテモ特別ナ
 ル制限ヲ設クルノ必要アルヘシ昔ニ平和會議ノ輕氣取ノ上ヨリ又ハ
 之ニ類似セル新アル他ノ方法ニ依リ空軍期及爆撃物ヲ投下スルコト
 ナラセル迄牙ノ宣言ハ多數強國ノ調印セサル所アリ空中ヨリタル害
 敵手段ニ對スル制限ノ問題ハ今日ノ國際法未タ充分ナル解決ヲ得テ

ル所ニシテ國際法ノ將來ノ牽連ニ符トナルヘカラヌ但陸軍條規宣言
 及海軍ノ他ノ二ノ宣言ハ是等ノ害敵手段ニモ適用アリ又海軍ノ陸軍
 条規ノ規定モ亦之ヲ陸軍ノ上ノ空中ヨリスル害敵手段ニモ適用スヘキニ
 トス

第三 敵ノ非戦闘員ニ對スル害敵手段

一國ノ兵力ノ一部ヲ爲セル非戦闘員ハ敵軍ノ行爲ニ加ハラサル以上
 ハ直接ニ之ヲ攻撃殺傷スルトトシ得ズ但作戦動作ヨリ偶然生スルキ
 間接ノ被害ヲ免レヌ兵力ノ一部ヲ爲セル非戦闘員ハ之ヲ保護ト爲ス
 コトヲ得但軍隊附屬法者、衛生部員、軍医、藥劑師、看護卒、患者
 輸送ノ人夫等ハジエネガア条約（赤十字條約）ノ規定ニ依リ之ヲ攻
 撃殺傷シ得サルノミナラス保護ト爲スコトヲモ爲シ得ヌ

第四 敵ノ非交戦者ニ對スル害敵手段

一國ノ兵力ノ一部ヲ爲ササル非交戦者タル敵國ノ私人ハ往時ニ於

一三八
ヲスルヲ殺傷シ又ハ俘虜トスルヲ得ヘシトシ殊ニ強襲ニ依リテ攻取
ルレ都市又ハ要塞内ノ住民ハ攻撃軍ノ之ヲ殺傷スルニ委スルヲ例ト
セルカ十八世紀ニ至リ敵國ノ私人ノ敵對行為ニ加ハラサル以上ハ直
接ニ之ヲ殺傷攻撃スルヲ得サルコト認メラルルニ至レリ但作戰動作
ヨリ偶然生スヘキ同様ノ被害ヲ免レヌヘ例ハ一都市ヲ砲撃スルニ与
リ住民ノ之カ爲メ死スルモノアルモ已ムヲ得サルナリ敵國ノ私人
ハ俘虜ト爲スヲ得サルヲ原則トス然レトモ軍隊ノ安全上、戦軍ノ成
功上、又ハ占領地ノ秩序若クハ占領軍ノ威力ノ維持上必要アルトキ
ハ之ヲ拘禁シ其他必要アル知分ヲ加フルヲ得ヘシ而シテ戦時重罪ニ
對スル刑罰又ハ其他占領地ノ法令違反ニ對スル刑罰ノ爲メニアラス
シテ拘禁スルトキハセクトモ敵國ノ兵力ニ屬スル非戦闘員ニ準テテ
俘虜タルノ待遇ヲ与フヘキナリヘ例ハ詳氏敵對ノ起ラントスル虞ア
ルニ當リ住民中ノ有力者ヲ拘禁スル場合ノ如キ是ナリ一隊ノ私人ニ
對シ上述ノ必要ニ基キテ行フ処分ハ多種多様ニシテ占領ノ際占領軍
カ私人ニ加フルニ屬スル上此ノ如キ知分ヲ以テス而シテ是等ノ知分ニ付

一三九
キ各等ノ在戦条規ハ制限ヲ設ク(一)処分ノ目的上ノ制限ニ付キテ
ハ敵國人ヲ強制シテ其本國ニ對スル作戰動作ニ加ハラシムルコトヲ
得ヌヘニ三項ニ占領地ノ人民ヲ強制シテ地方ノ交戦國ノ軍又ハ
其所屬手段ニ付キ情報ヲ授与セシムルヲ得ヌ(四)又占領地ノ人民
ヲ強制シテ其敵國ニ對シ忠誠ノ誓ヲ爲シムルヲ得ヌ(四五)而シ
テ(二)処分自身ノ利益上ノ制限ニ付キ最モ注意スヘキハ家ノ名譽
及權利、個人ノ生命、私有財産並ニ宗教ノ信仰及氏連行ハ之ヲ尊重
スヘキヲ決メタル莫ニ在リ(四六第一項)又私有財産ハ之ヲ没収ス
ルヲ得ヌトシ(四六第二項)又戦争ノ必要上乃已ムヲ得サル外ハ敵
ノ財産ヲ破壊シ又ハ抑収スルコトヲ得ヌヘニ三項一項(ト)号)
敵國ノ元首及重要ノ地位ニ在ル敵國ノ官吏ハ敵國ノ兵力ニ屬セサ
ル場合ニハ直接ナル攻撃ヲ受ケ殺傷ヲ被ルコトナキコト格モ敵國ノ
私人ト同様ナリトス然レトモ其敵國ニ取リテ重要ニシテ之ヲ抑留ス
ルコトニ依リ敵ノ抵抗力ヲ挫クハ戦争ノ目的ヲ多少進歩スルヲ得ヘ
キヲ以テ一方ノ交戦國ハ之ヲ俘虜ト爲スヲ得ヘキヲ認メラル看通敵

一三〇
國ノ元首又ハ國務大臣ヲ捕フレハ或テ停虜トスヘク外交官其他ノ重
要ノ官又ニ至リテモ同様ノ取扱ヲ為スヲ得ヘキナリ

第二章 陸戰ニ於ケル停虜

第一 停虜ニ于スル沿革

停虜トハ六戰國ノ一方ノ兵力内ニ陷リ軍事上ノ目的ノ為メニ抑留
セラレ一穴ノ取扱ヲ受クヘキ敵人ナリ昔時ニ於テハ停虜ハ之ヲ殺戮
シ又ハ奴隷ト為スコトヲ得ナリ中世ノ末葉ニ至リテモ停虜ハ西紀
人ノ如ク取扱ハレセテ現ニ虜ニシタル軍隊又ハ兵士ノ兵力ノ下ニ在
ルモノトテラレ國家ノ停虜タルノ觀念薄カリキ而シテ之ヲ虜ニセ
ル者カ贖金ニ代ヘテ解放スルコトナリタリナリ十七世紀ノ頃停虜カ現
ニセテ虜ニセル者ノ兵力ノ下ニ在リト為ル觀念衰ヘ君主ノ兵力ニ在
ルモノト認メラルルニ至リシモ停虜ノ取扱ニ于スル規則ハ殆ト存在

セヌ十八世紀ノ終ニ於テ停虜カ自由ヲ拘束セララルルハ刑罰ノ為ニテ
ラヌレテ之ヲ犯罪人ト區別シテ取扱フヘキコト認メラルルニ至リ十
九世紀ニ至リ停虜ヲ好適スルコト行ハレ敵人ヲ停虜トスルハ敵ノ抵
抗ヲ殺シ方ハ一ニ外ナラナルヲ以テ之ヲ再ヒ敵ノ兵力ニ加ヘテ
サラシハルカ為ニ必要ナル処置以外ニ虐待ヲ加フヘカラストスルノ
思想行ハラルルニ至リ而シテ十九世紀ノ終ヨリ二十世紀ノ初ニ至リテ
ハ進ニテ停虜ハ必要ナル自由ノ拘束以外ニ甚テハ之ニ兵力内ニ收
メタル國ノ兵士ト同様ニ待遇スヘキトスルノ思想ヲ存スルニ至リテ
海牙ノ陸戰條規ニ於テ停虜ニ于テ詳細ナル規定(第二章)ヲ見ル
ニ至リ

第二 停虜トナルヘキ人

(一) 一國ノ兵力ニ属スル武裝員及非武裝員ノ敵ニ捕ハラレタル
場合ニハ(戰時重罪又ハ他ノ犯罪ヲ犯レタル場合ニアラサレハ)停
虜ノ取扱ヲ受クルノ権利ヲ有スルコト海牙ノ陸戰條規ノ明言スル所

ナリ(第一章)海牙ノ陸戦条約ハ又(一)新開通信員及探訪者並ニ
酒保用運人等ノ如キ直ニ軍ノ一部ヲ為ササル兵軍者モ敵ノ収収ニ
陥リ敵ニ於テ之ヲ抑留スルヲ有益ナリト認メタルトキハ其所屬陸軍
官憲ノ証明書ヲ携帶スル場合ニ限り俘虜ノ取扱ヲ受クルノ権利ヲ得
スヘキヲ定ム(陸戦条約一三)其他(一)君主國ノ君主及皇族、共
和國ニ於テハ大統領及總テ國務ニ當ル大臣ハ依テ軍ニ屬マサルモ俘
虜ト為シ得ヘキナリ(一)軍ニ附屬スル文官モ然リトス又(一)軍
ニ屬セサルモ戦争ノ必要上ニ抑留スル敵人類ハ頭髪ノ文官、唇唇
仁達者、醫者、飛行機搭乗者又ハ其他ノ私人ハ犯罪アルニ由リテ
抑留スルモノニテラサルトキハ之ニ付テテサクトモ俘虜ノ取扱ノ利
益ヲ享クヘキナリ(一)占領セラレタル地方ノ人民ニテ敵ノ接近
スルニ當リ侵入軍隊ニ抵抗スル者ヲ自ラ兵器ヲ操ル者ハ公然兵器ヲ
携帶シ且戰爭ノ法規慣例ヲ遵守スルトキハ之ヲ文官者ト認メ(海牙
陸戦条約二)敵ニ捕ハラレタル場合ハ俘虜ノ取扱ヲ受クルノ権利ヲ
得ス(一)一方ノ軍ノ傷者病者カ他方ノ軍ノ収収ニ陥レルトキハ俘

虜ノ身分ヲ有ス(赤十字條約二)
俘虜ト為スヲ得サルモノハ(一)傷者及病者、収容、輸送及治療並
ニ衛生上ノ移動機干及固定設備物ノ者ヲ得テ從事スル人員(第三
章参照)(二)衛生上ノ移動機干及固定設備物ノ者ヲ得テ從事スル人員(第三
章参照)(三)軍隊附屬ノ牧法者(僧侶、醫師)ナリトス但シ
ハ正式ノ軍記命令ヲ携帶セザルトキハ俘虜トナラズルノ持権ヲ失フ
モノトス退却ノ者カ敵對行為ヲ行フトキハ場合ニ依リ戰時重罪人ト
ナルコトアルヘキナリ
俘虜ハ何時ノ如クシテ虜ニセル何人又ハ部隊ノ収収ニ屬スルコト
ナク敵ノ政府ノ収内ニ屬スルモノトシ人道ヲ以テ之ヲ取扱フモノト
為ス(海牙ノ陸戦條約四)第一項第二項)又兵器、馬匹及軍用書表ヲ
除キ俘虜ノ一身ニ屬スルモノハ依然其所屬タルヘシトス(四)第一項
又俘虜カ逃走シテ再ヒ敵ノ兵力ニ加ハリ又ハ之ヲ虜ニセル軍ニ抵抗
スルコトヲ防ク為ニ必要ナル自由ノ制限ヲ加フルヲ得ヘキモ之ニ必

要ナラサル則取ヲ加フルコトヲ得ルヲ以テ俘虜ハ之ヲ部市、城塞
俾管其他ノ場所ニ留置シテ一定ノ地域以外ニ出ラサルノ義務ヲ負ハ
シムルコトヲ得レトモ已ムヲ得サル保安手段トシテ之ヲ必要トスル
事情ノ継続中ニ限リ之ヲ幽閉スルコトヲ得ルノミ(五)俘虜ハ或レ
テ之ヲ犯罪人ヲ維持ヘキ監獄ニ留置スルコトヲ得ル但俘虜ハ又ア水
内ニ屬セシメタル國ノ軍ニ於テ有敵ナル法律規則及命令ニ依テ行
ルヘカラスシテ總テ不従順ノ行為アルトキハ俘虜ニ對シテ必要ナル
嚴重手段ヲ施スコトヲ得(八)第一項一現令ニ於テハ俘虜ノ將校タル
モノ逃走セサルノ誓約ヲ為ストキハセテ氏家ニ送還セシムルコトヲ
得

一三四

國家ハ又將校以外ノ俘虜ヲ勞務者トシテ使役スルコトヲ得レトモ之
ニハ三種ノ条件ヲ要ス(一)勞務ノ階級及技能ニ應スヘキコト(二)
過度ナルヘカラスルコト(三)一切作戦動作ニ干渉ヲ有スヘカラザ
ルコト(四)第一項(六)第一項)又俘虜ノ精氣ニ依リ公務並私入又ハ
自巳ノ身ニ勞務スルヲ許可スルコトアルヘキナリ(六)第二項一俘虜
ノ勞務ノ國家ノ爲ニスルモノナルトキハ同一勞務ニ使役スル外國在
軍人ニ適用スル現行法律ニ依リ支払ヲ為スヘク右規定ナキトキハ
其勞務ニ對スル相当ノ割合ヲ以テ支払フヘキトス而シテ勞務カ公務
所又ハ私人ノ爲ニスルモノナルトキハ陸軍官憲ト協議ノ上条件ヲ定
ムヘキトス(六)第三項)俘虜ノ勞務ニ對スル報酬ハ之ヲ其ノ
境遇ノ艱苦ヲ輕減スルノ用ニ依テ其剩餘ハ(本國カ給養ノ費用ヲ加
ハサルトキハ給養ノ費用ヲ扣除シテ後解放ノトキニ俘虜ニ交付スル
モノトス(六)第四項)

俘虜カ勞務ノ報酬ヲ得ルト否トニ干セス又戰國政府ハ其取内ニ在ル
俘虜ヲ給養スルノ義務アリ(七)第一項)海牙條約ハ特別ノ規定ナキ
トキハ俘虜ハ糧食、寢具及被服ニ干シテ之ヲ冊ハタル政府ノ軍隊ト
對等ノ取扱ヲ受クヘキトシ(七)第二項)俘虜將校ハ其拘留マラルル
間ノ同一階級ノ將校ヲ受ケルコト同額ノ俸給ヲ受クヘキトス但シ右條
約ハ(戰爭終了後)本國政府ヨリ償還スヘキモノトス(八)一七)

俘虜ハ陸軍官憲ノ定メタル秩序及風紀ニ干スル規律ニ服スヘキ

一三五

コトヲ唯一ノ條件トシテ其ノ宗教ノ遵行ニ付キ一切ノ自由ヲ予ヘテ
レ其宗教上ノ禮拜式ニ参加スルコトヲ得ヘ一八) 俘虜カ遺棄ヲ為サ
ントスレ場合ニハ之ヲ捕ヘタル國ノ軍人ト同一ノ條件ヲ以テ之ヲ贖
置シ又ハ作成スヘキモノトスヘ一九)

俘虜ニ宛テスハ俘虜ヨリ發スル指書、郵便為替、有價物件、及小
包郵便物ハ差出國名宛國及通過國ニ於テ一切ノ郵便料金を免除セテ
シモトス又俘虜ニ宛テタル贈与品、赦恤品ハ輸入税其他ノ諸税
及國有鐵道ノ運費ヲ免除セラルヘ一六)

俘虜英氏名及ヒ指書ニ付キ如何ヲ度ケタルトキハ其ヲ以テ答フヘキ
モノトス若シ其ヲ以テ答ヘサルトキハ同種ノ俘虜ニ付ヘラレヘキ利
益ヲ被殺セラルコトアルヘキナリ(一九)

第四、俘虜ノ逃走

俘虜ノ逃走ヲ企ケルトキハ逃走ヲ妨クル為メ之ニ付シテ兵器ヲ使
用シ必更テレヘシヲ統制スレヲ得

逃走シタル俘虜ニシテ未ダ逃走ヲ遂ケサル所ヘ即チ其軍ニ送スル
所又ハ之ヲ捕ヘシル軍ノ占領シタル地域ノ内ニ再々捕ヘラ
レタル者ハ懲罰ニ付セラルヘキモノトス然レトモ既ニ逃走ヲ遂ケタ
ル後再ヒ俘虜トナリタル者ハ所ノ逃走ニ対シテハ何等ノ罰ヲ受ケル
ニトナシ(八) 第二項(第三項)

第五、俘虜ノ身分ノ終了

俘虜ノ身分ノ終了ハ(第一) 俘虜ノ交換(第二) 宣誓ニ依ル解放
(第三) 宣誓ニ依ラサル解放(第四) 味方ノ取換(第五) 逃走、第
六) 俘虜ヲ捕ヘタル軍ト共ニ中立領域ニ入ルコト(第七) 戦争ノ終了
等ニ因リテ性ス、今日ニ於テハ償贖ニ依ル解放ハ海戦ニ於テ商船ノ
乗員ヲ償贖証書ニ依リ解放スレテ忍ムル面ヲ除キテハ行ハルルコト
ナキナリ

(第一) 俘虜ノ交換ハ旧時多ク行ハレタルモ近時ノ戦争ニハ行ハ
ルルコト稀ナリ時ニ戦争中再ヒ兵器ヲ採ラシメタルヲ拘シテ交

被スルコトアリ 文壇ハ 運帝被此 固敵者 固ハル 英敵者ノ 文壇
ニ付キ 俘虜一人ト 兵士 幾人ト 相当スルヤ 菲ノ 同盟ヲ 生スルモ 望
レ 各場合ニ 相立ノ 文壇ニ 依リテ 以テ 決定スハ キ 所ナリ

(第一) 宣誓ニ 依ル 解放トハ 普通 俘虜ノ 戦中 再ニ 兵器ヲ 疎ラテ
ルコトヲ 宣誓シテ 解放セラルルヲ 云フ 宣誓ハ 各面ニテ 行ヒ 俘虜
セニ 署名マサルヘカ ラヌ 又 威 國政府ハ 宣誓 解放ヲ 成ムル 俘虜ノ
請願ニ 対シ 応スシメ 之ニ 應スルノ 義務ナシ 又 俘虜モ 宣誓 解放ノ
後 諾ヲ 強制セラルルコトナシ (陸 戦 条 規 一) 然レトモ 俘虜ノ
本國法カ 之ヲ 許ストキハ 俘虜ハ 宣誓ノ 上 解放セラルルコトアル
ヘキナリ 宣誓 解放ノ 場合ニハ 俘虜ハ 本國政府及之ヲ 捕ヘタル 國
ノ 政府ニ 対シテ 一身ノ 名譽ヲ 賭シテ 其 誓約ヲ 嚴密ニ 履行スルノ
義務ヲ 負ス 俘虜ノ 本國政府及之ニ 対シ 宣誓ニ 違反スル 勸告ヲ 命
ジメハ 之ニ 服マントノ 申出ヲ 受諾スヘカ ラサルモ トス (一カ)
宣誓 解放ヲ 受ケタル 俘虜ニ 之ヲ 更ニ 爲テ 誓約ヲ 爲シテ 爲セシ 政
府ハ 其 政府ノ 同盟國ニ 對シテ 兵 隊ヲ 探リ 再ニ 捕ヘラレタル 者ハ

俘虜ノ 取扱ヲ 之ヘサルヲ 符ヘク 且 之ヲ 裁判ニ 付シ 嚴罰ニ 処スル
ヲ 得、 普通 死刑ニ 処スルモ トス、 宣誓ニ 依ル 解放ハ 普通 將校
ニノミ 許ヌモ 本國法カ 之ヲ 許ストキハ 兵士ニ 付テモ 之ヲ 許スヲ
得

(第三) 宣誓ニ 依ラサル 解放ハ 極メテ 稀ニ 行ハルル 所ニシテ 俘虜
ヲ 捕ヘタル 軍カ 敵軍ニ 迫ラレ 急ニ 退却スルトキ 又ハ 攻圍ヲ 受ケ
難合ノ 狀ニアルトキ 等ニ 於テ 之ヲ 行フコトアリ 得ヘキナリ

(第四) 逃走ニ 干シテハ 既ニ 前ニ 述ヘタリヘ 本章 俘虜ノ 逃走ノ 節
参照)

(第五) 俘虜ヲ 捕ヘタル 軍ト 兵ニ 中立 領域ニ 入りテ 俘虜ノ 身分ノ
終了スルコトニ 干シテハ 第ニ 論ニ 於テ 中立 地域ノ 庇護ニ 付テ 述
フルニ 當リテ 之ヲ 説クヘキナリ

(第六) 戦争ノ 終了ニ 依ル 俘虜ノ 身分ノ 終了ニ 干シテ 戦争カ 講和
条約ノ 締結ニ 依リテ 終了スル 場合ニ 於テハ 理論上 講和 条約カ 締
結サルルト 同時ニ 俘虜ノ 身分 終了スルコトモ 俘虜ガ リシ 者ハ 宣

二 解散ナルハナニアラズシテ本國ニ歸還セシムルノ如置テ孰レ
 同ハ依然原ノ規律ノ下ニ立シムルヲ得故ニ海牙ノ陸戰條約ニ
 或ルハシテ是ニテ本國ニ歸還セシムルハキヲ失ムルノミ(二〇)
 戰爭ノ終了カ一方ノ交戰國ノ在版の條合ニ依ル場合ニ於テハ理
 論上ニ於テ條合ニ依リ國際法上ノ條約ノ資格ハ消滅ス實際ニ條
 合後モ尙ホ條約ヲ留置シ置クヲ要スルコトアルモ交戰團體ノ派
 別ノ行ハレサレ場合ニ於ケル普通ノ内亂ノ場合ト等シク最早國
 際法上ノ條約ノ規則ヲ適用スヘキニアラズ

戰爭開始ノ時ヨリ各交戰國ハ條約機關ヲ設置セサルヘカラス交戰
 者ヲ其領域内ニ收容セル中立國モ此百ヲ設置スルコトヲ要ス清義局
 ハ條約ニテスル一切ノ向合ニ答フルノ任務ヲ有シ條約ノ留置移動、
 監督解散、交換、逃走、入院、死亡ニテスル事項其他各條約ニテ
 銘々票ヲ作成補修スル為ニ必要ナル通報ヲ各交戰國ヨリ受テテ此
 ヲ銘々票ニ記入ス銘々票ニハ姓名、氏名、年令、本籍、條約、所屬
 部隊、負傷及捕獲、留置、負傷及死亡ノ日所及場所其他一切ノ備考

事項ヲ記載スヘキトス而シテ條約票ハ字宛宛ノ條約ノ條約ニ於テ
 戰國ノ政府ニ交付スヘキナリ情狀局ハ又監督解散セラレ、交換セ
 ラレ、逃走シ又ハ病院若クハ捕縛所ニ於テ死亡シタル條約ノ留置シ
 正ニ戰場ニ於テ察見セラレタル一切ノ自用品、有價物、兵器等ヲ收
 集シテ之ヲ其下位者ニ送リ、任務ヲ有スヘキ(一四)情狀局ハ郵使
 料金ノ免除ヲ享シヘキ(一六)第一項(海牙ノ在戰條約ハ條約條約及
 行爲ヲ起メ此種ノ惡害行爲ノ媒介者タル同的ヲ以テ組織セシメル
 故會々自國ノ法律ニ從ヒ正式ニ組織セラレタルトキハ其人區的事業
 ヲ有效ニ遂行スル為メ軍事上ノ必要及行政上ノ規則ニ概観セサル範
 圍内ニ於テ交戰者ヨリ(自己及其正當ノ委任アル代表者ノ為メニ)
 一切ノ便宜ヲ享ハラル、夕録故會ノ代表者ハ條約條約及運送條約
 ノ途中休泊所ニ於テ救恤品ヲ分与スルコトヲ許サレヘキトス但シ
 カ爲ニハ代表者ハ各自陸軍官憲ヨリ免許狀ノ交付ヲ受ケ且該官憲ノ
 定メタル秩序及規則ニテスル一切ノ規律ニ服スヘキ旨書面ヲ以テ附
 スルヲ要ス(一五)

第三章 陸戰ニ於ケル傷者病者ノ救護及軍医
衛生上ノ機關

第一 概説

昔時ノ戦争ニ於テ戰場ニ墮レル敵國ノ傷者病者ヲ虐待シ屍體ニ
爲リ加ヘ其屍體ヲ掠奪スルコト舉行ハレシキナリ其能ク未傷者ニ干
シテ往々餘的ヲ請ヒテ相互的ニ敵ノ傷者ヲ救護スルヲ約スルニト
リタリ然レトモ一般ノ國際法理トシテハ十九世紀ニ至ルマデ
軍ニ傷者ノ救護、虐待ヲ禁止スルコトハ未ダ然ルニ一八七四年
ニ至テ赤十字條約即チ戰地軍隊ニ屬スル傷者及病者ノ救護改善ニ干
スルコトエネシテ條約成レリ此條約ハ十箇條ニテ成リシキ一七〇六年
ニ至リ三十三箇條ヨリ成ル新赤十字條約成レリ新赤十字條約ハ傷者及病
者ノ救護及病者ノ救護、軍医衛生上ノ機關等ニ及リ國定官造物至ニ救護協會ニ

創設法人別ノ特權、衛生上ノ機關等下ノ國定官造物至ニ救護協會ニ
屬スル材料、後運搬手、赤十字ノ殊別記事適用及違反ノ禁罰等ニ干
シテ規定ヲ設ケ

第二 傷者及病者ノ救護

各戰國後戰場ノ占領者ハ傷者ヲ搜索シ掠奪及虐待ニ對シ傷者及死
者ヲ保護スルノ措置ヲ執ルヘクハ赤十字條約三十一項ノ軍人又ハ公
務上軍隊ニ屬スル其他ノ人員ニシテ負傷シ又ハ疾病ニ罹リシ者ハ國
籍ノ如何ヲ問ハズ此ノ其救護ニ收容シタル交戦者ニ於テ尊重看護スル
キモノトス但病者及傷者ヲ敵ニ遺棄スルノ已ムヲ得ザルニ至リタル
交戦者ハ軍事上ノ状況ノ許ス限リ其看護ヲ幫助セシメンカ爲メ衛生
部員及衛生材料ノ一部ヲ病者及傷者ト共ニ遺留スルニト爲メ八百二
條約(一)箇ヨリ交戦者一方ノ傷者又ハ病者ニシテ他ノ交戦者ノ救護
ニ屬リタル者ハ上述スル所ニ依リ看護ヲ受ルル外併存ニテスル衛隊
公本ノ一般規則ヲ適用セラルルモノトス (第二一項) (軍医看護ノ宗

クル兵ヨリシテ傷者病者カ一級ノ伴房ヨリニ寛大ノ待遇ヲ受クヘキ
 ハ志ヲ挫ク又又文職者ハ伴房タル傷者病者ノ利益トナルヘキ事場ヲ
 相互ニ規定スレノ旨田ヲ有シ殊ニ(ヘイ)戦後戦場ニ遺棄セラレタ
 ル傷者ヲ互ニ引渡スコト(ロ)文職者カ伴房トシテ却留シ置クヲ欲
 スル場合又ハ病者ヲ輸送ニ堪ニシニ立リタル後又ハ全治後其本國
 ニ送還スルコト又ハ(ハ)戦中然ラズルマテ中立國ニ留置スル案件
 ヲ以テ敵國ノ傷者又ハ病者ヲ中立國ニ引渡スコト等ノ事項ニ付キ扱
 定ヲ為スノ取扱ヲ期ス(ニ)等ニ決(シ)

名文職者ハ其救シタル傷者又ハ病者ノ人名簿ヲ作成ヘク速ニ其本
 國官憲又ハ折属陸軍官憲ニ交付スヘク(四)第一項(各)文職者ハ互ニ
 其救タル傷者及病者ノ位置移動並ニ入院及死亡ニ付スレニ付テ
 知照スヘキナリ(四)第二項(ニ)

陸軍官憲ハ住民ノ慈悲心ニ訴、之ニ應シタル者ニハ特別ノ保護及
 一定ノ待遇ヲ与ヘ共監督ノ下ニ兩軍ノ傷者病者ヲ收容保護セシムル
 コトヲ得(五)

第三 衛生機關

衛生上ノ移動機關及固定營地切ハ各款并為ノ為ニ使用セラレサレ
 限リハ兩軍共同ニテ尊重保護スヘキモノトス(六七)故ニ千餘名既
 若クハ野戦病院ハ戦國ニ付休シ撤去スルニ故障ヲ与ヘ兵器彈薬ヲ隠匿
 シ衛生汽車ヲ兵士輸送ニ用ルル如キ救ヲ与ヘ行爲ニ付休セルトキ
 ハ尊重保護ヲ享ケルノ限リニアラス但陸軍衛生上ノ移動機關又ハ固
 定營地切ハ(一)移動機關又ハ固定營地切ノ人員カ兵器ヲ自己又ハ
 傷者病者ノ防衛ノ為ニ使用スルノ事實(二)武装保護人ノ在ラサル
 ニ当リ正式ノ命令(守衛ノ任務ニ付スル)相当官憲ヨリノ軍部命令(一)
 ヲ携帶スル歩哨又ハ衛兵ヲシテ移動機關又ハ固定營地切ヲ守衛セシ
 ムルノ事實(三)傷者ヨリ取上ケラレタル未夕折損部等ハ該等部
 隊若クハ野戦兵器廠等ニ引渡サレタル兵器及藥劑カ移動機關又ハ
 固定營地切ニ付テ保護セラレタルノ事實(四)尊重保護ヲ享ケルノ資
 格ヲ失フコトナシトス(八)

第四 衛生機干所屬人員

傷者及病者ノ收容、運送、治療並ニ衛生上ノ移動機關及固定居住
物ノ事務ハ要務、經理、運搬、收發ヲモ合ハシニ專ラ任事スル人員
及軍隊附屬ノ教官者ハ如何ナル場合ニ於テモ尊重保護セラルヘク敵
ノ兵力以テ角レルトキハ俘虜トシテ取扱ハルルコトナワルヘシトス
（九章一項）武装看護人ナキトキハ正式ノ命令ヲ持テル許衛人員（
歩哨又ハ衛兵）モ亦然リトス（同章二項）

本國政府ヲ通過ニ認可シテ予メ對手交戰國ニ通知セラル 篤志救恤隊
会ハ例ハ我國ノ日本赤十字社）ノ人員ニシテ陸軍衛生上ノ移動機關
及固定居住物ニ使用スラレ陸軍ノ法律規則ニ服従スル者即チ陸軍ノ
正規的衛生組織ニ加ハレル者モ同様ノ取扱ヒヲ受クモトス（一
章一項）

中立國ニ於テ認可セラレタル協會ハ予メ其國政府ノ承認ヲ得タル
上当該交戰國ノ許可ヲ受ケルニアラサレハ其人員及衛生上ノ移動機

干フシテ同交戰國ニ幫助ヲ与ヘシムルコトヲ得ス斯クノ如キ救恤ヲ
承諾シタル交戰國ハ其ノ使用ニ先ダク之レヲ敵國ニ通告スヘシトス
（一一）

上述ノ諸人員ハ敵ノ収容ニ陥リタル後モ其指揮ノ下ニ在リテ引渡
キ各自ノ職務ヲ行フヘキモノトス而シテ是等ノ人員ノ幫助カ既ニ必
要ナキニ至リシトキハ軍事上ノ必要ト相容レル時期及通路ニ依リ之
ヲ所屬軍隊又ハ本國ニ送還スヘキナリ是等ノ人員ハ各自ノ私所有ニ屬
スル被服、器具、武器及馬匹ヲ持去ルヲ得ヘシ（一二）

敵國ハ篤志救恤協會ノ人員ヲ除ケル上述ノ人員カ其収容ニ在ル間
自國軍隊ノ同一階級ノ者ニ給与スルト同様ノ給養及待遇ヲ受クモ
スヘキモノトス（一三）

第五 衛生機干ノ材料

陸軍衛生上ノ移動機干ハ敵ノ収容ニ陥ルトキトモ其ノ輸送方法
護送人員ノ如何ヲ問ハズ所屬材料ヲ保有スヘ同材料中ニハ鞍馬ヲモ

一四八
包含ス。紙ヲ原則トシテ其材料ヲ押収セラルルコトナシ但所轄ノ陸軍官憲ハ傷者及病者ノ看護ノ爲ニ該材料ヲ使用スル权限ヲ有ス此場合ニ於テセテ後ニ至リ運付スルキモノトス而シテ材料ノ使用ノ必要ナキニ至リタルトキ陸軍上ノ必要ト相慮ルル時期及通路ニ依リテ所屬軍隊又ハ其本國ニ運送スルキモノトス且成ルヘク衛生人負ト同時ニ運付スルキモノトス(一四)

陸軍ノ衛生上ノ固定施設及建物ノ材料及材料ハ戰事ノ法規ニ依リテ故ニ敵ノ収収ニ阻ルトキハ其建物の敵軍ノ爲ニ管理セラレ(海牙ノ陸戰条約五五)材料ハ敵軍ニ於テ押収没収シ得ルニ至ル(五三)然レトモ傷者及病者ニ必要ナル由ハ重大ナル軍事上ノ必要アルニテアヲナレハ其用途ヲ他ニ委スルヲ得人作戦上セテ他ノ目的ニ使スル重大ナル必要アルトキハ先ツ病院及傷者病者ヲ適當ノ場所ニ移シテ其安全ヲ謀リタル後ニ便宜処分スルキモノトス(五一)

赤十字會約ニ定メタル條件ニ依リテ陸軍ノ衛生勤務ヲ補助スル故ニ敵軍ノ材料ハ陸軍上ノ用ニテラレルニハ勿論固定施設及建物ヲ用セ

ルルコトトシテ其有難症トシテ取扱ヒ如何ナル場合ニモ戰利品トシテ獲得スラレルコトナシトス但陸軍法規ニ依リ占領軍力ニテ攻撃スルコトアリトス(一六)

第六 後送機關

後送機關ハ原則トシテ衛生上ノ移動機關トシテ取扱ハル(一七)第一項一然ルニ後送機關ニ于テ時ニ注意スヘク其數多アリ(一八)後送機關ヲ遮斷スレ文或者力軍事上ノ必要アル場合ニハ該後送機關ノ収容ニタル病者及傷者ヲ引渡ケタル後ニテ解カシムルコトヲ得(一九)

(一七) (一) 此場合ニハ衛生人負ヲ軍事上ノ必要ト相慮ルル時期及通路ニ依リ所屬軍隊又ハ其本國ニ運送スルキモノトシテ軍人、軍馬ヲ運送スルヲ輸送又ハ後送機關ノ機關ニ在スル一切ノ軍人、軍馬ヲ運送スルヲ輸送又ハ後送機關ニ于テ衛生材料運送、義務ノ規定(一四)ハ後送機關ニ適用アリテ時ニ後送ノ爲ニ設備サレタル鐵道列車(病院列車、患者列車等)及内地航行ノ船舶並ニ衛生勤務

ニ屬スル普通ノ車輛、列車及船舶ノ以テ装置シタル應有輸送用材料
ニモ適用セラルヘキモノトスル(三)衛生勤務ニ專屬セザル軍用ノ
車輛ハ後送機手ノ使用ニ供セラルル場合ニ於テモ後送機手ニ屬スル
モノトシテ取扱ハレズシテ跳馬ト共ニ戰利品トシテ獲得シ得ヘシ
(十)徵發ニ依リ收用セラルル各種ノ輸送物件モ一概ノ國際法ノ規
則ニ従フヘク後送機手ニ屬スルモノトシテ取扱ハレラ特別ノ保護ヲ
享クルコトナシ後送ノ為メニ使用セラルル鐵道材料及船舶モ衛生勤
務ニ專屬セザレニアラサル限リハ後送機手ニ屬スルモノトシテ取扱ハ
ルルコトナシ(十一)後送機手ニ屬スル普通人民モ國際法ノ一概
ノ規則ニ依ヒテ取扱ハル(以上一七)
後送機手ニ干スル赤十字條約ノ規定(一七一)ハ攻圍地ヨリ傷者病
者ヲ運リ出スコトニ依リテ長ク防禦ニ維持スルノ利益ヲ被攻國存ニ
キアルコトヲ許ササルモノト解致セサルヘカラス

第七 赤十字ノ記章

軍用ノ衛生勤務上ノ特別記章トシテ白地に赤十字ノ大章ヲ用フ此
教章及赤十字又ハ以テ赤十字ナル赤十字ハ平時ト戰時トヲ同ニス
赤十字條約ノ保護ヲ享クル衛生上ノ後送機手、固定管造物、人貨及
材料ノ保護ニハ機械タル高ニアラザレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス
(二三)赤十字ノ記章ハ赤十字條約ニ依リ保護セラルヘキ衛生上
ノ後送機手及固定管造物ノ衛生官憲ノ認許ヲ受ケタル上ニ於テ始メ
テ之ヲ掲揚スルコトヲ得ルモノトス赤十字條約ヲ掲クルトキハ之ト共
ニ白圓ノ旗ヲ立ツヘキモノトス但後送機手ニシテ敵ノ軍ニ捕リタ
ルトキ其敵國ノ軍ニ在ル時本國々旗ヲ用テ敵國々旗ヲ掲揚セズシ
テ赤十字條約ノミヲ掲揚スヘキモノトス(二二)赤十字ノ記章ハ所轄陸
軍官憲ノ認許ニ依リ衛生勤務ニ干スル旗、醫章及一切ノ材料ニ表托
セラルヘキモノトス(一九)
赤十字條約ノ保護ヲ受クル人項ハ正式ノ命令ヲ有スル第九條第二
項所定ノ守衛人負(八)亦ニ号(九)ヲ除クハ八所轄陸軍官憲ニシテ
付シ且其印章ヲ捺シタル白地に赤十字ノ醫章ヲ左腕ニ装着スヘノハ不

取ニ因テ七シムルヲ要ス一軍服ヲ看セル右ハ例、故地攻合ニ属スル者等ハ此階章ノ外ニ所懸陸軍官憲ノ交付スル証書証明書ヲ携フ、シトス(一三〇)

第八 死者ノ保護

今日ニ於テハ敵ノ女ト云モ死者ハ已ニ敵ニアラスト為サレ而モ戰國ハ互ニ討手前ノ兵士ノ死後ヲ尊重シ掠奪及虐刑ニ討レ之ヲ保護スヘク綿密ニ之ヲ検査シテ其生死ヲ確メ其被服及携帶品ニ付テ其所得ノ限リ其何人タルヤ確メテ後其ノ屍体ヲ火葬スヘト爲ニ付、ハキナリ(一三一)各文或者ハ死者ニ付テ發見シタル軍服ノ証書又ハ身分ヲ証明スヘキ記号ヲ既レハノ述ニ其官憲又ハ所屬陸軍官憲ニ交付スヘキト爲ス(一三二)敵國ノ死者ノ相スル兵士、馬匹及軍用器、如キハ戦利品トシテ没収スヘキモ其携ブル所ノ金銀、宝石、雜品、如キハセテ利害干渉者ニ還付セザルヘカラス(一三三)其ノ外ハ戰場ニ於テ發見セラレ或ハ衛生上ノ固定運送物及被服干肉ニテ死

七シタル屍体又ハ兵器ノ遺留ニ係ル一切ノ私用品、荷役物、書状等ヲ其所屬官憲ヲシテ利害干渉者ニ傳送セシムル所ノ未收スヘキト爲シ(一三四)海牙ノ陸戰條約ハ俘虜捕獲前々ニテ以集シテ關係者ニ伝送スル任務ヲ有スヘキトス(一三五)

第四章 陸戰ニ於ケル突撃攻圍及砲撃

第一 概説

突撃トハ戰場ニ在ル敵兵又ハ城塞若クハ都市、村落、住宅又ハ建物を砲撃ニ依リテ敵地ヲ圍ミ内外ノ交通ヲ絶ワセ、ニシテ敵ノ糧食ノ供給ヲ絶テ之ヲ降伏セシムル爲ニ行フコトアリ砲撃ニ依リ攻取センカ爲ニ之ヲ行フコトアリシ砲撃トハ敵ノ軍隊組織又ハ敵ノ地城塞都市、村落、住宅又ハ建物を討テ之ヲ砲撃ヲ發射スルコトナリシ攻圍ニハ砲撃又ハ突撃ヲ伴フコトアレトモ必ずシモ然ラズ攻圍カ單ニ敵

糧食、供給ヲ絶テテ敵ヲ作ラシムル目的ヲ以テ行ハルルコトアリ
得、ケレハナリシ攻撃ハ攻撃ニ伴ハルルコトアリ又伴ハレサルコト
アリ攻撃、攻圍及攻撃ハ皆適宜ナル害敵手段ナリ攻撃及攻撃ハ野戦
ノ條件ハルルトキハ他ノ害敵手段ト同様ノ條件ノ下ニ行ハレヘキモ
ノニシテ特ニ之ヲ認ツテ要セズ野戦以外ニ於テ如何ナル場合ニ攻圍
攻撃及攻撃ヲ許スヘキヤカ問題トナルノミ

第二 攻圍

攻圍ハ防守セラレサル場所ニ對シテ之ヲ行フ能ハサルコトハ毫モ
疑ヲ存レサル所ナリ攻圍ニ下シテ攻撃及防禦ノ害敵手段ニ下スル一
般ノ規則ハ例ハ海牙ノ陸戰條約ノ第ニ十三條ノ規定一カ適用アルコ
ト否ヲ決スス又攻圍カ攻撃ニ伴ハルル場合ニ下シテ海牙ノ陸戰條約
ハ宗教、技藝、學術及慈善ノ用ニ供セラルル建物歴史上ノ紀念建造
物、病院並ニ病者及傷者ノ收容所カ同等ニ軍事上ノ目的ニ使用セラ
レサル限り之ヲシテ或ルヘク損害ヲ受レシムル為ノ必要ナル一切ノ

手段ヲ棄ルヘキヤ歟ムヘニセシ

攻圍ノ際攻圍聲ハ攻圍地域内ニ在ル老幼、婦女、傷病者ノ攻圍地
域ヲ去レテ許スコトアルモ必ズシモ之ヲ許スノ義務ナシ又等ノ人民
ニ對シテ壓迫ニ依リテ攻圍ヲ度クル都市ノ敵軍カ降伏スルコトアル
ハク且攻圍地ヨリ退去ノ人民ノ退去ヲ許スハ攻圍ヲ度クル陣ノ糧食
ノ供給上ニ利益ヲ与ヘ攻圍ノ目的ヲ害スルモノナルヲ以テ命令又等
ノ人民ニ對シテ慘酷ナリト雖モ今日ニ於テハ退去ノ人民ノ攻圍地域
ヲ去ルヲ許サスシテ可ナリト又自ラ攻圍ヲ脱シテ攻圍地域外ニ退去
セシトシ又ハ攻圍ヲ度クル陣ヨリ退去ヲ強制サレタル上述ノ種類ノ
人民ハ攻圍聲ニテ攻圍地域内ニ進出シタムコトヲ得ル中五國人ノ攻圍
ノ行ハレントスル地域内ニ在ルモノハ攻圍ニ先ケ又ハ攻圍ノ初期ニ
於テ退去ヲ許スコトアルモ此機會ニ退去セサルトキハ攻圍地域内ノ
他ノ平和的人民ト同様ニ取扱ハル

攻圍地域内ニ在ル中五國人ノ外交官ハ其攻圍地域外ニ退去セントス
ルニ當リ攻圍聲カ之ヲ妨クルヲ得サルコト吾ク認メラルル攻圍地域

内ニ在留スル中立國ノ外交官カ攻圍軍ノ檢閲ヲ經スシテ本國政府ト
通信ヲ為スコトヲ要求シ得、キヤ台ヤニテ議論アルモ今日ニ於
テ文戰國カ交戦ノ必要上攻圍地内ニ在ル第三國外交使節ノ本國トノ
交通ニ其ノ必要トスル相当ノ制限ヲ加フルヲ認メタルヲ得ルカ如
シ

一五六

第三 突撃

突撃ニ干シテ攻撃及防禦ノ害敵手段ニ干スル一級ノ規則カ通用ア
リル突撃ハ防衛セラル都市、村落、住宅又ハ建物ニ對シテ逆ヲ加フ
ルヲ得スル突撃ハ砲撃ト異リテ之ヲ始ムルニ先キ地方官憲ニ通告ヲ
為スヲ要セスル突撃ヲ以テ攻取シタル場合ニ於テモ今日ニ於テハ都
市其他ノ地域ハ之ヲ攻撃ニ要スルニトマ得スハ陸軍條規第ニハ一

第四 砲撃

防止セラル都市、村落、住宅又ハ建物ハ如何ナル手段ニ依ルモ之

ヲ砲撃スルコトヲ得スハ陸軍條規ニ五ノ前掲防衛セラル都市トハ必ス
シモ城塞ヲ回ラシメハ其近傍ノ砲台ニ依リテ掩護セラルルモノナル
ヲ要セス軍隊カ之ニ對シテキハ防衛セラル都市トナルナリ又城
塞ヲ回ラシメハ其近傍ノ砲台ニ依リテ掩護セラルル都市ハ防衛セラレ
タルモノト推定スヘク抵抗ヲ為ササルノ態度カ明白ナラザル以上ハ
砲撃ヲ加フルヲ得防衛セラル都市、村落等ヲ砲撃スルヲ得ナルヲ認
ムルニ至レルハ交戦法規上ノ一大進歩ナリトス
海牙ノ陸戰條規ハ攻撃軍隊ノ指揮官ハ強襲ノ場合ヲ除ク外砲撃ヲ始
ムルニ先キ其旨土地ノ官憲ニ通告スル為メ施シ得ヘキ一切ノ手段ヲ
尽スヘキモノトスト突撃ニハ一指揮官カ通告ヲ為ス為メ施シ得ハ
キ一切ノ手段ヲ尽スヘキヲ定メタルモ砲撃ノ規定ニテテスシテ時
別ノ事情アリテ通告ヲ為ス能ハサルトキ又ハ戰軍ノ必要上直ニ砲撃
ヲ為スコトヲ要スルトキハ通告ヲ為サスシテ砲撃ヲナシ得ヘキモノト解
セラルヘカラス通告ノ目的ハ砲撃ノ加ハラレントスル地域内ニ在ル
私人ヲシテ其身体及貴重トスル私所有物ヲ保護スルヲ得ニシムルニ

一五七

海軍系約ハ攻固及地撃ニ際シ宗教、技藝、學術及慈善ノ用ニ於テ
 ラルル建物、歴史上ノ紀念建造物、病院並ニ病者及傷者ノ收容所ハ
 同時ニ軍事上ノ目的ニ使用セラレサル限り之ヲシテ或ルヘク損害ヲ
 免レシムル為メ必要ナル一切ノ手段ヲ執ルヘキモノトス、(ニ七第一
 項)而シテ之ニ対シ被固者ハ予メ攻固者ニ通告セル后易キ特別ノ微
 章ヲ以テ上述ノ建物×ハ收容所ヲ表示スヘキモノトス、(ニ七第二
 項)

都市ノ砲撃ニ際シ軍ニ四圍ノ公産若ハ附近ノ砲台ニ砲撃ヲ限ルノ
 必要ナク上述ノ特別ノ保護ヲ受クル建物、建造物、收容所ノ外ハ都
 市ノ公私ノ建物ヲ砲撃ニ依リ破壊毀損シ得ルナリ

第五章 陸戦ニ於ケル奇計

第一 奇計ト陸戦条規

戦争ニ於ケル奇計トハ敵ヲシテ誤認ニ陥ラシメ戦場ノ利益ヲ占
 ムルカ為メ行フ所ノ策略ナリトスル海軍ノ陸戦条規ハ奇計ノ通法ヲ
 シテ定ム(ニ四)然レトモ是レ原則ヲ定メタルモノニシテ或奇計ニ
 シテ他ノ特別ノ規定ニ依リ不法ト認メラレタルモノハ上述ノ原則的
 規定ノ如何ニ拘ラス特別ノ規定ニ依リテ不法トナルハ言ヲ強クス例
 ハ背信ノ行為ヲ以テスル人ノ殺傷(ニ三〇)号)又ハ軍使放、囚獲
 其ノ他ノ軍用ノ標章、敵ノ制服及シゴネサア条約ノ特殊徽章ノ濫用
 (ニ三三(ハ)号)等ニ干シテハ特別ノ規定アリ

第二 奇計及背信ノ行為

單純ナル奇計ハ之ヲ背信ノ行為ヲ含ム奇計ト區別セサルヘカラス
 海軍ノ陸戦条規ハ奇計ノ原則トシテ通法ナルヲ認メタルモ背信ノ行
 為ヲ以テ殺傷ヲ為スコトヲ禁シタリ(ニ三三(ロ)号)背信ノ行為ト
 ハ交戦者カ特ニ明示的ニ戦争中ノ行為ニ干シテ約束シタル所ニ故意
 ニ違反スル場合×ハ故ヲ欺ク為ニ使用セサルコトヲ默示的ノ條件ト

シテ戰時慣習法上認めラレル事項ヲ敵ヲ欺ク為ニ用アル場合モ於テ存スルモノニシテ斯ノ如キ背信ノ行為ハ現今ノ戰爭ニ於テモ尙ホ幾分カ存スル武士道的做法ニ背キ戰爭ノ侮辱ヲ過大ニスルノ弊ヲ惹起スヘキモノナルヲ以テ國際法上之ヲ用ヒテ人ヲ殺傷スルヲ禁止スルモノナリ例ハ休戰規約ヲ結ビ若ハ戰闘停止ヲ求メナカラ敵ヲ不意打スル為メ急ニ敵對行為ヲ始メ又ハ退却ノ機会ヲ求メ或ハ獲兵ノ到ルヲ待テ敵對行為ヲ始ムル意思ヲ以テ降伏規約ヲ結ビ若ハ降兵ノ合圍ヲ為シ又ハ休戰ノ意思ヲシテ休戰波ヲ揚ケテ以テ敵ヲ欺キ戰闘上ノ利益ヲ得ルモノハ亦十年茶約ノ保護スル場合ニ當ラザルニ故意ニ亦十年茶約ノ記事ヲ場テ戰闘上ノ利益ヲ得ルカ如キハ背信ノ行為ヲ以テ曰スヘキニト明白ナリ然レトモ時ニ軍隊ナル奇計ト背信ノ行為ヲ含ム奇計トヲ區別スルコトノ困難ナル場合アルヲ免レス

第三 奇計ト國旗、軍用標章及敵ノ制服ノ使用

國旗、軍用標章、敵ノ制服ノ使用ニ付シテハ實戰ニ際シテ現ニ地

火ヲ交スルニ當リ自己ノ正当ノ國旗、軍用標章、制服ニアラサルモノノ使用ヲ為スヲ得ナルコト一級ニ認メラルモ實戰中敵味方カ判然タラザルハカラスト為スニ由ル然レトモ許多ノ學者ハ實戰ノ始メル前又ハ實戰ノ終レ後ハ敵ニ接近シ又ハ敵ヨリ遠レルカ為メ敵略トシテ他ノ國旗等ヲ使用ムルヲ得ヘシト為ハ海牙ノ陸戰條規ハ軍用標、國旗其他ノ軍用標章、敵ノ制服ヲ擅ニ使用スルヲ禁スルモ(一)ニ(二)年ノ擅ナル使用ニアラサレハ又テ使用シ得ヘク擅ナル使用ト然ラザル使用トノ區別ノ標準ニ付シテハ尙ホ議論ノ餘地ヲ存スルナリ許意ノ學者ハ自己ノモノニアラザル國旗若ハ軍用標章ハ敵ノ制服ノ實戰開始前又ハ終了後ノ使用ハ擅ナル使用ニ付テスレテ禁止セラレスト為ス然レトモ國旗、軍用標章、敵ノ制服ヲ敵ニ對スル奇計ニ於イテ使用スルハ總テ濫用ニシテ不法ナリトスルノ論者少ナカラズ

第四、奇計ト亦十年茶約ノ記事及軍用標章ノ使用

赤十字条約（ジュネーブ条約）ノ特殊勳章ハ赤十字条約ノ保護ヲ
 度クハキ衛生勳章ニ依アル号造物、機子、人負、物件、標識ノ為
 メニアラサレハセテ使用シ得スシテ（赤十字条約第六章）其以外ノ
 場合ニモテ用フレハ背信ノ行為トナリ陸軍条約（二三（八）号）ノ
 所謂擅ナル使用タルコト疑テ察レサルナリ又俾使禁モセニテスル特
 別ノ取扱ノ國際法上認メラルルハセテ敵ヲ欺ク為ニ使用セサルノ默
 示的ノ条件ノ下ニ於テスルモノナルヲ以テ之ヲ俾使ヲ取スル為ニ用
 ヒスシテ敵ヲシテ誤謬ニ陷ラシメ戰闘上ノ利益ヲ占ムル為ニ使用ス
 ルハ背信ノ行為ニシテ陸軍条約第二十三條（八）号ノ所謂擅ナル使
 用ニ該當シ之ヲ不法トスヘキコト疑テ察レサルナリ

第五 背信行為ヲ含マサル奇計

交戦者ハ背信行為ヲ含マズ且他ノ特別ノ規定ニ基ク禁止ニ触レサ
 ル奇計ハ之ヲ行フコトヲ違法ト認メラルルモノナルヲ以テ不意打、
 伏兵、虚報ヲ依フルコト、敵ノ台圖ヲ使用スルコト等ヲ為シ得

第六章 陸戰ニ於ケル間諜及戰時叛逆ノ利用

第一 緒言

敵情及地形探知ノ為ノ必要ナル手段ノ行使ハ違法ト認メラルハ陸
 戰条約（四）故ニ或ハ間諜ヲ用フルコトヲ得ヘク或ハ強刺ニ依ラズ
 シテ敵國人ヲシテ其本國軍又ハ其本國ノ防諜手段ニテスル情報ヲ伏
 身セシムルヲ得ヘキ又敵軍ノ占領地ニ在ル自國人又ハ中立國人ヲシ
 テ其自然ニ見聞スル情報ヲ伏身セシムルヲ得ヘキナリ敵國人カ本國
 ニテスル情報ヲ伏身スルハ敵國ノ國內法上叛逆ノ場合ナルニ敵軍ノ
 占領地ニ在ル自國人又ハ中立人ニ其ノ自然ニ見聞スル情報ヲ伏身セ
 シムルモ國際法上ノ戰時叛逆ノ一ノ場合トナルナリ其他ニ於テモ種
 々ノ戰時叛逆ノ利用ノ場合ヲ存ス（本章戰時叛逆ノ節参照）間諜並
 一敵國ニ對スル戰時叛逆ヲ犯ス者ハ敵國力以テ捕フルトヤハ之ヲ嚴
 罰スルコトヲ得ルナリ

海牙ノ陸戰條規ハ(1)一方ノ攻戦者ニ通報スレノ意思ヲ以テ、
 (2)他ノ一方ノ攻戦者ノ作戦地帯内ニ於テ(3)意欲ニ行動シ又
 ハ虚偽ノ口実ノ下ニ行動シテ(4)情報ヲ蒐集シ又ハ蒐集セシメ
 ル者ニ下ラサレハ之ヲ問謀ト認ムルコトヲ得スト為シ、(5)第一項
 戰時關係法上所謂問謀ト為ルニハ(1)(2)(3)及(4)ノ四
 条件特ニ(3)ノ条件ヲ具備スルヲ要スト又但上述ノ四条件ヲ具
 レハ軍人タルト軍人タラサルト向ハス軍人中將校タルト兵卒タル
 トヲ論ハス敵國ノ国籍ヲ有スルト中立國ノ国籍ヲ有スルトヲ別メス
 長官ノ命令ニ依ルト自己ノ意思ニ基クテ向ハスシテ戰時關係法上
 ノ問謀ト云フハナリ

海牙ノ陸戰條規ハ上述ノ問謀ノ条件ヲ具ハサル或場合ヲ説明的ニ
 挙ケテリ曰ク(イ)武装セサル軍人ニシテ情報ヲ蒐集センコト為メ敵

軍ノ作戦地帯内ニ進入シタル者ハ之ヲ問謀ト認メ又(ロ)軍人
 タルト否ト問ハス自國軍又ハ敵軍ニ宛テタル通信ヲ伝達スルノ任
 務ヲ公然執行スル者モ亦之ヲ問謀ト認メ又(ハ)通信ヲ伝達スル任
 メ及德ヲ軍又ハ地方ノ各部隊ノ聯絡ヲ通スル為メ野氣球ニテ消息ヲ
 ラレタル者亦同シトス(ニ)又第一項ノ條件ニ通信ヲ伝達スルノ任分ヲ
 公然執行スル者モ亦之ヲ敵ノ作戦地帯内ニ於テ敵軍ニテ情報ヲ蒐
 集スルトキハ問謀ノ要素ヲ備フルコトアルヘク又野氣球、航空機、
 空中飛行機等ニ依リテ公然敵方ヲ偵察スル者ハ問謀ト云フヲ得タル
 モ若シ虚偽ノ口実ヲ用フルトキハ問謀トナルニ至ル

戰爭ニ於テ問謀ヲ用フルコトハ國際法ノ認許スル所ナルモ一ハ敵
 軍ノ情報ヲ探知セシキ為ニ取レ所ノ手段カ粒々ニシテ名譽ヲ重ニス
 ル人ノ為メヲ盾シトセサルカ如キ性質ノモノアリト認むべシタルニ
 由リ一ハ意欲ニ行動シ又ハ虚偽ノ口実ノ下ニ行動シテ軍情ヲ探知ス
 ルモノハ相手ノ軍ニ取リテ危険ナルヲ以テ之ヲ嚴罰スルノ必要アル
 ニ由リ諸軍カ問謀ヲ捕フルトキハ彼等ノ如キ不名誉ト思惟セニル

敵利ニ如スルヲ常トスレ海牙ノ陸戦条規ハ現行中相ラレタル同謀
ハ裁判ヲ至ルニテラサレハ之ヲ罰スルコトヲ得スヘシトシテ為ス
レ現行中ノ同謀ナリトノ嫌疑アル者ヲ往々裁判ヲ經スシテ捕ヘタル
部隊ニ於テ依款ヲ行ヒ時ニ無辜ノ者ヲ殺スノ虞アルヲ以テナリシ海
牙ノ陸戦条規ハ又一且折衝軍ニ復政シタル後ニ至リ敵ノ為メニ捕
ラレタル同謀ハ俘虜トシテ取扱ハレヘク前ノ同謀行爲ニ對シテハ何
等ノ責ヲ負フコトナシトス(三一)

第三 戰時取返

普通所稱取返罪ハ一面ノ軍人又ハ普通ノ人民ノ其本國ニ對シテ行
フモノナルモ國際法上所謂戰時取返軍ハ侵入サレヌハ占領カレタル
土地ニ在在シヌハ一時的ニ末レル敵國人又ハ中立國人又ハ一方交戰
國ノ領土内ニ在在シヌハ一時的ニ末レル敵國人又ハ中立人ハ敵ノ軍
人ヲ合マサルヲ原則トスルモ復裝セル敵ノ軍人ヲ合ムノ行為タル
ヲ得ヘキ所ナリ

戰時取返ニ付テ既ニ戰時重罪ヲ述フルニ當リ海牙ノ陸戦条規ニ明
文ナキニ據リ國際法上戰時取返ノ必罰認メラルルコト明白ナリレ
戰時取返ノ犯ス者ハ軍人タルト否トニ拘ラズ現行中捕ヘラレタル者ト
否トヲ問ハス後日ニテ知罰スルヲ得一方ノ交戰國ハ敵國人ノ其本國
ニ對スレ取返ヲ利用スルコトヲ禁セラルルコトナシ或ハ敵ノ城塞指
揮官ニ贈賄シテ降伏セシメ、敵ノ軍人ヲ誘ヒテ脱隊セシメ、敵ノ將
校ニ贈賄シテ復スナル情報ヲ得、敵國人ヲ誘フテ強制ヲ用ヒスニテ
其ノ本國政府ニ背及セシムル等ハ國際法上セフ禁セラルルト爲スノ
既アルモ現行ノ國際法上ニ於テハ採ヒラレタリト云フヲ得ス

第七章 敵國領土ノ占領

第一 占領ノ一般の性質

占領トハ交戰國ノ一方ノ軍隊ノ地方ノ陸地上ノ領域ニ侵入シテ事

以上諸國ノ領力ヲ排除シ該地ヲ自己ノ領力ノ下ニ置クヲ云フ
 古ニ於テハ交戦者ノ敗地ヲ占領スルトヤハ給モ之ヲ自國ノ領土ノ
 如ク取扱ヒ戰爭中ニ之ヲ他國ニ割譲シ又自領地ノ住民ヲ驅リテ其ノ
 本國ニ對スル戰爭ニ於テ敵對行爲ヲ行ハシメタルコトアリシモ十八
 世紀ノ後半ニ於テ戰時占領ハ之ヲ征服ト或然區別スルニ至レリ然レ
 トモ國際法上ニ於テ北正則ノ結果ノ充分ニ認メラルルニ至リシハ前
 世紀ノ前ナリトモ海牙ノ平和會議ノ憲法條規ニ於テ占領ニ干シテ詳
 細ノ規定カ定メラルルニ至レリ

現今ニ於テ占領ハ自領地ニ於ケル故占領國ノ主權ヲ行フノ權利ヲ
 終止セシムルモノニアラスシテ占領ノ行ハルル時被占領國ノ主權ノ
 行動ハ事實止中スルニ違ヤナルコト及自領國カ占領ノ事實ニ依リ
 一時其領力ヲ占領地ニ行フコトヲ得ルニ至レモノトルコトハ昔ク認
 メラルル所ナリ然ルニ占領者ノ領力ノ性質ニ干シテ自領ノ事實ニ外
 ナラスシテ占領者ノ領力ハ事實上ノ領力ナリトシ法律上ニ於テ占領
 者ト住民トノ干係ハ占領前ト異ル所ナシトスルノ説カ茲ク行ハル所



占領者ノ主權カ全然被占領國ノ主權ヲ排除シテ終リ占領地ニ行ハル
 ルト爲ス旧説ノ如キハ今日ノ國際慣例ノ實際ニ合セサルコト明白ナ
 ルモ旧説ノ正反對ニ出ラズル占領ノ占領者ノ領力ハ事實上ノ領力ニ
 違キスト爲ス説モ正鵠ヲ失ヒリト云フハ此占領ハ固ヨリ事實ナレト
 モ國際法カ其認ムル占領ノ事實ノ成立スル條件至ニ此事實ニ基ク
 國際法上ノ結果ヲ定メ就中占領者カ一定ノ範圍ノ領力ヲ行ヒ得ヘキ
 コトヲ定ムルヲ以テ占領ナル事實ハ國際法上ノ一ノ觀念トナリ占領
 者カ住民ニ對シテ行フヲ認メラルル領力ハ法律上ノ領力トナルニ至
 ルナリ國際法上ニ於テ占領者ト住民トノ干係カ占領以前ニ同シト云
 フ如キ説ハ断シテ誤レリト云ハサルヘカラス占領者ク占領地ニ於テ
 行フ領力ハ單純ナル事實上ノ領力ニノラスシテ國際法ニ依リ之レカ
 有效ノ條件及行動ノ範圍ヲ定メラレ一定ノ條件ノ下ニ一定ノ範圍内
 ニ於テ有效ト認メラルル法規上ノ領力ナリトス但之ヲ自領國ノ國內
 法上ノ主權ノ一部ト認ムヘキマ否モ尙懸ニ於テハ議論ヲ生セサル
 ヲ得ス然レトモ國際法上ノ向懸トシテハ占領者ノ領力ハ單純ナル

事實上ノ権利ニアラスシテ國際法上ノ権利タルヲ明ニスルヲ以テ足
レリトス

第二 占領ノ開始ノ時期及占領ノ區域

一地方ノ占領ノ開始ノ時期ニ付キ海牙ノ陸戰條約ハ「一地方ニシ
テ事實上敵國軍力内ニ降シタルトキハ以テ占領セラレタルモノトス」
ト定ム。四二第一項一而シテ占領ノ區域ニ付キ陸戰條約ハ「占領ハ
占領軍ノ軍力ヲ對立シ且之ヲ行使シ得ル地域ヲ以テ限リトスレトス」
ト定ム。四二第二項一實際上一定ノ地方ノ占領軍ノ軍力内ニ降シタル時
期如何、占領軍ノ軍力ノ對立シテ且之ヲ行使シ得ル一定ノ地域如何
ハ各場合ニ付キ判断セラルヘキ事實上ノ問題ナリ。唯占領ハ單純ナル
敵地侵入ト異ニシテ一地方ヲ占領セリト云フヲ得ルニハ或程度ノ秩
序維持ノ行政的行動ヲ其地方ニ行フヲ要ス。一地方ニ於テ占領軍ノ
軍力ヲ對立シ且行使シ得ルト云フヲ得ルニハ兵力ノ該地方ノ然テノ
地質ニ依存スルヲ要セサルモ占領軍力其中ノ一地質ニ於テ軍力ヲ行

使スルノ必要アル場合ニ於テ相當ノ時自以ニ充分ノ兵力ヲ該地質ニ
送り得ルコトヲ要ス

第三 占領者ノ占領地ノ住民ニ對スル権利

占領者ハ單ニ占領ノ事實ニ依リ占領地ヲ自國ノ領土ト爲スヲ得テ
レトモ占領者ハ占領ノ事實ニ依リ其地ニ於テ國際法ノ規則ニ一定ノ
軍力ヲ行フニトテ糾ルニ至ル而シテ占領者ハ該國ノ占領地ニ軍力ヲ
行フコトヲ切テ住民ニ其一定ノ範圍ノ軍力ニ服従スルコトヲ要ス
ルモノナルヲ以テ占領者自身ノ軍事上ノ利益ノ爲ノミナラス出來得
ヘキ又々住民ノ公益ノ爲メニ其地方ニ行政ヲ爲ササルヘカラスト爲
フ是ニ於テ現今ノ國際法ハ此莫ニ下シ占領軍ニ一定ノ軍力ヲ認ムル
ト同時ニ占領地方ニ於テ出來得ヘキ又々公益ノ秩序及生活ヲ回復確
保スル爲メ其ノ施行ヲ得ヘキ所ヲ盡スノ義務ヲ負ハシム。陸戰條約四
三)

占領者ハ占領中占領地域内ニ於テ行政ヲ爲スノ一定ノ範圍ノ軍力

一七二
ヲ國原志上認メラレテ以テ此權力ノ範圍ニ於テ占領者ノ行ハル
所ハ占領終了ノ後領土所屬國ノ政府ニ以テ認メサルヲ得ル占領者ハ
行政ヲ爲スニ當リ其地ノ憲法々律ニ拘束セラレズ是レ占領者ハ戰爭
上ノ目的ノ爲ニ占領ヲ行フモノナルヲ以テ其行爲ニ於テ先ヨ其ノ以
力ノ維持及安全至ニ其軍事上ノ成效ヲ主眼トスハキヲ認メサルヲ得
サレハナリ然レトモ占領者ハ其地ノ領土權ヲ有セサルヲ以テ其行
爲ノ權力ハ一時的軍事的目的ノ爲ニシテ其權力ノ範圍ハ其兵力
ノ維持及安全至ニ軍事上ノ成效ニ干セサレ限リハ制限セシ其兵力
ノ安寧秩序維持ノ爲ニ必要ナルニアラサレハ法律及行政ノ改革ヲ行
ハサルヘキナリ海牙ノ陸戰條規ハ國ノ權力ノ事實上占領者ノ干セ
ルニハ占領者ハ絶対的ノ支障ヲ受ケリ占領地ノ現行法律ヲ尊重
シテ或レハシ(原文)由未得、キ文(註)公法ノ秩序及生活ヲ回復確
保スル爲メ施シ得、キ一切ノ手段ヲ尽スヘシトス(四三)
占領軍ハ占領地域内ニ於テ權力ヲ行フコトヲ認メラルルヲ以テ其

地域外ノ在民ハ敵國人タルト申立人タルトテ回ハズ占領軍ノ命令ニ
服従セサルヘカラス然レトモ占領軍ノ在民ニ對スル權力ニハ制限ヲ
存ス海牙ノ陸戰條規ハ(ハイ)支障者ハ敵國人ヲ強制シテ其本國ニ對
スル作戰動作ニ加ハラシムルコトヲ得ストシ(ハ)ニ三并二項(一四)
支障者ハ占領地ノ在民ヲ強制シテ敵軍又ハ敵ノ防禦手段ニ付キ情報
ヲ供与セシムルコトヲ得ストシ(四四)又占領地ノ人民ヲ強制シテ
忠誠ノ誓ヲ爲サシムルヲ得ストス(四五)
占領軍ハ占領地ノ領土權ヲ有スル國ノ政府ニ依リテ定メラレタル租
稅、賦課金及通過稅ヲ徵收スルヲ得但シ之ヲ徵收スル場合ニハ(一)
或レハ、現行ノ賦課規則ニ依リ徵收スヘシトシ(ハ)ニ占領者ハ領土
所屬國ノ政府カ支弁シタル程度ニ於テ占領地ノ行政費ヲ支弁スルノ
義務アルモノトス(四八)レ占領軍ハ又自ラ取立金徵收及課稅ヲ命
スルヲ得(第一章條規)
占領軍ノ命令ニ従ハズ又ハ其ノ禁スル行爲ヲ行ヒタル者ニ對シテ
ハ刑罰ヲ科ス刑罰ニ干シ海牙ノ陸戰條規ハ刑罰ヲ設ク人民ニ對シテ

ハ其連勝ノ勢ノリト認ムヘキテハ人ノ行爲ノ爲メ全賦上其他ノ
連坐罰ヲ科スルコトヲ得トノ制限是ナリ(五)シ刑罰ノ外ニ於
テ占領軍ハ其ノ行爲ノ平防ノ爲メ戦争上必要ナル刑罰酌処置ヲ占
領地内ノ一民ノ人ニ加フルコトアリ

米國及英國ノ見解ニ依レハ海牙ノ在戰條規第廿三條(一九一一年)
對中台事國ノ人民ノ權利及訴權ノ消滅、停止又ハ裁判上不處理ヲ宣
言スルコトヲ禁止スルノ規定ハ特ニ敵地ノ占領軍ノ權力ノ制限アリ
トス此見解ニ對シテ大亞諸國ノ反對アルコトハ既に之レヲ述ヘタリ
占領軍ノ占領地ニ在ケル住民ノ身及財產並ニ公有財產ノ反攻ニ
干スル規定ハ別ニ之ヲ述フルヲ以テ茲ニ省略ス

第四 占領地ニ於ケル敵國ノ官公及裁判官

占領軍ハ領土所屬國ノ官及公吏ノ殘留スル者ヲ逐職セシムルヲ
得ルモ亦占領中ニ在リテ其職務ヲ行ハシムルコトモ得ル得但ニ軍事
上ノ必要ナルニアラザレハ強制ニ依テ職務ヲ執ラシムルヲ得ズ職務

ヲ執ルコトヲ承諾スル官及公吏ハ職務ニ干スル侵權ノ宣誓ヲ爲サ
シムルヲ得通説ニ依レハ領土權ヲ用スル國ノ官及ニ對シテ占領者ノ
名ニ於テ職務ヲ執ルコトヲ強制スル能ハストシ同時ニ其本國ノ名ニ
於テ職務ヲ執ルヲ妨ケ得ルト爲ス余ハ占領軍ノ法規上ノ權力ヲ行フ
モノナリトシ敵國ノ官及ヲ其職干トシテ利用スルヲ得ルモノト爲ス
ヲ以テ占領權カノ名ニ依リ職務ヲ執ラシムル得ルトス

領土所屬國ノ任命セル普通裁判官ノ裁判官モ亦占領軍力一時之ヲ
逐職セシムルコトヲ得但ニ之ヲ逐職セシムル以上ハ他ニ之ニ代ヘテ一
時之ニ裁判官ヲ任命スル所ナカルヘクテ占領土所屬國ノ任命セル裁
判官ノ占領軍ノ權力ノ下ニ在リテ其職務ヲ執ルコトヲ肯スルトキハ
英國ノ法律ニ依リ其獨立ヲ尊重スヘキナリ普通裁判官ニ於テ通用ス
ヘキ民事及刑事ノ千スル法律ハ原則トシテ領土所屬國ノ法律タリト
ス(四)ニ參照)但軍事上ノ目的又ハ公共ノ秩序及安寧ノ維持ノ爲ニ
必要ナル範圍内ニ於テ一時實體法又ハ手續法ニ干スル法律ノ規定ヲ
停止又ハ變更スルコトヲ得又戰爭ニ干係アルカクハ軍法ノ安全ニ干

一七六
保了ル住民ノ敗罪(戰時政運其他ノ戰時重罪ヲ含ム)及白領軍一屬
スル者ノ犯罪ハ白領軍ノ軍法會議又ハ其他ノ軍事裁判所ニテ白領軍
ノ軍律又ハ他軍刑法ニ依リ裁判シ普通裁判所ノ行フヘキ裁判ニ必要
アレハ白領軍ノ軍事裁判所ヲシテ行ハシムルヲ得領土所屬國ノ裁判
所ノ裁判ニ干シテ通説ニ依リハ白領軍ハ總テ所屬國ノ法更テシテ占
領國ノ名ニ於テ裁判セシムルノ権利ヲ有セストシ而シテ又ト同時ニ
領土所屬國ノ名ニ於テ裁判スルコトヲ妨クルヲ得ルトスハリンチユ
||ハフ法律ノ名ニ於テ裁判スヘキモノナリトノ説ヲナセリ
第五 占領ノ終了

戰中占領軍ノ自ラ撤退スルコト又ハ敵ハ領土所屬國軍又ハ其ノ
同盟國軍又ハ群民激對)ニ擊退セラルルコト又ハ戰爭ノ終了スルコ
トニヨリテ占領ハ終了スルニ領土所屬國及共ノ同盟國以外ノ第三者
ニ依リ擊退サルコトニ依リ終了スルコトナリ得ヘシ領土所屬國及
共ノ同盟國以外ノ第三國力占領軍ヲ擊退シテ後領土所屬國ニシテ引

一七七
被テナルトキハ新ニ第三國ニ依ル占領ヲ生スヘシ占領力終了シ占領
地力被テ所屬國ニ復取スルトキハ占領ニ依テ其行動ヲ停止セラレタ
ル被テ占領國ノ主權ハ當然完全ニ行ハルルニ至リ原狀回復行ハル原則
トシテ占領前ノ狀態ヲ復活ス然レトモ占領軍力占領中ニテ認メラル
ル権利ノ範圍ニ於テ行ヒタル行為ハ領土所屬國力占領終了後ニ於
テ之ヲ認メサルヘカラス例ハ占領者力普通ノ租稅ヲ徵收シ、不動
產ノ普通ノ採掘ヲ賣却シ其政收スルヲ得ヘキ國所屬產ヲ処分シ又ハ
其他ノ戰時國際法上爲シ得ヘキヲ認メラルル行為ヲ行ヘル場合ニハ
領土所屬國ハ占領地ヲ復シ後ニ於テ之カ法律上ノ效力ヲ認メサ
ルヲ得ス但是等ノ行為ナリトモ其效果ノ占領継続期間以後ニ至ルマ
ノヲ認メサルヲ得占領軍力國際法上許サレサル行為ヲ行ヘル場合ニ
ハ法規上ノ原狀回復ハ顯著ニ行ハルルモノトス若シ占領軍力國際法
動產其他戰時占領者トシテ徵收スルヲ許サレサル公私ノ財產ヲ徵收
シテ賣却シタルトキハ買主ヨリ賠償ヲ与ヘスレテ又テ取戻シ得

第八章 陸上ニ於ケル敵國公有財産ノ没収 及使用

第一、總論

昔時ニ於テハ敵國領土内ニ在ル財産ハ公私ヲ同ハスニシテ没収シ得ルモノトセラレタルモ今日ニ於テハ然ラズ

第二、敵國ニ在ル公有ノ不動産

敵國ニ在ル敵ノ国有不動産ニシテ軍事上ニ干渉下ルモノ即チ制ハ要塞、兵營、兵谷廠、造紙所、倉庫、其他鐵道、橋梁、船渠ノ如キハ占領者ノ占領中全然自由ニシ得ヘキ所ニシテ自ラ之ヲ軍事上ノ用途ニ使用シ得ルハ勿論戰爭上ノ必要ノ爲メ毀壞破壞シ得ヘキナリハテ十一章參照)然リトモ七敵國ノ有ル不動産ノ没収ハ其所在地ノ法律ハ併合ニ依リ侵入軍ノ屬スル國ノ領土トナルニ至ルニアラサレハ之

ヲ行フヲ得ス軍ニ敵地ノ戰時占領ヲ行フ同ハ侵入軍所屬國ハ敵地ノ國有不動産賣却又ハ其他ノ方法ニ依リ処分スルコトヲ得又海牙ノ陸戰條規ニ於テ占領者ハ敵國ノ國有ニ屬シ其占領地内ニ存スル公共建築物、不動産、森林農場、管理者タリ且其用途者タルニ過キサルモノト考慮シ是等ノ財産ノ基本ヲ保護シ且用途ノ法則ニ依リテ之レヲ管理スヘシ(五五)ト定メタリ故ニ軍事上ニ干渉ナキ是等ノ財産ニ付テハ軍ニセカ原本ヲ毀壞セサル使用ヲ爲シ且之ニ生スル天然的果實及法律的果實ヲ收ムルヲ得ルノミ即チ國有地ノ耕作ノ收穫ヲ賣却シ國有森林ノ樹木ヲ伐リテ之ヲ賣却シ鐵山ノ採掘ヲ爲シ占領ノ期間内ヲ期限トシテ國有ノ土地建築物ヲ賃貸シ得ルモノ田畠者ト認メラルルニ過キサルヲ以テ財産ノ原本ヲ毀壞スル如キ普通ナラス又ハ必要ナラサル使用ヲ爲スヲ得ス森林ニ付テハ年々普通ニ伐採スル程度以上ノ材木ヲ伐リ出スコト能ハサルヘキナリ但戰爭上必要ナル場合ハ之ヲ軍事上ノ用途ニ使用シ得ヘク万已ムヲ得サル場合ハ財産ノ原本ヲ毀壞スヘキ使用ヲ爲スヲ得ルノミナラス財産ヲ全ク破壊ス

ルコトヲ得ヘキナリ(二三(ト)新参限)

一八〇

敵國ノ國有不動産ト雖モ海牙ノ陸戰条規ニ依レハ宗教、慈善、教育、技藝、學術ノ用ニ供セラレタル建築物ハ私有財産ト同様ニ取扱ハレヘキモノト爲ナル(五六第一項)

敵國ノ公有財産ト雖モ敵國ノ市町村有ノ財産ナルトキハ亦私有財産ト同様ニ取扱ハル(五六第一項)

敵國公有ノ不動産ハ戦軍上ノ必要アルトキハ國有ナルト市町村有ナルトヲ向ハス又宗教、慈善、教育、技藝、學術ノ用ニ供セラレタルト否トヲ問ハス傷兵病兵ノ治療所、兵隊ノ置場等軍用上ノ用途ニ使用シ得ヘキナリ但戦軍ノ必要上乃已ムヲ得サル能クハ必要アルヲサレハ損害ヲ存フル如キ使用ヲ爲スヲ得ス、宗教、慈善、教育、技藝及學術ノ用ニ供セラレタル建築物、歴史上ノ紀念建築物、技藝及學術上ノ製作品ヲ故意ニ押収、破壊、又ハ毀損スルコトハ總テ禁ムラレ且之ヲ犯ス者ハ訴追セラレヘキモノトス(五六第二項)

第三 敵國ニ在ル公有ノ動産

敵ノ國有ノ動産ハ之ヲ二種ニ分テ直接又ハ間接ノ軍事上ノ用途ニ充テラレ得ヘキ國有動産ハ之ヲ押収品ニ得共以外ノ國有動産ハ之ヲ押収若クハ没収スルヲ得ル海牙ノ陸戰条規ハ一地方ヲ占領シテル軍八國ノ所有ニ屬スル現金器具及有價証券、金銀、輸送材料、在庫品及糧秣其他總テ作戦動作ニ供スルニトヲ得ヘキ國有動産ノ外ニ之ヲ押収スルコトヲ得ヌトス(五三)

國有動産中ニ於テモ宗教、慈善、教育、技藝、學術ノ用ニ供セラレタル建築物ニ屬スルモノハ私有財産ト同様ニ保護セラレヘキナリハ五六参照) 技藝及學術上ノ製作品ヲ故意ニ押収破壊又ハ毀損スルコトハ總テ禁ムラレ且訴追セラレヘキモノトス(五六第一項)

公有動産中國有ニ屬セヌコトヲ市町村ノ所有ニ屬スルモノハ私有財産ト同様ニ取扱ハルヘキモノトス(五六)

第四 戰場ニ於ケル敵ノ動産

戰場ニ於ケル敵ノ動産ニ于テハ特別ノ國際法ノ規定ヲ認メナレ

一八一

ヲ得又古ニ於テハ公私有テ同ハスセテ押収シテ戦利品ト爲シタリ現
今ニ於テモ戦場ニ於テ茶見セラレタル兵器、馬匹、軍用居糧ハ公
私有テ同ハス戦利品ト爲スコトヲ得ハ四第三項ノモ其以外ノ私
財産ハ兵士ニ屬スルモノト雖モセテ戦利品ト爲スヲ得又ト解セサル
ハカラス(四第三項及一四参照)然レトモ戦場ニ於ケル敵ノ固有ノ
財産ニ至リテハ占領ノ際敵國ニ在ル動産ノ場合ト異ニシテ直接又ハ
間接ニ軍用上ノ用途ニ充テ得ルト否トヲ問ハス若モ固有動産ナレハ
セテ押収シテ戦利品ト爲シ得ルモノト解スヘキナリ戦利品力セテ押
収セル國ノ何人ニ屬スヘキマハ國內法ニ依リテ定マル

第九章 陸上ニ於ケル敵國私有財産ノ没収
及供用

第一概説

古ニ於テ敵國ノ私有財産ヲ没収シ得ヘキヲ認メラレタルコト
アルモ今日ニ於テハ然ラズ或ハ嚴正ナル法理論トシラハ固ク私有
財産ノ没収シ得ヘキヲ認ケル學者十九世紀ニ於テモ存セザリシニ
ラサルモ海牙ノ陸戦条規ハ明白ニ私有財産ノ尊重又ヘクセテ没収シ
得サルヲ定メ又掠奪ノ嚴禁ナルニトテ明ニセリ(四四及四七)私
有財産ノ没収ノ原則トシテ行フ敵ハセルコト今日ニ於テハ最早條ヲ
容ルヘカラサルナリ

第二 敵國ニ在ル私有不動産

敵ノ私有不動産ノ敵國ニ在ルモノハ戦時ニ際シ没収ヲ受ケ又戦争
上乃己ムヲ得サル必要ニ依リ破壊セラレルコトヲ免レサルモ、第十
一章参照)侵入セル攻撃者カセテ没収スルヲ得スヘキヲ陸戦条規
第四十六條モ私有財産ノ尊重又ヘク没収シ得サルニトテ明カニス
又セテ押収シテ利益ヲ收ムル爲メニ没収又ハ貸貸スルヲ得又租税
ノ必要上私有ノ土地建物ヲ一時使用スルニトテ得ヘキナリ例ハ私人
一八三

ノ住宅ニ戰爭上必要ナレハ病疫兵士ノ宿舍、醫院、又ハ時ニ必要ニ
トシテ使用シ得ヘキナリ

第三 敵國ニ在ル私有動産

敵國ニ在ル私有動産ニ于テハ之ヲ二種ニ別ケ直接ノ軍事上ノ用
途ニ充テラレ得ヘキモノト然ラサルモノト爲ス而シテ直接ノ軍事上
ノ用途ニ充テラレ得ヘキモノハ報復ノ役送及人若クハ物ノ輸送ノ爲
ニ使セラルル機子ヲ含ムハ之ヲ押收スルヲ得但平和克復ノ際ニ之
ヲ還付シ且之ヲ賠償ヲ決定スヘキモノト人海牙ノ陸戰條規ハ海上
法ニ依リ文艦ニ在ルル場合ヲ除ク外、陸上海上及空中ニ於テ報復ノ
爲送又ハ人若クハ物ノ輸送ノ用ニ使セラルル一切ノ機子、野藏兵器
其他各種ノ軍用品ハ私人ニ屬スルモノト爲シ之ヲ押收スルコトヲ得
但平和克復ニ至リ又ヲ還付シ且之ヲ賠償ヲ決定スヘキモノトスレハ
五三第一項トノ規定ヲ該クナリ

直接ノ軍用ニ使セラレ得ヘキ私有動産ハ後日ノ還付及賠償決定ヲ

ヲ条件トシテ押收シ得ヘキコト上述ノ如クナルカ其以外ノ私有動産
ハ之ヲ押收セサルヲ原則トスルモ後章述フヘキカ如ク取立金又ハ微
小ヲ課セラルルノ外ニ於テモ戰爭ノ必要上乃己ムヲ得サルトキハ微
小ノ方法ニ依ラスシテ糧食、馬糞、被服類、薪炭等ヲ押收スルコト
アリ得ヘキナリ、

宗教、慈善、教育、技藝、及學術ノ用ニ使セラルル建設物、歴史
上ノ記念建造物又ハ技藝及學術上ノ製作品タル私有動産ハ同種ノ公
有財産ト同シク之ヲ故意ニ押收、破壊又ハ毀損ヘルコトハ總テ禁セ
ラレ且誹追セラルヘキモノトスヘ五六一

第四 戰場ニ於ケル敵ノ私有動産

戰場ニ於ケル敵ノ動産ハ古ニ於テハ公有、私有ヲ別クセス之ヲ押收
シテ戦利品ト爲シタリ現今ニ於テハ兵器、馬匹、軍用書類ハ私有タ
リト雖モ戦利品ト爲スヲ得ヘキモノハ四三三項ニ其以外ノ私有財産ハ
兵士ニ屬スルモノト爲シ之ヲ戦利品ト爲スヲ得スト然レサルヘケラ

一八六
又ハ四第三項及一四分照ノ戰場ニ於テ榮冠セラレタルハ兵隊、馬匹
軍用書類以外ノ一切ノ自用品、有價物、信書等ハ之ヲ押收若ハ没
收スヘキラスシテ其ノ係者ニ伝送スヘキコト海牙ノ陸戰條約八一四
及四第三項ノ及赤十字條約八一四ノ共ニ認ムル所ナリ俾勇情報局ノ
是等ノ物件ヲ其ノ係者ニ伝送スルノ任務ヲ有ス

第五 開戦後領域内ニ入レル敵ノ私有財産

戰中中文戰團ノ領域内ニ入リ来ル敵ノ私有財産ニ付テ一報ニ行ハ
ルル國際條約中ニ明文ヲ欠クモ今日ニ於テハ開戦ノ際領域内ニ在ル
敵國人ノ私有財産モ没收シ得ヌ又敵地ニ在ル私有財産モ原則トシテ没收
シ得サルコトニ鑑ミレハ陸上ニ於ケル上述ノ財産ノ没收ヲ爲シ得テ
ルヲ認メサルヲ得ヌ但敵ノ軍用ニ使セラルルヲ得ヘキ種類ノ物件ノ
国外ニ出ワルヲ妨ケ得ヘキナリ又自己ノ軍事上ノ目的ノ爲ニ是等ノ
物件ヲ押收シテ使用スルコトヲ得ヘキナリ此押收ノ場合ニ於テハ平
和見復ノ際之ヲ還付シセカ賠償ヲ決定スヘキモノナルヘシ

第一章 陸二ニ於ケル攻江心及鐵條

第一 定義

陸戰ニ於ケル取立金トハ交戦國軍隊カ敵地ノ住民又ハ市区町村ニ
シテ徵收スル現金ノ支拂ナリ時ニ支拂ニセテ用ヒ敵地ニ於テ従軍敵國
カ徵收シ居タル租税、賦課金、通行税等ヲ侵入軍隊カ代リテ徵收ス
ル場合ヲ包含メテ取立金トシテコトナレルニハ陸戰條約四九參照ノ敵
地ノ意思ニ於ケル取立金ハ軍ノ需要又ハ占领地行政上ノ需要ノ爲メ
ニ占领軍隊カ殊ニ敵地ノ住民又ハ市区町村ヨリ徵收ナル現金ノ支拂
ナリトス
鐵條トハ交戦國ノ軍隊カ特ニ敵地ノ住民又ハ市区町村ヨリ其必要トス
ル物件ヲ徵收スルヲ謂フシ深後トハ一種ノ徵收ニシテ物件ヲ徵收セ
シテ其必要トスル場所ヲ人民ニ課スルモノナリ

戦時ニ於ケル取立金及徴収ハ沿革上ニ於テハ歐國人ノ私相財産ヲ
 掠奪スルノ秩序的ナル方法トシテ生シタルモノナリ回祭法ノ始メテ
 成リテ頃ニ於テハ文藝國ハ敵國ノ公私ノ財産ヲ没収シ私有財産ノ掠
 奪及荒蕪ヲ禁セサルノ慣例ナリシカモ十七世紀ノ末以後敵地ニ於ケル
 軍取ノ給養ハ此慣例ニ依ルトキハ却テ困難ナルコト明トナリ占領軍
 ノ利己也ニ基キ此嚴酷ナル慣例ハ漸ク緩和サレタリ當時法理論トシ
 テハ文藝國ノ公有財産ノミナラス私相財産ヲモ没収スルノ権利ヲ有
 スト被セラレタルニ拘ラス文藝國ハ斯ノ如キ権利ノ実行スルコトナ
 クトニ代ハテ侵入セシ地方ノ人民ニ對シテ取立金及徴収ヲ爲スニ主
 レリ文ニ取立金及徴収ハ其当初ニ於テハ掠奪ノ秩序的な方法ト爲改メ
 ニアラカレハ掠奪又ハ荒蕪ノ代償トシテ徴収セルモノト看做スヲ得
 ハキナリ然レトモ当初ニ於テハ文藝國ハ徴収セル物件ニ對シテ現金
 ヲ支払ハサルハ勿論取立金及徴収ニ對シテ領收証ヲ七年フルコトナ

キリシト、然レニ十九世紀ニ入りテ進歩ヲ遂ケンカ爲ノ且軍指揮官
 ノ前ニ既ニ他ノ指揮官ノ徴収セルヲ知ラスニテ過多ノ取立金又ハ徴
 収ノ高ニテ遊ケル時、取立金又ハ徴収ニ對シテ領收証ヲ年ハシ事例
 多ク存スルニ至リ又徴収ニ對シテ現金ヲ以テ支払ヲ爲セル事例ヲ存
 マリ十九世紀末ノ普通ノ実例ニ依レハ陸軍ニ於ケル取立金及徴収ハ
 占領軍ノ占領地ニ於テ之ヲ行フモノニシテ指揮官ノ取立金ニ對シテ
 ハ領收証ヲ年ハ徴収ニ對シテハ現金ヲ以テ支払ハサル場合ニハ領收
 証ヲ年ハ取立遊歩ヲ尚クト同時ニ講和ノ後自己ノ政府ヨリ賠償ヲ得
 ルノ便ニ供セリ然レトモ取立金及徴収ノ額ニ干シテハ制限ヲ定メテ
 ルルコトナカリシナリ然ルニ毎ノ陸軍條理ニ於テ徴収ニ関シテ之
 ノ賠償ヲ求ムルノ道ヲ私人又ハ市町村ニ年フル數自ラ以テ規定ヲ設
 ケ又取立金及徴収ノ徴収ニ干シテ期限ヲ設ケタルヨリ取立金及徴収
 ノ性質當初ニ比シテ全然其面目ヲ改メ秩序的掠奪又ハ掠奪若ハ荒蕪
 ノ代償タルノ性質ヲ失ハントス